

サトスル場合ニ於テ譲受人又ハ合併後存続スル會社若ハ合併ニ因リ設立スル會社引續キ索道事業ヲ經營セムトスルキハ譲渡又ハ合併ニ關スル契約書ノ際本、讓受後又ハ合併後ニ於ケル事業上ノ收支概算書及合併ニ因リ會社ヲ設立スルモノニ在リテハ其ノ定款ノ際本ヲ添ヘ當事者連署ノ上地方長官ノ許可ヲ受ケヘシ

前項ノ場合ニ於テ當事者法人又ハ組合ナルトキハ總會其ノ他相當機關ノ議事及決議ノ要領書又ハ社員若ハ組合員ノ同意書ノ際本、讓受クヘキ者索道事業者ニ非サル法人又ハ組合ナルトキハ定款及會社登記簿ノ際本又ハ組合契約書ノ際本ヲ添付スヘシ

第一項ノ許可ヲ受ケタルトキハ讓受人又ハ合併後存続スル會社若ハ合併ニ因リ設立スル會社ハ讓渡人又ハ合併ニ因リ消滅スル會社ノ本令ニ依リ有スル權利義務ヲ承繼ス

第二十七條 索道事業者ノ相續人引續キ索道事業ヲ經營セムトスルトキハ運滞ナク戸籍簿本ヲ添ヘ其ノ旨地方長官ニ届出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テハ相續人ハ被相續人カ本令ニ依リ有スル權利義務ヲ承繼ス

第二十八條 索道事業者ハ左ノ場合ニ於テハ運滞ナク其ノ旨地方長官ニ届出ツヘシ但シ第二號ノ場合ニ於テハ清算人、第八號ノ場合ニ於テハ後見人、第十號ノ場合ニ於テハ戸籍法第十七條ニ依ル届出義務者ヨリ之ヲ届出ツヘシ

- 一 法人設立ノ登記ヲ爲シ又ハ組合成立シタルトキ
二 法人又ハ組合解散シタルトキ
三 譲渡又ハ合併ヲ終了シタルトキ
四 工事ニ著手シ又ハ工事竣工シタルトキ

運送物ハ法令又ハ運輸規程ニ別段ノ定ナキ限り之ヲ受取リタル順序ニ依リ運送スヘシ

第三十三條 索道ノ運轉速度ハ一分時百五十米ヲ超ユルコトヲ得ス但シ地方長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十四條 第一種索道ニ據ル索道事業者ハ技術ニ關スル事項ヲ擔當セシムル爲主任技術者ヲ選任スヘシ但シ地方長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條 索道事業者ハ毎決算期後一月内ニ左ニ掲タル事項ヲ記載シタル報告書ニ通テ地方長官ニ提出スヘシ

- 一 當該決算期ノ事業ノ状況、収入及支出
二 當該決算期末現在ノ調査ニ依ル財産目録
決算期ノ定ナキモノニ在リテハ毎事業年度後一月内ニ前項ノ規定ニ準シ報告書ヲ提出スヘシ

第三十六條 索道事業者ハ工作物ノ故障、搬器ノ墜落、落貨其ノ他ノ事故アリタルトキハ地方長官ニ之ヲ届出ツヘシ

第三十七條 索道事業者ハ搬器及索條、支柱其ノ他ノ工作物ヲ完全ナル

- 五 事業ヲ開始、休止又ハ廢止シタルトキ
六 停留場ヲ開廢シタルトキ
七 法人又ハ組合ノ代表者ニ異動アリタルトキ
八 事業者禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
九 事業者死亡シタルトキ
十 前項第五號又ハ第六號ノ場合ニ於テハ索道事業者ハ其ノ旨停留場其ノ他ノ看易キ場所ニ揭示スヘシ

第二十九條 左ノ場合ニ於テハ索道事業經營ノ許可ハ其ノ効力ヲ失フ但シ第三號又ハ第四號ノ場合ニ於テハ天災事變其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ地方長官ノ認可ヲ受ケタルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 許可ヲ受ケタル者會社ノ發起人其ノ他法人ノ設立者ナルトキハ指定ノ期間内ニ法人設立ノ登記ヲ爲ササルトキ

二 指定ノ期間内ニ工事ニ著手シ又ハ工事竣工セサルトキ

三 工事竣工後一年以内又ハ使用認可證交付後六月以内ニ事業ヲ開始セサルトキ

四 引續キ六月以上事業ヲ休止シタルトキ

五 事業ノ全部ヲ廢止シタルトキ

第三十條 索道事業者ハ運輸規程ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキモ亦同シ

運輸規程ハ停留場其ノ他ノ看易キ場所ニ之ヲ揭示スヘシ

第三十一條 地方長官ハ公益上ノ必要アリト認ムルトキハ運輸規程ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第三十二條 索道事業者ハ正當ノ事由ナクシテ物又ハ旅客ノ運送ヲ拒ムコトヲ得ス

狀態ニ保持スヘシ

第三十八條 地方長官ハ必要ニ應ジ監督員ヲ派遣シテ工事又ハ設備ノ狀態ヲ監督セシムルコトヲ得

第三十九條 地方長官ハ公益上ノ必要アリト認ムルトキハ設備ノ變更、改築又ハ修繕ヲ命スルコトヲ得

第四十條 索道事業者本令又ハ本令ニ基ク命令若ハ處分ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ地方長官ハ索道事業經營ノ許可ノ全部若ハ一部ヲ取消シ又ハ運轉ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第四十一條 索道事業者索道ノ使用ヲ廢止シタルトキハ地方長官ノ指示スル所ニ從ヒ工作物ヲ撤去スヘシ索道事業經營ノ許可其ノ効力ヲ失ヒ又ハ取消サレタルトキモ亦同シ

第四十二條 第四條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケシテ索道事業ヲ經營シ又ハ其ノ目的ヲ以テ索道ヲ設備シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 索道事業者左ノ行爲ヲ爲シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 又ハ第二十三條ニ依リ認可ヲ受ケタル運轉速度若ハ機器ノ最大積載量 旅客運送ニ在リテハ定員ヲ超過シ又ハ機器ノ最小間隔ヲ短縮シテ運轉スルコト

第三十三條 第二項ノ規定ニ違反スルコト

物運搬用機器ニ人ヲ搭乗セシムルコト但シ索道ノ検査、修繕其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ搭乗セシメタル場合ヲ除ク

前三號ニ掲クルモノヲ除クノ外職務上ノ義務ニ違反シ又ハ之ヲ忘リ旅客又ハ公衆ニ危害ヲ醸ス虞アル行爲ヲ爲スコト

第四十二條 第四十四條ノ規定ハ公共團體カ索道事業ヲ經營スル場合ニ之ヲ適用セス

第四十七條 索道事業者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本令ノ罰則ハ之ヲ其ノ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十八條 索道事業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、雇人其ノ他ノ従業員カ其ノ事業ニ關シ爲シタル行爲ニ付自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第四十九條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外必要ナル事項ハ地方長官之ヲ定ム

第五十條 索道事業ノ用ニ供スルモノヲ除クノ外索道ヲ設備セムトスル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第五條乃至第二十五條、第二十七條、第二十八條第一項、第二十九條、第三十三條及第三十六條乃至第四十八條ノ規定ハ前項ノ索道ニ付之ヲ準用ス

第五十一條 本令ハ專用ニ供スル爲一構内ニ於テ設備スル索道及電氣力

蒸氣力、又ハ内燃力ヲ原動力トセサル索道ニ之ヲ適用セス但シ地方官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ定ムル所ニ依リ本令ノ全部又ハ一部ヲ之ニ適用スルコトヲ得

附則

第五十二條 本令ハ昭和二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五十三條 本令ニ依リ許可又ハ認可ヲ受クヘキ事項ニシテ本令施行ノ際現ニ存スルモノハ之ヲ本令ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

鐵道船舶通シ運送規則 (昭和五年三月二十六日)

第一條 鐵道ト通シ運送ヲ爲ス場合ニ於ケル船舶ニ依リ運送ニシテ鐵道營業法ノ適用ヲ受クヘキモノニ付テハ本令ノ定ムル所ニ依ル

前項ノ船舶ニ依リ運送ノ區間及其ノ運送業者ハ別表ノ通トス

第二條 要價額ノ表示料ハ左ノ割合ヲ超ユルコトヲ得ス

- 一 託送手荷物、貴重品 運送スヘキ區間百五十里以上ノ場合表示額金百 金七錢 金十五錢
- 二 動物 金千圓迄ニ付テハ 同 金三十錢 金五十錢
- 三 其ノ他ノ運送品 同 金四十錢 金六十錢

第三條 要價額ノ表示ナキ託送手荷物、貴重品又ハ動物ノ減失又ハ毀損ニ因ル損害ニ付船舶運送業者カ賠償ノ責任ニ付スヘキ場合ニ於テ支拂フヘキ金額ハ船舶運送業者ニ惡意又ハ重大ナル過失アル場合ヲ除クノ外左ノ額ヲ超ユルコトヲ得ス

- 一 託送手荷物 旅客一人ニ付 金百五十圓 但シ一口金百五十圓(容器荷造ヲ含ム)迄毎ニ
- 二 貴重品 一圓 圓ヲ最高額トス
- 三 動物 牛、馬 一頭ニ付 金百二十圓
- 猪、綿羊 同 金三十圓
- 豚、他ノ獸類 同 金二十圓
- 其ノ他ノ獸類 同 金十圓
- 獸類以外ノ動物 一疋(容器荷造ヲ含ム)迄毎ニ 金五十錢 但シ一口金五十圓ヲ最高額トス

第四條 引渡期間ハ左ノ各號ノ期間ヲ合算シタルモノトス

- 一 發送期間
- 二 輸送期間
- 三 陸揚期間

- 四 集配期間
- 五 接續期間
- 發送期間ハ左ノ各號ニ依ル
  - 一 毎日發航スル場合ニ於テハ託送手荷物又ハ運送品ヲ運送ノ爲受取リタル日及其ノ翌日ヲ以テ之ニ充ツ
  - 二 前號以外ノ場合ニ於テハ託送手荷物又ハ運送品ヲ運送ノ爲受取リタル日ヨリ起算シ次ノ發航日迄ノ日數ヲ以テ之ニ充ツ但シ次ノ發航日迄ノ日數カ前號ノ期間ニ滿タサルトキハ第二次ノ發航日迄ノ日數ヲ以テ之ニ充ツ
- 輸送期間ハ五十海里迄毎ニ一日トス
- 陸揚期間ハ船舶カ最後ノ運送機關タル場合ニ限り之ヲ設ケ一日トス
- 集配期間ハ船舶ノ發着所以外ノ場所ニ於テ託送手荷物又ハ運送品ノ受取又ハ引渡ヲ爲ス場合ニハ其ノ各ニ付一日トス
- 接續期間ハ船舶カ鐵道又ハ他ノ船舶ヨリ引繼ヲ受ケル場合ニハ第二項ノ規定ヲ準用シ、船舶カ鐵道又ハ他ノ船舶ニ引繼ヲ爲ス場合ニハ之ヲ一日トス
- 第五條 鐵道營業法第十三條第一項但書ノ準用ニ關シテハ船舶所有者カ船員其ノ他ノ使用人ノ輕過失ニ付其ノ責任ニ付セサル旨ノ特約ヲ爲シタル場合ニ於ケル商法第五百九十二條ノ適用ヲ妨ケサルモノトス
- 第六條 鐵道運輸規程第二十三條、第六十五條、第六十二條ノ二、第六十二條ノ三第二項乃至第四項、第六十二條ノ五第五項、第六項及第六十二條ノ六乃至第六十二條ノ八ノ規定ハ船舶ニ依リ運送ニ之ヲ準用ス

本令ハ昭和四年法律第三十八號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則

# 第四節 船舶

## 船舶法 (明治三十二年三月八日法律第四十六號)

【沿革】 明治三十八年三月法律第六八號改正

- 第一條 左ノ船舶ヲ以テ日本船舶トス
  - 一 日本ノ官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶
  - 二 日本臣民ノ所有ニ屬スル船舶
  - 三 日本ニ本店ヲ有スル商會社ニシテ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員、合資會社及ヒ株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全員、株式會社ニ在リテハ取締役ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶
  - 四 日本ニ主たる事務所ヲ有スル法人ニシテ其代表者ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶
- 第二條 日本船舶ニ非サレハ日本ノ國旗ヲ掲ケルコトヲ得ス
- 第三條 日本船舶ニ非サレハ不開港場ニ寄港シ又ハ日本各港ノ間ニ於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲スコトヲ得ス但法律若ハ條約ニ別段ノ定アルトキ海難若ハ捕獲ヲ避ケントスルトキ又ハ主務大臣ノ特許ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス
- 第四條 日本船舶ノ所有者ハ日本ニ船籍港ヲ定メ其船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スルコトヲ要ス

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

船籍港ヲ管轄スル管海官廳ハ其ノ管海官廳ニ船舶ノ積量ノ測度ヲ囑託スルコトヲ得

外國ニ於テ取得シタル船舶ヲ外國各港ノ間ニ於テ航行セシムルトキハ船舶所有者ハ日本ノ領事又ハ貿易事務官ニ其船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スルコトヲ得

第五條 日本船舶ノ所有者ハ登記ヲ爲シタル後船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ備ヘタル船舶原簿ニ登録ヲ爲スコトヲ要ス

前項ニ定メタル登録ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ船舶國籍證書ヲ交付スルコトヲ要ス

第六條 日本船舶ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ請受ケタル後ニ非サレハ日本ノ國旗ヲ掲ケ又ハ之ヲ航行セシムルコトヲ得ス

第七條 日本船舶ハ法令ノ定ムル所ニ從ヒ日本ノ國旗ヲ掲ケ且其名稱、船籍港、番號、積量、喫水ノ尺度其他ノ事項ヲ標示スルコトヲ要ス

第八條 日本船舶ノ名稱ハ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第九條 船舶所有者カ其船舶ヲ修繕シタル場合ニ於テ其積量ニ變更ヲ生シタルモノト認ムルトキハ遲滞ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ其船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スルコトヲ要ス

第十條 第四條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十一條 船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ變更ノ登録ヲ爲スコトヲ要ス

第十二條 船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ其書換ヲ申請スルコトヲ

要ス船籍證書カ毀損シタルトキ亦同シ  
 第十二條 船籍證書カ滅失シタルトキハ船籍所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ更ニ之ヲ請受クルコトヲ要ス  
 第十三條 日本船籍カ外國ノ港ニ碇泊スル間ニ於テ船籍證書カ滅失若クハ毀損シ又ハ之ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船長ハ其地ニ於テ假船籍證書ヲ請受クルコトヲ得  
 日本船籍カ外國ニ航行スル途中ニ於テ前項ノ事由カ生シタルトキハ船長ハ最初ニ到着シタル地ニ於テ假船籍證書ヲ請受クルコトヲ得  
 前二項ノ規定ニ從ヒテ假船籍證書ヲ請受クルコト能ハサルトキハ其後最初ニ到着シタル地ニ於テ之ヲ請受クルコトヲ得  
 第十四條 日本船籍カ滅失若クハ沈没シタルトキハ解散セラレタルトキ又ハ日本ノ國籍ヲ喪失シ若クハ第二十條ニ掲ケル船舶トナリタルトキハ船籍所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ抹消ノ登錄ヲ爲シ且運滞ナク船籍證書ヲ返還スルコトヲ要ス船舶ノ存否カ六箇月間分明ナラサルトキ亦同シ  
 前項ノ場合ニ於テ船舶所有者カ抹消ノ登錄ヲ爲ササルトキハ管海官廳ハ一箇月内ニ之ヲ爲スヘキコトヲ催告シ正當ノ理由ナクシテ尙其手續ヲ爲ササルトキハ職權ヲ以テ抹消ノ登錄ヲ爲スコトヲ得  
 第十五條 日本ニ於テ船舶ヲ取得シタル者カ其取得地ヲ管轄スル管海官廳ノ管轄区域内ニ船籍港ヲ定メサルトキハ其管海官廳ノ所在地ニ於テ假船籍證書ヲ請受クルコトヲ得  
 第十六條 外國ニ於テ船舶ヲ取得シタル者ハ其取得地ニ於テ假船籍證書ヲ請受クルコトヲ得  
 第十三條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十七條 外國ニ於テ交付スル假船籍證書ノ有効期間ハ一年ヲ超ルコトヲ得ス  
 日本ニ於テ交付スル假船籍證書ノ有効期間ハ六箇月ヲ超ユルコトヲ得ス  
 前二項ノ期間ヲ超ユルトキト雖モ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ船長ハ更ニ假船籍證書ヲ請受クルコトヲ得  
 第十八條 船舶カ船籍港ニ到着シタルトキハ假船籍證書ハ有効期間満了前ト雖モ其效力ヲ失フ  
 第十九條 第十一條乃至第十四條ノ規定ハ假船籍證書ニ之ヲ準用ス  
 第二十條 前十六條ノ規定ハ總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶及ヒ端舟其他構體ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ構體ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セス  
 第二十一條 前條ニ掲ケタル船舶ノ船籍及ヒ其積量ノ測定ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
 第二十二條 日本船舶ニ非スシテ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ掲ケタルトキハ船長ヲ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ情狀重キトキハ其船舶ヲ沒收ス但捕獲ヲ避ケントスル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ掲ケタルトキハ此限ニ在ラス  
 日本船舶カ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ國旗ニ非サル旗章ヲ掲ケタルトキ亦前項ニ同シ  
 第二十三條 第三條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處シ情狀重キトキハ其船舶ヲ沒收ス  
 第二十四條 官吏ヲ欺キ船舶原簿ニ不實ノ登錄ヲ爲サシメタル者ハ二月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ百圓以上千圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リテ處斷ス  
 第二十五條 第六條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第二十六條 第七條ノ規定ニ從ヒテ日本ノ國旗ヲ掲ケサルトキハ船長ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第二十七條 第七條ニ定メタル事項ヲ船舶ニ標示セサルトキ又ハ第八條乃至第十二條若クハ第十四條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第二十八條 第二十二條、第二十三條、第二十五條及ヒ第二十六條ノ規定ハ船長ニ代ハリテ職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス  
 第二十九條 第二十二條、第二十三條、第二十五條及ヒ第二十六條ニ定メタル罪ニ付テハ刑法數人共犯ノ例ヲ適用セス  
 第三十條 第二十七條ノ場合ニ於テ刑法第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ罪ヲ論スヘカラサルトキハ其法定代理人ヲ罰ス  
 第三十一條 第二十七條ノ規定ハ船舶管理人又ハ商會社其他ノ法人ノ代表者若クハ清算人ニ之ニ適用ス  
 第三十二條 管海官廳ノ事務ハ外國ニ在リテハ日本ノ領事又ハ貿易事務官之ヲ行フ

第三十五條 商法第五編ノ規定ハ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テセサルモ航海ノ用ニ供スル船舶ニ之ヲ準用ス但官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶ニ付テハ此限ニ在ラス  
 第三十六條 明治三年正月二十七日布告商船規則、同十二年第五號布告同年十九號布告、同十四年第十二號布告其他ノ法令ニシテ本法ノ規定ニ牴觸スルモノハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス  
 第三十七條 本法施行ノ際登簿船免狀又ハ船鑑札ヲ受有スル船舶ノ所有者カ本法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ請受クヘキトキハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ登錄ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ要ス  
 前項ノ規定ニ從ヒテ船舶國籍證書ヲ請受クルマテハ登簿船免狀又ハ船鑑札ハ船舶國籍證書ト同一ノ效力ヲ有ス  
 第三十八條 本法施行ノ際登簿船免狀ヲ受有スル船舶ノ所有者カ本法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ請受クヘキ場合ニ於テハ其假免狀ハ有効期間ノ滿了ニ至ルマテハ假船舶國籍證書ト同一ノ效力ヲ有ス但船舶カ船籍港ニ到着シタルトキハ此限ニ在ラス  
 登簿船免狀ノ有効期間力滿了シタルトキト雖モ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ船長ハ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得  
 第三十九條 第十四條ノ規定ハ本法施行前ニ同條ニ掲ケタル事由カ生シタルモ未ダ登簿船原簿ノ削除ヲ請ハサル場合ニ之ヲ準用ス但同條ニ定メタル二週間ノ期間ハ船舶所有者カ本法施行前ニ事實ヲ知リタルトキト雖モ其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス  
 本法施行前ニ踪跡ヲ失ヒタル船舶ニシテ未ダ登簿船原簿ノ削除ヲ請ハサルトキ亦同シ  
 前二項ノ規定ニ違反シタルトキハ船籍所有者ヲ五圓以上五百圓以下ノ

罰金ニ處ス

第三十條 本法施行前ヨリ存否カ分明ナラサル船舶ニシテ未タ舊法ノ期  
間カ經過セサルモノニ付テハ第十四條ニ定メタル六箇月ノ期間ハ本法  
施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第四十一條 本法ノ施行ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム  
附則 (明治三十八年三月法律第六八號)

船舶國籍證書ヲ受有スル日本船舶ニシテ本法施行前ニ第二十條ニ掲グル  
船舶トナリタルモノニ付テハ第十四條ニ定メタル二週間ノ期間ハ本法施  
行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

船舶法施行細則

(明治三十二年六月十二日  
海省令第二十四號)

【沿革】

明治三十八年三月第一五號、大正三年七月第一八號、同九年九月第四四號、同十年  
三月第六號、同十二年四月第五四號、同十四年十二月第九二號改正

第一章 總則

第一條 本則ニ於テ船舶ノ種類ト稱スル汽船帆船ノ別ヲ謂フ

機械力ヲ以テ運航スル裝置ヲ有スル船舶ハ蒸氣ヲ用ユルト否トニ拘ラ  
ズ之ヲ汽船ト看做ス

主トシテ帆ヲ以テ運航スル裝置ヲ有スル船舶ハ揚子ヲ有スルモノト雖  
モ之ヲ帆船ト看做ス

第二條 淺深船ハ推進器ヲ有セザレハ之ヲ船舶ト看做サス

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ハ噸數ヲ以テ積量ヲ表示スヘ  
シ

一 肋骨ヲ有スル船舶

二 機械力ヲ以テ運航スル裝置ヲ有スル船舶

三 日本形ニ非サル帆船ヲ有スル船舶  
前項ノ規定ニ該當セサル船舶ハ石數ヲ以テ積量ヲ表示スヘシ

第三條 船舶港ノ市町村ノ名稱ニ依ル但市制町村制ヲ施行セサル地方ニ  
在リテハ市町村ニ準スヘキ區畫ノ名稱ニ依ル

船舶港ト爲スヘキ市町村及之ニ準スヘキ區畫ハ船舶ノ航行シ得ヘキ水  
面ニ接シタルモノニ限ル

第四條 左ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ受有前ト  
雖モ最寄管海官廳ノ認可ヲ受ケ船舶ヲ航行セシムルコトヲ得

一 試運轉ノトキ

二 積量ノ測定ヲ受ケントスルトキ

三 正當ノ事由アルトキ

第五條 左ノ場合ニ於テハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ受有前ト  
雖モ船舶ニ國旗ヲ掲グルコトヲ得

一 祝日、大祭日但外國ノ祭日ニ付テハ其國ノ港ニ碇泊スル場合ニ  
限ル

二 前號ノ外觀意又ハ敬意ヲ表スルトキ

三 進水ノトキ

四 前條ノ規定ニ依リ船舶ヲ航行セシムルトキ

第六條 船舶ノ積量若クハ噸數ニ關スル事項又ハ其標示ヲ照査スル爲メ  
必要アリト認ムルトキハ検査官吏ハ何時ニテモ船舶ニ臨檢スルコトヲ  
得

第七條 本則ノ規定ニ依リ管海官廳ニ書類ヲ差出スヘキ場合ニ於テ代理  
人ヲ使用スルトキハ其權限ヲ證スル書面ヲ添付スヘシ

第二章 積量、測定

第八條 船舶法第四條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ測定ヲ申請セントスル  
者ハ附錄第一號書式ノ申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

管海官廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前項ノ申請書ノ外造船地、造  
船者、進水ノ年月及船舶ノ原名ヲ證スル書面ヲ差出サシムルコトヲ得

噸數約五百噸以上ニシテ旅客ヲ搭載セントスル船舶ニ付テハ管海官  
廳ハ前項ノ書面ノ外尙船體中心線縱截面圖及各甲板平面圖ヲ差出サシ  
ムルコトヲ得

第八條ノ二 前條ノ申請者カ支那ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有スル帝國  
法人ナルトキハ大正十四年勅令第三百二十七號(大正十四年法律第五

十二號支那ニ於ケル帝國法人ノ所有スル船舶等ニ關スル件施行ニ關ス  
ル勅令)第一條ノ規定ニ依ル領事官ノ認定ヲ受ケタルコトヲ證スル書  
面ヲ申請書ニ添付スルコトヲ要ス

第八條ノ三 船舶法第九條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ改測ヲ申請セント  
スル者ハ申請書ニ改測ヲ受ケントスル部分及改測ノ爲メ検査官吏ノ臨  
檢ヲ受ケントスル場所ヲ記載シ管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ

第八條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九條 積量ノ測定又ハ改測ハ船舶検査執行地ニ於テ之ヲ行フ但船舶ノ  
構造、航路ノ狀況又ハ其他ノ事由ニ依リ船舶ヲ検査執行地マテ航行セ  
シムルコト能ハサル場合ニ於テ管海官廳ノ認可ヲ得タルトキハ此限ニ  
在ラス

外國ニ於テ積量ノ測定又ハ改測ヲ行フ場所ハ當該官廳之ヲ指定ス

第十條 積量ノ測定又ハ改測ヲ申請スル者ハ測定又ハ改測ヲ受ケタルニ必  
要ナル準備ヲ爲スヘシ

第五編 通信、交通、電氣

第二章 交通

第十五條 (削除)

第二章 交通

第十六條 國籍ヲ取得スル目的ヲ以テ内國ニ於テ製造スル船舶ニ付テハ其竣工前ト雖モ最寄管海官廳ニ積量ノ部分測度ヲ申請スルコトヲ得第十條第十二條及第十二條ノ二第一項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リ船舶件名書ノ謄本ヲ申請書ニ交付スルトキハ同時ニ船舶積量測度表ノ謄本ヲ交付スヘシ  
前二項ノ規定ニ依リ船舶件名書及船舶積量測度表ノ謄本ヲ受ケタル者第八條ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ該謄本ヲ申請書ニ添付スヘシ

第三章 船舶ノ登録

第十七條 船舶法第五條第一項ノ規定ニ依リ船舶ノ登録ヲ爲スニハ申請書ニ登録ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

第十七條ノ二 管海官廳ハ前條ノ申請書ヲ受ケタルトキハ關係書類ヲ調査シ總噸數百噸以上ノ汽船及總噸數百噸以上ノ機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ左ノ事項ヲ船舶原簿ニ登録ス

- 一 番號
- 二 信號符字
- 三 種類
- 四 船名
- 五 船籍港
- 六 甲板ノ層數
- 七 船質
- 八 帆船ノ帆裝
- 九 量噸甲板上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル長
- 十 船體最廣部ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ外面ニ至ル幅

十一 長ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ舷側ニ於ケル上甲板梁ノ上面ニ至ル深

十二 總噸數

上甲板下ノ噸數 船尾樓ノ噸數  
上甲板上截圍シタル場所ノ噸數 甲板室ノ噸數  
船首樓ノ噸數 艙口ノ超過噸數  
船橋樓ノ噸數 機關室ノ噸數  
其他ノ場所ノ噸數

十三 控除噸數

船員常用室ノ噸數 帆船ノ帆庫ノ噸數  
荷足水艙ノ噸數 其他ノ場所ノ噸數

十四 登簿噸數

十五 汽機ノ種類及數

十六 推進器ノ種類及數

十七 造船地

十八 造船者

十九 進水ノ年月

二十 原名

二十一 所有者ノ氏名又ハ名稱、住所及共有ナルトキハ各共有者ノ持分

總噸數百噸未滿ノ汽船及前項ノ帆船以外ノ帆船ニシテ噸數ヲ以テ積量ヲ表示スルモノニ在リテハ前項第一號乃至第十一號第十四號乃至第十七號第十九號乃至第二十一號ノ事項及左ノ事項ヲ登録ス

一 總噸數

二 控除噸數

上甲板下ノ噸數 上甲板上截圍シタル場所ノ噸數  
船員常用室ノ噸數 其他ノ場所ノ噸數  
機關室ノ噸數

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ第一項第一號第三號乃至第五號第十七號第十九號乃至第二十一號ノ事項及左ノ事項ヲ登録ス

一 船首ノ内面ヨリ船尾ノ内面ニ至ル船底水平ノ長

二 船體最廣部ニ於テ外板ノ内面ヨリ内面ニ至ル幅

三 腰當梁ノ中央ニ於テ其上面ヨリ航ノ上面ニ至ル深

四 積石數

第十七條ノ三 前條ノ規定ニ依リ登録シタル信號符字ハ之ヲ官報ニ告示ス

第十八條 船舶ノ名稱ヲ變更セントスル者ハ其事由ヲ記載シタル申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

第十九條 管海官廳ニ於テ船舶ノ名稱ノ變更ヲ許可スルハ左ノ場合ニ限ル

- 一 前所有者ノ氏名、名稱又ハ之ト同一ト認ムヘキ名稱ヲ有スル船舶ヲ取得シタルトキ
  - 二 船舶ノ名稱ニ番號ヲ冠附シ又ハ冠附シタル番號ヲ變更若クハ削除スルトキ
  - 三 所有者ニ於テ船舶ノ名稱ノ爲メニ著シキ不便ヲ受ケルトキ
- 第二十條 甲管海官廳ノ管轄區域内ニ船籍港ヲ定メタル船舶ノ船籍港ヲ乙管海官廳ノ管轄區域内ニ變更スル場合ニハ甲管海官廳ニ變更ノ登録

ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ甲管海官廳ハ其船舶ニ關スル船舶原簿ノ謄本及其屬書類ヲ乙管海官廳ニ移送シ該船舶原簿ヲ閉鎖ス

船舶原簿ノ謄本ニハ現存セル登録ノミヲ謄寫ス

乙管海官廳ハ第二項ノ規定ニ依リ移送ヲ受ケタル謄本ニ依リ其船舶原簿ニ登録ヲ移ス

第二十一條 船籍港甲管海官廳ノ管轄區域内ヨリ乙管海官廳ノ管轄區域内ニ轉屬シタルトキハ管海官廳ハ申請ヲ待タス前條第二項乃至第四項ノ手續ヲ爲ス

第二十二條 第十七條ノ二第一項第三號第六號乃至第八號第十五號第十六號ノ事項ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テ變更ノ登録ヲ爲サントスル者ハ變更ニ係ル新舊事項ヲ申請書ニ列記シ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ

管海官廳ニ於テ前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ検査官吏ヲシテ船舶ニ臨檢シ附録第二號書式ニ準シ船舶件名書ヲ調製セシムヘシ但第二十三條

第二項ノ規定ニ依リ船舶所有者ヨリ申請書ニ臨檢報告書ヲ添付シテ差出シタルトキハ此限ニ在ラス

第二十三條 船籍港ヲ管轄スル管海官廳ノ管轄區域外ニ船舶ノ所在スル場合ニ於テ前條ノ登録ヲ爲サントスルトキハ船舶所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ臨檢ヲ申請シ臨檢報告書ヲ交付ヲ受ケタルコトヲ得

前項ノ臨檢報告書ハ前條第一項ノ申請書ニ之ヲ添付スヘシ

第二十四條 第十七條ノ二第一項第三號第六號第九號乃至第十六號第二

項各號又ハ第三項各號ノ事項ニ付第十二條ノ二第二項ノ通知ヲ受ケタル場合ニ於テ變更ノ登録ヲ爲サントスル者ハ變更ニ係ル新舊事項ヲ

請書ニ列記シ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ  
第二十五條 船舶所有者ノ變更アリタルトキハ新所有者ハ申請書ニ變更ノ事實ヲ證スル登記ノ謄本抄本又ハ登記簿添附シテ變更ノ登記ヲ申請スヘシ  
前項ノ規定ハ船舶所有者ノ氏名若クハ名稱、住所又ハ共有者ノ持分ノ變更アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十六條 行政區畫、其名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキハ船舶原簿ニ記載シタル行政區畫、其名稱又ハ地番號ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス又ハ其名稱ノ變更アリタルトキ亦同シ  
第二十七條 船舶法第十四條第一項ノ規定ニ依リ抹消ノ登録ヲ爲サントスル者ハ申請書ニ其事由ヲ記載シ抹消ノ登記ヲ爲シタルコトヲ證スル登記ノ謄本、抄本又ハ登記簿添附シテ船舶港ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ

前項ノ場合及船舶法第十四條第二項ノ規定ニ依リ職權ヲ以テ抹消ノ登録ヲ爲シタル場合ニ於テ管海官廳ハ其船舶原簿ヲ閉鎖ス  
第二十七條ノ二 船舶港ヲ管轄スル登記所ヨリ抹消ノ登記ヲ爲シタル旨ノ通知ナキ船舶ニ付船舶法第十四條第二項ノ規定ニ依リ職權ヲ以テ抹消ノ登録ヲ爲シタルトキハ當該管海官廳ハ遲滞ナク左ノ事項ヲ其登記所ニ通知スヘシ

一 船舶ノ種類、名稱及總噸數又ハ積石數  
二 船舶所有者ノ住所及氏名又ハ名稱  
三 抹消ノ登録ヲ爲シタル原因  
四 抹消ノ登録ヲ爲シタル年月日  
第二十八條 船舶所有者ニ於テ登録ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其旨ヲ疏名シ登録ノ訂正ヲ申請スヘシ

管海官廳ニ於テ登録ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ訂正シ其旨ヲ船舶所有者ニ通知スヘシ  
第二十九條 何人ト雖モ手数料ヲ納付シテ船舶原簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ申請シ又利害ノ關係アル部分ニ關リ船舶原簿ノ閱覽ヲ請求スルトト得  
第四十條 噸數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ標示スヘキ事項及其標示方法ハ左ノ如シ

第四十一條 本章ノ規定ニ依リ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ返還スヘキ場合ニ於テ之ヲ返還スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ疏明スヘシ  
船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ滅失シタルトキ又ハ之ヲ返還スヘキ場合ニ於テ返還セサルトキハ其無効ナルコトヲ官報ニ公告ス

ルトキハ其旨ヲ疏名シ登録ノ訂正ヲ申請スヘシ  
管海官廳ニ於テ登録ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ訂正シ其旨ヲ船舶所有者ニ通知スヘシ  
第二十九條 何人ト雖モ手数料ヲ納付シテ船舶原簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ申請シ又利害ノ關係アル部分ニ關リ船舶原簿ノ閱覽ヲ請求スルトト得  
第四十條 噸數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ標示スヘキ事項及其標示方法ハ左ノ如シ

第四十一條 本章ノ規定ニ依リ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ返還スヘキ場合ニ於テ之ヲ返還スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ疏明スヘシ  
船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ滅失シタルトキ又ハ之ヲ返還スヘキ場合ニ於テ返還セサルトキハ其無効ナルコトヲ官報ニ公告ス

第四十二條 船舶所有者ニ於テ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其旨ヲ訂正ヲ申請スヘシ  
管海官廳ニ於テ前項ノ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其旨ヲ船舶所有者ニ通知スヘシ  
第四十二條ノ二 船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ英譯書ヲ請受ケントスル者ハ最寄管海官廳ニ之ヲ申請スヘシ  
管海官廳ニ於テ前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ英譯書ヲ交付スヘシ  
英譯書ノ書式ハ別ニ之ヲ定ム

第四十三條 船舶ハ左ノ場合ニ於テ國旗ヲ後部ニ掲グヘシ  
一 帝國軍艦ヨリ要求セラレタルトキ  
二 帝國ノ燈臺又ハ海岸望樓ヨリ要求セラレタルトキ  
三 外國ノ港ヲ出入スルトキ  
四 外國貿易船帝國ノ港ヲ出入スルトキ  
五 法令ニ別段ノ定アルトキ  
第四十四條 噸數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ標示スヘキ事項及其標示方法ハ左ノ如シ

一 船首兩舷ノ外部ニ船名、船尾外部ノ見易キ所ニ船名及船籍港名ヲ

一 船首兩舷ノ外部ニ船名、船尾外部ノ見易キ所ニ船名及船籍港名ヲ

四吋以上ノ國字ヲ以テ記スルコト  
 二 中央ノ船梁ニ船名ノ番號、總噸數及登簿噸數ヲ彫刻シ又ハ其番號及噸數ヲ彫刻シタル板ヲ釘著スルコト  
 三 船首及船尾ノ外部兩側面ニ於テ喫水ヲ示ス爲メ船底ヨリ最大喫水線以上ニ至ルマテ一呎毎ニ六吋ノ羅馬數字又ハ亞刺比亞數字ヲ以テ其尺度ヲ記シ數字ノ下端ハ其數字ノ表示セル喫水線ト一致セシムルコト  
 四 登簿噸數ノ算定ニ付總噸數ヨリ控除シタル室及場所ニハ見易キ所ニ室名又ハ使用ノ目的ニ相當スル名稱ヲ記スルコト  
 特殊ノ構造ヲ有スル爲メ前項ノ規定ニ依リ難キ船舶ニ付テハ検査官吏ノ相當ト認ムル方法ニ依リ前項ノ事項ヲ標示スルコトヲ得  
 第四十五條 石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ハ前條ニ定メタル方法ニ依リ船尾ニ船名及船籍港名ヲ、船梁ニ船名ノ番號及積石數ヲ標示スヘシ  
 第四十六條 船舶ノ標示ハ明瞭ニシテ久ニ耐ユル方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ  
 第四十七條 標示スヘキ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滞ナク其標示ヲ改ムヘシ  
 第六章 登録税、手数料及旅費  
 第四十八條 登録税法ノ規定ニ從ヒ登録税ヲ納付スルニハ左ノ區別ニ依リ相當ノ收入印紙ヲ貼用シタル登録税納付書ヲ登録ノ申請書ニ添ヘテ差出スヘシ  
 一 第十七條ノ場合ニ於テハ登録税法第四條第一項第一號  
 二 船籍港以外ノ登録事項ノ變更ニ依リ登録税ヲ爲ス場合ニ於テハ登録税法第四條第一項第四號

三 第二十七條ノ場合ニ於テハ登録税法第四條第一項第三號  
 四 船籍港變更ノ場合ニ於テハ登録税法第四條第一項第二號  
 第四十九條 登録税法第四條第一項第四號ニ付テハ第十七條ノ二各號ノ事項ノ變更ヲ以テ每一箇トス  
 第五十條 登録税納付書ニハ船舶ノ名稱、總噸數又ハ積石數及税金額ヲ記載シ登録税法第四條第一項第四號ノ場合ニ於テハ變更ノ箇數ヲモ記載スヘシ  
 第五十條ノ二 船舶法第十四條第二項ノ規定ニ依リ職權ヲ以テ抹消ノ登録ヲ爲シタル場合ニ於テハ當該管海官廳ハ遲滞ナク左ノ事項ヲ船舶所有者ノ住所又ハ船舶管理人ノ住所、又ハ船舶管理人ノ住所ヲ管轄スル稅務署ニ通知スヘシ  
 一 船舶ノ種類、名稱及總噸數又ハ積石數  
 二 船舶所有者又ハ船舶管理人ノ住所、氏名又ハ名稱  
 三 抹消ノ登録ヲ爲シタル年月日  
 四 登録税額  
 第五十條ノ三 船舶法第四條又ハ同法第九條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ測定又ハ改測ヲ受ケタルトキハ船舶所有者ハ當該管海官廳ノ指定スル所ニ從ヒ附錄船舶積量測定手数料表ニ定ムル測定手数料ヲ納付スヘシ  
 申請人ノ都合ニ依リ測定ノ申請ヲ取下ケ又ハ船舶カ測定ヲ要セザルモノトナリタル場合ト雖測定著手後ナルトキハ測定手数料ヲ徵收ス改測ノ場合ニ付亦同シ  
 第五十條ノ四 前條ノ測定手数料ハ其金額ニ相當スル收入印紙ヲ測定手数料納付書ニ貼用シテ之ヲ納付スヘシ

前項ノ測定手数料納付書ニハ船舶ノ名稱、汽船、機關ヲ有スル帆船又ハ機關ヲ有セザル帆船ノ區別、總噸數、新規測定、全部改測又ハ一部改測ノ區別及手数料額ヲ記載スヘシ又一部改測ノ場合ニシテ量噸甲板下全部ノ改測ヲ受ケタルトキハ尙其ノ旨ヲモ附記スヘシ  
 第五十一條 左ノ場合ニ於テハ各號ニ相當スル手数料ヲ納付スヘシ  
 一 船舶原簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ申請スルトキ 一枚ニ付二十錢  
 二 船舶原簿ノ閱覽ヲ請求スルトキ 一回ニ付二十錢  
 三 汽船ノ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ交付、再交付又ハ書換ヲ受ケントスルトキ 二圓  
 四 前號ノ證書ノ英譯書ノ交付ヲ受ケントスルトキ 四圓  
 五 帆船ノ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ノ交付、再交付又ハ書換ヲ受ケントスルトキ 一圓  
 六 前號ノ證書ノ英譯書ノ交付ヲ受ケントスルトキ 二圓  
 前項ノ手数料ハ其金額ニ相當スル收入印紙ヲ第一號及第二號ノ場合ニ於テハ申請書ニ、第三號乃至第六號ノ場合ニ於テハ手数料納付書ニ貼用シテ之ヲ納付スヘシ  
 第五十二條 登録税又ハ手数料納付ノ爲メ書類ニ貼用シタル收入印紙ハ管海官廳ニ於テ消印ヲ爲スヘキモノトス但納付者ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ナシ  
 第五十三條 検査官吏カ船舶所有者ノ申請ニ依リ船舶検査執行地以外ニ出張スルトキハ船舶所有者ハ當該管海官廳ノ指定スル所ニ從ヒ検査官吏ノ出張ニ要スル成規ノ旅費ヲ納付スヘシ  
 船舶検査法施行細則第七十八條第一項又ハ船舶滿載吃水線法施行規則第四十一條第一項ノ場合ニ於テ出張シタル検査官吏ノ臨檢ヲ受ケタルト

キハ其旅費ハ相互ニ之ヲ通算ス  
 第五十三條ノ二 本則ノ規定ニ依ル手数料及旅費ハ官廳又ハ公共團體ニ對シテハ之ヲ徵收セス  
 第七章 罰則  
 第五十四條 本則ノ規定ニ依リ船舶國籍證書、假船舶國籍證書又ハ英譯書ヲ返還スヘキ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ其義務ヲ怠リタルトキハ船舶所有者ヲ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス  
 附則  
 第五十五條 本則ハ船舶法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
 第五十六條 明治二十六年(二月)逕信省令第三號、同年(三月)逕信省令第六號失除船取規則、同年(四月)逕信省令第八十五號及明治二十九年(四月)逕信省令第三號登簿船取規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス  
 第五十七條 船舶法施行ノ際登簿船免狀又ハ船鑑札ヲ受有スル船舶ニシテ船舶法ノ規定ニ依リ登録ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受ケヘキモノノ所有者ハ登録噸數十五噸以上又ハ積石數百五十石以上ノ船舶ニ付テハ船舶法施行ノ時始テ定期検査又ハ特別検査ヲ申請スルトキ當該検査官廳ニ、登録噸數十五噸未滿ノ汽船及検査ヲ要セザル船舶ニ付テハ船舶法施行ノ日ヨリ起算シ二箇年內ニ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ積量ノ測定ヲ申請スヘシ  
 前項ノ船舶ニシテ登簿船免狀又ハ船鑑札ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ前項ノ規定ニ拘ハラズ遲滞ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ前項ノ申請ヲ爲スヘシ  
 第五十八條 第十條及第十二條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス



前項ノ規定ニ依ル船舶臨檢シタル検査ハ、更ハ積量ノ測度ノ一部ヲ省略スルコトヲ得

第五十九條 前條ノ規定ニ依リ積量ノ測度ヲ受ケタル船舶ノ所有者ハ、運滞ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ登録及船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スヘシ

前項ノ申請ハ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル申請書ヲ差出シテ之ヲ爲スヘシ

一 船舶ノ番號、名稱及積量

二 船舶港

三 船舶共有者ニ在リテハ各共有者ノ住所、氏名又ハ名稱及持分

第六十條 前條ノ申請書ニハ左ニ掲クル書面ヲ添付スヘシ

一 登記ノ謄本

二 機械ヲ有スル船舶ニ在リテハ汽機及汽罐ノ製造者ニ於テ其製造ノ年月日ヲ證スル書面

三 船體札ヲ受有スル船舶ニ在リテハ當該地方官廳ニ於テ原名、製造地、進水ノ年月日及造船者ノ氏名又ハ名稱ヲ證スル書面

第六十一條 管海官廳ニ於テ第五十九條ノ申請ニ依リ登録ヲ爲ストキハ、登簿船免狀又ハ船體札ニ記載シタル製造年月ヲ以テ進水ノ年月日ト看做ス

第六十二條 登簿船免狀ヲ受有スル船舶ノ所有者船舶國籍證書ヲ請受ケタルトキハ、運滞ナク該免狀ヲ最寄管海官廳ニ返還スヘシ

第六十三條 第五十四條ノ罰則ハ前條ノ義務ヲ怠リタル船舶所有者ニ之ヲ適用ス

第六十四條 船舶法施行ノ際登簿船免狀又ハ船體札ヲ受有スル船舶ハ、登録ヲ了ルマテ第四十四條又ハ第四十五條ノ標示ヲ爲ササルコトヲ得

第六十五條 第四十條及第五十四條ノ規定ハ、船舶法施行ノ際受有スル船免狀ニ之ヲ準用ス

附則 (大正三年七月選信省令第一八號)

第一條 本令ハ大正三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 本令施行ノ際現ニ船舶原簿ニ登録シタル船舶港ニ付テハ第三條ノ規定ニ適合セザルモノト雖モ當該船舶力引續キ其地ニ船籍ヲ置ク場合ニ限リ從前ノ例ニ依ル

第三條 第十七條ノ二ノ規定ニ依リ登録ヲ爲スヘキ事項、第二十二條及第二十四條ノ規定ニ依リ變更ノ登録ヲ爲スヘキ事項並船舶件名書、船舶國籍證書及假船舶國籍證書ノ書式ハ船舶積量測度法第十二條ノ規定ニ依リ改測前ノ船舶ニ付テハ從前ノ例ニ依ル

第四條 本令公布前積量ノ測度又ハ改測ヲ申請シタル船舶ニ付テハ本令施行後其測度又ハ改測ヲ了リタル場合ニ於テモ第五十條ノ三ノ規定ニ依リ測度手数料ヲ徵收セス

第五條 船舶積量測度法第十二條ノ規定ニ依リ改測ニ依リ船舶國籍證書又ハ其英譯書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタル爲メ其書換ヲ申請スル場合ニ於テハ第五十一條ノ規定ニ依リ手数料ヲ徵收セス

第六條 前項ノ申請ト同時ニ船名、船籍港、所有者ノ氏名又ハ名稱、住所及持分以外ノ事項ノ變更ニ依リ船舶國籍證書又ハ其英譯書ノ書換ヲ申請スル場合ニ付亦前項ニ同シ

第六條 船舶積量測度法第十二條ノ規定ニ依リ改測ノ場合ニ於テ

ノ法人又ハ支那ニ住所ヲ有スル日本臣民ノ所有スルモノハ前項ノ規定ニ拘ラス支那ニ船籍港ヲ定ムルコトヲ得

第七條 船體札ヲ受有スヘキ船舶ノ所有者ハ第一號書式ノ船體札交付申請書ヲ船籍港ヲ管轄スル地方官廳ニ差出スヘシ

管海官廳、日本ノ領事館、貿易事務館其ノ他相當官廳ニ於テ積量ノ測度ヲ受ケタル船舶ニ付テハ前項ノ申請書ニ積量ニ關スル證明書ヲ添付スヘシ

第一項ノ申請者カ支那ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル帝國法人ナルトキハ大正十四年勅令第三百二十七號第一條ノ規定ニ依リ領事官ノ認定ヲ受ケタルコトヲ證明スル書面ヲ申請書ニ添付スヘシ

第三條 地方官廳ニ於テ前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ船舶ノ積量ノ測度スヘシ

但前條第二項ノ證明書ヲ差出シタルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第四條 地方官廳ニ於テ前條ノ規定ニ依リ船舶ノ積量ノ測度ヲ爲シタルトキ又ハ第二條第二項ノ規定ニ依リ差出シタル證明書ヲ適當ナリト認メタルトキハ第二號書式ノ船體札ヲ交付スヘシ

第四條ノ二 船體札ヲ受有スル船舶ハ船體外部ニ於テ船首兩舷ニ船名、船尾ノ見易キ所ニ船名ノ所屬道府縣名(支那ニ船籍港ヲ定メタル船舶ニ在リテハ船籍港ヲ管轄スル領事館ノ所在地名)及船體札番號ヲ標示スヘシ

特殊ノ構造ヲ有スル船舶ニシテ前項ノ規定ニ依リ難キモノニ付テハ當該官吏ノ相當ト認ムル方法ニ依リ前項ノ事項ヲ標示スルコトヲ得

前二項ノ標示ハ塗料ノ使用其ノ他久シキニ耐ユル方法ニ依リ高幅共四吋以上ノ文字ヲ以テ明瞭ニ之ヲ現ハシ船名及道府縣名又ハ領事館ノ所

在リテハ船籍港ヲ管轄スル領事館ノ所在地名)及船體札番號ヲ標示スヘシ

大正十四年勅令第三百二十七號(大正十四年法律第五十二號支那ニ於ケル帝國法人ノ所有スル船舶等ニ關スル件施行ニ關スル勅令)第一條

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

【沿革】 大正二年九月選信省令第八八號、第十一年六月同第三九號、十四年十二月同第九三號改正

第一條 總噸數二十噸未満又ハ積石數二百石未満ノ船舶ハ左ニ掲クルモノヲ除ク外日本ニ船籍港ヲ定メ船體札ヲ受有スヘシ

一 總噸數五噸未満又ハ積石數五十石未満ノ帆船

二 端舟其ノ他櫓ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓ヲ以テ運轉スル舟

大正十四年勅令第三百二十七號(大正十四年法律第五十二號支那ニ於ケル帝國法人ノ所有スル船舶等ニ關スル件施行ニ關スル勅令)第一條

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

八五

在地名ハ國字、船鑑札番號ハ亞刺比亞數字ト爲スヘシ但シ府縣名ヲ記  
ス場合ニ於テ「府」又ハ「縣」ノ文字ハ之ヲ省略スヘシ

標示スヘキ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ運滯ナク其ノ標示ヲ改ムヘシ  
第五條 船鑑札ハ船船ニ備置キ船長其ノ他船船ヲ指揮スル者之ヲ保管シ

當該官吏ニ於テ檢閲ヲ求ムルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス  
第六條 船鑑札ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキ又ハ船鑑札カ毀  
損シタルトキハ船船所有者ハ二週間内ニ事由ヲ疏明シ書換フ申請スヘシ

第二條第二項ノ規定ハ船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更カ積量ノ變更ニ  
係ル場合ニ之ヲ準用ス

船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更カ船船所有者ノ變更ニ係ルトキハ第一  
項ノ申請ハ新所有者ヨリ變更ノ事實ヲ證スル書面ヲ提出シテ之ヲ爲ス  
ヘシ

第二條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス  
第七條 船鑑札ニ記載シタル事項ノ變更カ積量ノ變更ニ係ルトキハ地方  
官廳ハ之ヲ改測ヲ爲スヘシ

第三條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス  
第八條 甲地方官廳ノ管轄區域内ニ船籍港ヲ定メタル船船ノ船籍港ヲ乙  
地方官廳ノ管轄區域内ニ變更スルトキハ船船所有者ハ二週間内ニ事由  
ヲ疏明シ甲地方官廳ニ轉籍ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ甲地方官廳ハ運滯ナク前項ノ申請書ニ船鑑札臺帳  
ノ謄本、積量ノ測度ニ關スル書類ヲ添附シテ其ノ旨乙地方官廳ニ通知  
スヘシ

第九條 行政區畫變更ノ爲メ船籍港カ甲地方官廳ノ管轄區域内ヨリ乙地  
方官廳ノ管轄區域内ニ轉屬シタルトキハ甲地方官廳ハ申請ヲ待タズ運

滯ナク船鑑札臺帳ノ謄本、積量ノ測度ニ關スル書類ヲ乙地方官廳ニ送  
付スヘシ

行政區畫、土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキハ船鑑札ニ記載  
シタル區畫、名稱又ハ番號ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス但前項  
ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十條 船鑑札カ滅失シタルトキハ船船所有者ハ二週間内ニ事由ヲ疏明  
シ再交付ヲ申請スヘシ

第十一條 地方官廳カ第六條若ハ前條ノ申請ヲ受ケタル場合、第八條第  
二項ノ通知ヲ受ケタル場合又ハ第九條第一項ノ規定ニ依リ船鑑札臺帳  
ノ謄本ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テ船鑑札ヲ交付スヘキモノト認ムル  
トキハ之ヲ船船所有者ニ交付スヘシ

第二十條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ船船所有者ハ二週間内ニ事由ヲ疏明  
シ船鑑札ヲ管轄地方官廳ニ返還スヘシ

一 船船カ滅失若ハ沈没シタルトキ又ハ解撤セラレタルトキ  
二 船船カ日本ノ國籍ヲ喪失シタルトキ又ハ船船ノ存否カ六箇月間分  
明ナラザルトキ

三 船船カ船籍法ノ規定ニ依リ船籍國籍證書ヲ受有スヘキモノトナリ  
タルトキ又ハ本則ノ規定ニ依リ船鑑札ヲ受有スルコトニ要セザルニ  
ト爲リタルトキ

前條ノ規定ニ依リ船鑑札ヲ交付ヲ受ケタルトキハ船船所有者ハ之ト引  
換ニ舊船鑑札ヲ管轄地方官廳ニ返還スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ船鑑札ヲ返還スルコト能ハザルトキハ其ノ事由ヲ  
疏明スヘシ

第十三條 船鑑札ヲ受有スヘキ船船ニ於テ船船檢査法ノ適用ヲ受ケルニ  
ノ罰金ニ處ス

ノ所有者ハ管海官廳ニ積量ノ測度又ハ改測ヲ申請スルコトヲ得  
第十四條 地方官廳又ハ管海官廳ハ隨時當該官吏ヲ船船ニ臨視セシメ必  
要アリト認ムルトキハ積量ノ改測又ハ標示ノ改訂ヲ爲サシムヘシ

第十五條 第一條、第四條ノ二、第五條、第六條第一項、第八條第一項第十  
條又ハ第一條ノ規定ニ違反シタルトキハ船船所有者ヲ二十五圓以下ノ  
罰金ニ處ス

第十五條ノ二 本令ニ於テ地方官廳ノ事務ニ支那ニ在リテハ日本ノ領事  
官之ヲ行フ

附則  
第十六條 本則ハ明治四十年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條 明治二十九年十二月選信省令第二十五號船鑑札規則ハ本則施  
行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十八條 本則施行ノ際現ニ船鑑札ヲ受有スル船船ノ所有者ハ本則施行  
ノ日ヨリ五箇年内ニ於テ地方官廳ノ定ムル期間内ニ更ニ船鑑札ノ交付  
ヲ申請シ現ニ受有スル船鑑札ヲ返還スヘシ

前項ノ期間内ト雖モ本則ノ規定ニ依リ船鑑札ノ書換又ハ再交付ヲ要ス  
ルトキハ運滯ナク前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第二條、第三條及第四條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條 本則施行ノ際現ニ受有スル船鑑札ハ本則ノ規定ニ從ヒ更ニ船  
鑑札ヲ受有スルニ至ルマテ本則ニ定ムル船鑑札ト同一ノ效力ヲ有ス

第二十條 第十二條ノ規定ノ本則施行前ニ同條ニ掲ケタル事由ヲ生シタ  
ルモ未ダ船鑑札ヲ返還セサル場合ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テ同條第  
一項ニ定ムル期間ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十一條 前條ノ規定ニ違反シタルトキハ船船所有者ヲ二十五圓以下  
ノ罰金ニ處ス

附則 (大正十一年六月選信省令第三九號)  
本令ハ大正十一年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ船鑑札ヲ受有セル船船ニ付テハ大正十一年十二月三十  
一日迄本令ノ施行ヲ猶豫ス

帝國ト關東州トノ間ニ通航スル船船  
ノ件 (明治三十九年八月三十一日)  
(勅令第二一三三六號)

帝國ト關東州トノ間ニ通航スル船船ハ開港ニ由リ出入スヘシ  
前項船船ノ開港出入ニ關スル手續ハ外國貿易船ノ例ニ依ル

附則  
本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

關東州ニ行ハルル命令ニ依ル日本船  
船ニ關スル件 (大正十四年四月二十日)  
(勅令第三百三十七號)

左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ除ク外關東長官ノ許可ヲ受ケシテ内  
地ト關東州外ノ地トノ間ニ於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲ス船船ハ關東州  
ニ行ハルル命令ニ依ル日本船船タルコトヲ得ス

一 内地、朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ於テ建造シタル船船  
二 外國ニ於テ建造シ一旦内地、朝鮮又ハ臺灣ニ輸入シタル船船  
三 關東州ニ主タル營業所ヲ有シ主トシテ關東州ニ出入スル物品又ハ  
旅客ノ運送ヲ爲ス海上運送業者ノ所有スル船船

關東長官第一項ノ許可ヲ與ヘムトスルトキハ選信大臣ニ協議スヘシ

年月日ニ於テ竣工シタル船舶ノ建造(又ハ修繕)ニ使用セラレタルコトヲ承認ス

年月日

管海官廳名印

- 一 番號ハ當該承認書ト同一ノモノヲ付スヘキモノトス
- 二 第四號中鐵鋼材ノ種類及數量ハ第六條第二項ニ依リ記載シ尙獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスルモノニハ綱質及製造者名ヲモ參考ノ爲附記スヘキモノトス

### 船舶検査法 (明治二十九年四月七日 法律第六十七號)

【沿革】 明治三十三年三月法律第五三號改正

第一條 日本船舶ハ左ニ記載スルモノヲ除クノ外此ノ法律ノ規定ニ依リ検査ヲ受ケヘシ

- 一 總噸數二十噸未満又ハ積石數二百石未満ノ帆船
- 二 端舟其ノ他櫓櫓ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓櫓ヲ以テ運轉スル舟

- 三 倉庫船、繫留船
- 四 平水航路ノミヲ航行スル帆船

第二條 (削除)

第三條 船舶ノ検査ハ船舶ヲ日本船舶トシテ初メテ航行ノ用ニ供スルトキ其ノ航行期間満了ノトキ及航行期間内特ニ必要アルトキ之ヲ行フ日本ノ国籍ヲ取得スル目的ヲ以テ日本ニ於テ製造スル船舶ノ所有者ハ其ノ製造中ト雖一部ノ検査ヲ申請スルコトヲ得

船舶検査證書若ハ假證書ニ旅客定員ノ記載ナキ船舶ニ旅客ヲ搭載シ又ハ該證書ニ記載シタル旅客定員ヲ超エテ旅客ヲ搭載シタルトキハ船長ヲ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪併發ノ例ヲ用キス

前條第二項ノ罰則ハ商會社ニ在テハ其ノ所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員取締役若ハ使用人ニ之ヲ適用ス前條第一項及第三項ノ罰則ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニモ之ヲ適用ス

第十二條 船舶ノ航路定限、航行期間、旅客定員及汽壓制限ニ關スル規程其ノ他此ノ法律ノ施行ニ必要ナル細則ハ逕信大臣之ヲ定ム

附則

第十三條 此法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ム

第十四條 明治十七年第三十號布告西洋形船舶検査規則ハ此ノ法律施行ノ目ヨリ廢止ス

第十五條 明治十七年第三十號布告西洋形船舶検査規則ニ依リ交付シタル船舶検査證書ハ其ノ有效期間満了マテ效力ヲ有ス

第十六條 此ノ法律施行ノ際現存スル積石數二百石以上ノ帆船ハ逕信大臣ノ定ムル順序ニ依リ漸次検査ヲ受ケルマテ船舶検査證書ヲ受有セスシテ航行ノ用ニ供スルコトヲ得

第十七條 左ニ掲ケル船舶ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ検査ヲ執行ス  
一 日本臣民ニ於テ借入レ日本各港ノ間又ハ日本ト外國トノ間ニ使用スル外國船舶

二 日本ノ沿岸又ハ湖川港内ノミヲ航行スル外國船舶  
三 日本各港ニ於テ旅客又ハ移住民ヲ搭載スル外人船舶

第十八條 地方長官ハ第一條各號ニ掲ケタル船舶ノ検査ニ關シ逕信大臣

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

第四條 船舶ノ航行期間ハ汽船ニ在テハ三箇月以上一箇年以内、帆船ニ在テハ六箇月以上三箇年以内トス

第五條 船舶ノ検査ハ其ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳之ヲ行フ逕信大臣ハ必要ト認ムル場合ニ限り前項ノ規程ニ依ラス特ニ検査官吏ヲ指定シテ船舶ノ検査ヲ行ハシムルコトヲ得

第六條 検査官吏船舶ヲ検査シ逕信大臣ノ定ムル検査規程ニ適合スルモノト認ムルトキハ本船ノ航路定限、旅客定員、汽壓制限及航行期間ヲ定メ管轄官廳ヨリ船舶検査證書ヲ交付スヘシ

第七條 検査ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ船長ニ於テ船舶検査證書ノ受有前ニ船舶ヲ航行ノ用ニ供セムトスルトキハ検査官吏ハ其ノ請求ニ依リ假證書ヲ交付シテ之ヲ許可スルコトヲ得

第八條 検査官吏ハ何時ニテモ船舶ニ監視シ若特ニ検査ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ其ノ航行ヲ停止スルコトヲ得

第九條 船舶ノ検査ニ對シ不服アル者ハ其ノ事由ヲ具シ逕信大臣ニ再検査ヲ申請スルコトヲ得

第十條 逕信大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外船舶検査證書若ハ假證書ヲ受有セスシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シ又ハ船舶検査證書若ハ假證書ニ記載スル船舶ノ航路定限、航行期間若ハ汽壓制限ヲ超エテ航行シ又ハ検査官吏ノ監視ヲ拒ミ若ハ航行停止ノ命ニ違背シ又ハ屬具ノ整備ヲ爲サスシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルトキハ船長ヲ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

偽詐ノ行爲ヲ以テ船舶検査證書若ハ假證書ヲ受ケタル者ノ罰亦前項ニ同シ

ノ認可ヲ受ケ必要ナル規程ヲ設ケルニトシテ

## 第五節 航海

### 遠洋航路補助法 (明治四十二年三月二十四日 法律第十五號)

第一條 主務大臣ハ帝國臣民又ハ帝國臣民ノミナシ社員若ハ株主トスル商會社ニシテ運送業ヲ營ム者ニ本法ニ依リ航海補助金ヲ支給シ五年以内ノ期間ヲ限リ左ノ遠洋航路ニ於テ定期航海ニ從事セシムルコトヲ得但シ補助金額及年限ニ付テハ帝國議會ノ協賛ヲ求ムヘシ

- 一 歐洲航路
- 二 北米航路
- 三 南米航路
- 四 澳洲航路

本法ニ於テ補助航海ト稱スルハ前項ニ依リ定期航海ヲ謂フ

第二條 補助航海ニ使用スル船舶ハ總噸數三千噸以上ニシテ一時間十二海里以上ノ速力ヲ有シ主務大臣ノ定ムル造船規程ニ合格シ且帝國船籍ニ登録シタル船舶十五年以上ノ鋼製汽船ニ限ル

船舶ノ速力ハ主務大臣ノ定ムル方法ニ依リ之ヲ算定ス

第三條 外國製造ノ船舶ハ補助航海ニ使用スルコトヲ得ス但シ帝國船籍ニ登録ノ際船齡五年以内ノ船舶ニシテ已ムヲ得サル事由ニ因リ其ノ使用ニ關シ主務大臣ノ認可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條 航海補助金ハ使用船舶總噸數一噸航海里數一千海里ニ付速力一時間十二海里ヲ有スルモノニ對シ五十錢以内、速力一時間一海里ヲ増

ス船ニ其ノ百分ノ十ヲ増シタル金額以内ニ於テ航路ノ狀況ニ應ジ之ヲ支給ス但シ船齡五年ヲ超ユル船舶ニ對シテハ一年毎ニ其ノ百分ノ五ヲ減ス

外國製造ノ船舶ニ對シテハ前項ノ規定ニ依リ支給スヘキ航海補助金ノ半額ヲ支給ス

特ニ主務大臣ノ認可ヲ得タル設計ニ依リ製造シタル船舶又ハ定期航海ノ開始後五年ヲ經過セサル航路ニ使用スル船舶ニ對シテハ前二項ノ規定ニ依リ支給スヘキ航海補助金ノ百分ノ二十五以内ヲ増給スルコトヲ得

航海補助金ノ算定ニ於テハ航海里數ハ各港間ノ最近航路ニ依リ一噸未満又ハ一海里未満ノ端數ハ之ヲ除算ス

第五條 補助航海ニ於ケル旅客、貨物ノ運賃ハ主務大臣ノ認可ヲ得テ之ヲ定ムヘシ

主務大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ種類ヲ指定シ旅客、貨物ノ運賃ヲ低減セシムルコトヲ得

第六條 補助航海ニ使用スル船舶ニハ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ郵便物及郵便用品ヲ無償ニ搭載シ無線電信ノ通信ニ關スル設備ヲ爲シ且通信事務又ハ航海觀察ノ爲主務大臣ノ派出スル吏員ヲ無償ニテ乗船セシムヘシ

第七條 補助航海ニ從事スル者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ定期航海ノ維持ニ必要ナル施設ヲ爲スヘシ

第八條 補助航海ニ從事スル者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ左ノ割合以内ニ於テ其ノ費用ヲ以テ航海修業生ヲ使用船舶ニ乗組マシムヘシ  
總噸數三千噸以上五千噸未満 四人

總噸 五十噸以上八千噸未満 五人  
總噸數八千噸以上 六人

第九條 補助航海ニ從事スル者ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ外國人ヲ其ノ本店若ハ支店ノ事務員又ハ使用船舶ノ職員ト爲スコトヲ得ス

外國ニ於テ死亡其ノ他已ムテ得サル事由ニ因リ使用船舶ノ職員ニ關員ヲ生シタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス之ヲ補フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ補助航海ニ從事スル者又ハ船長ヨリ直ニ主務大臣ノ許可ヲ請フヘシ

第十條 補助航海ニ從事スル者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ補助業航海ニ關スル收支計算書及營業狀況報告書ヲ提出スヘシ

主務大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ補助航海ニ從事スル者ノ本店、支店、代理店又ハ使用船舶ニ吏員ヲ派遣シ其收支計算及營業狀況ヲ監査セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ補助航海ニ從事スル者ハ當該吏員ノ求ムル所ニ從ヒ業務上一切ノ事項ヲ開申シ帳簿其ノ他一切ノ文書ヲ檢閱ニ供スヘシ

第十一條 主務大臣ハ相當ノ補償金額ヲ定メ補助航海ニ使用スル船舶ヲ公用ノ爲收用又ハ使用スルコトヲ得

補助航海ニ使用シタル船舶ニ付テハ最終ノ航海ヲ終リタル日ヨリ三年間仍前項ノ規定ヲ適用ス  
補償金額ニ對シ不服アル者ハ收用又ハ使用ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ通常裁判所ニ出願スルコトヲ得  
前項ノ出願ハ船舶ノ收用又ハ使用ヲ停止セス

及最終ノ航海ヲ終リタル日ヨリ三年間之ヲ外國人ニ讓渡シ、貸渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得但シ其ノ船舶ニ對シ支給シタル航海補助金ヲ償還シタルトキ、天災其ノ他ノ不可抗力ニ因リ航行ニ堪ヘサルトキ又ハ主務大臣ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 左ノ事項ハ主務大臣ノ定ム

一 補助航海ノ起點、終點及寄港地

二 使用船舶ノ數、總噸數、速力、船齡及代船ニ關スル事項

三 航海度數、航海日數及發著日時ニ關スル事項

四 航海補助金ノ支給方法

五 義務ノ不履行ニ基ク航海補助金ノ減給、停止、廢止、償還又ハ其ノ他ノ處分ニ關スル事項

第十四條 主務大臣ハ補助航海ニ從事スル者ノ義務ニ屬スル事項ニ付テハ直ニ其ノ代理人又ハ船長ニ命令ヲ下スコトヲ得

第十五條 第十一條ノ規定ニ依リ船舶ノ收用若ハ使用ヲ拒ミタル者又ハ第十二條ノ規定ニ違反シタル者ハ二百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ且當該船舶ニ對シ支給シタル航海補助金ニ相當スル金額ヲ償還セシム

前項償還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

第十六條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附則 第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

本法ハ明治四十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

航海獎勵法ハ之ヲ廢止ス但シ本法公布ノ際同法ニ依リ航海獎勵金ヲ受クル資格ヲ有スル船舶及同法ノ適用ヲ受クル爲製造中ノ船舶ニ關シテハ明

治四十七年九月三十日迄同法ニ依リ航海獎勵金ヲ受クルコトヲ得前項但書ノ規定ニ依リ航海獎勵金ヲ受ケタル船舶ニ對シテハ本法ニ依リ航海補助金ヲ支給セス  
明治三十二年九月三十日以前ニ於テ帝國船籍ニ登錄シタル外國製造ノ船舶ニ關シテハ第四條第二項ノ規定ヲ適用セス

海上衝突豫防法 (明治二十五年六月二十二日) 法律 第五五號

【沿革】 明治三十年四月法律第三號、三十九年四月法律第四號、大正十四年三月法律三八號改正

總則

本法ハ海洋ト海洋接觸ノ場所ト問ハス凡ソ航洋船ノ運航シ得ヘキ水上ニ於ケル船舶ニ適用ス

本法中汽船ト雖帆ヲ以テ運轉シ汽力ヲ用キサルトキハ帆船ト看做シ汽力ヲ用ウルトキハ船ヲ用ウルト用キサルトノ別ナク汽船ト看做スヘシ

本法中汽船トハ凡ソ機關ノ作用ニ因テ運轉スル船舶ヲ謂フ

本法中船舶航行中トハ碇泊若ハ繫留又ハ坐礁膠沙ニ非サル場合ヲ謂フ

本法中船燈ニ關シテ見得トハ晴天ノ暗夜ニ於テ認メ得ルヲ謂フ

第一條 船燈ニ關スル規定ハ天氣ノ如何ニ關セス日没ヨリ日出マテ必ス遵守スヘシ此ノ時間中ハ本法ニ定メタル船燈ノ外之ニ紛レ易キ燈ヲ掲クヘカラス

第二條 汽船ハ航行中必ス左ノ燈ヲ掲クヘシ  
一 前橋若ハ其ノ前面ニ於テ又ハ前橋ヲ具ヘサルトキハ本船ノ前方ニ

於テ船體上二十尺ヨリ低カラサル所ニ若船幅二十尺ヲ超ユルトキハ其ノ船幅ヨリ低カラサル所ニ亮明ノ白燈一箇ヲ掲グヘシ然レトモ船體上四十尺以上ノ所ニ掲クルヲ要セス此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鏡盤ノ二十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ左右舷外へ十點間ツツ即チ船ノ正首ヨリ各舷正横後ノ二點マテ及フヘキ様装置シ且少クモ五海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ウヘシ

二 右舷ニ綠燈ヲ掲グヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鏡盤ノ十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ船ノ正首ヨリ右舷正横後ノ二點マテ及フヘキ様装置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ウヘシ

三 左舷ニ紅燈ヲ掲グヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鏡盤ノ十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ船ノ正首ヨリ左舷正横後ノ二點マテ及フヘキ様装置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ウヘシ

四 本條第二項第三項ノ燈ニハ其ノ燈ヨリ前ニ少クモ三尺突出シタル隔板ヲ其ノ燈ノ内側ニ裝置シ右舷ノ射光ハ左舷ニアル船ヨリ左舷ノ紅光ハ右舷ニアル船ヨリ見得サル様ニ爲スヘシ

五 汽船航行中ハ本條第一項ニ規定シタル白燈ノ外ニ同種ノ白燈一箇ヲ増掲スルヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ其ノ兩燈ヲ龍骨線上前後ニ隔テ其ノ前燈ヲ後燈ヨリ少クモ十五尺下方ニ掲ケ其前後ノ距離ハ上下ノ距離ヨリモ多キヲ要ス

第三條 汽船他船ヲ引キテ航行スルトキハ兩舷燈ヲ掲クルノ外ニ白燈二箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ此ノ白燈ハ第二條第一項ノ白燈ト同一ノ構造ニシテ且同一ノ場所ニ掲クルヲ要ス然レトモ二燈以上

ヲ引キテ航行スルトキハ其ノ引キタル船ノ船尾ト最後ニ引カル船ノ船尾トノ距離六百尺以上ノ場合ニ於テハ右二箇ノ白燈ヨリ上方若ハ下方六尺ノ所ニ尙同種ノ白燈一箇ヲ増掲スヘシ

本條ノ引船ハ引カル船ノ操舵目標トシテ煙突若ハ後橋ノ後面へ小形ノ白燈一箇ヲ掲クルヲ得但シ此ノ白燈ハ本船正横ヨリ前面ニ見得サル様ニ爲スヲ要ス

第四條 事變ノ爲運轉自由ヲ得サル船ハ夜間ニアリテハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ト同一ノ高さニ於テ最易見得キ所ニ(汽船ナレハ其ノ白燈ノ代リニ)二箇ノ紅燈ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ此ノ紅燈ハ周回少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス及晝間ニアリテハ最易見得キ所ニ直徑二尺ノ黑球若クハ黑色ノ形象二箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ

海底電信線ノ布設又ハ引揚ニ從事スル船ハ夜間ニアリテハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ノ位置ニ於テ(汽船ナレハ其ノ白燈ノ代リニ)三箇ノ燈ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ但シ此ノ燈三箇ノ内上下ノ二箇ハ紅色中央ノ一箇ハ白色ニシテ周回少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス又晝間ニアリテハ最易見得キ所ニ直徑二尺以上ノ形象三箇ヲ上下少クモ六尺ヲ隔テ連掲シ其ノ上下ノ二箇ハ紅色球形ヲ用キ中央ノ一箇ハ白色圓形ヲ用フヘシ

本條ノ船船全ク運行セサルトキハ舷燈ヲ掲グヘカラス然レトモ運行スルトキハ必ス之ヲ掲グヘシ

本條規定ノ路及形象ハ運轉自由ヲ得スシテ他船ノ航路ヲ避クル能ハサルノ信號ト認ムヘシ

之レヲ規定ス

第五條 航行中ノ帆船及他船ニ引カレテ運行スル船ハ第二條第二項第三項ノ燈ヲ掲グヘシ決シテ同條第一項ノ白燈ヲ掲グヘカラス

第六條 小形船航行中天氣ノ模様ニ因リ綠紅ノ二舷燈ヲ掲ケ置キ難キトキハ何時ニテモ使用シ得ヘキ様點火シテ之ヲ手近カニ備ヘ置キ他船ノ汽船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ其ノ舷燈ヲ他船ヨリ最易見得キ様各舷ニ表示スヘシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ、紅光ハ右舷ヨリ見得ス且ツ成ルヘク各舷正横後ノ二點ヨリ後方へ見得サル様ニ爲スヲ要ス

此ノ綠紅ノ各舷ヲ間違ヒナク容易ニ取取フ爲綠燈ハ綠色紅燈ハ紅色ニテ外面ヲ塗り且適當ノ隔板ヲ備置クヘシ

第七條 續積量四十噸未滿ノ汽船續積量二十噸未滿ノ帆船及構欄ヲ以テ運轉スル船航行中ハ必スシモ第二條第一項第二項第三項ニ規定シタル燈ヲ掲クルヲ要セス然レトモ若シ之ヲ掲ケサルトキハ必ス左ノ規定ニ依ルヘシ

一 四十噸未滿ノ汽船

甲 船ノ前部又ハ煙突若クハ其ノ前面ニ於テ舷線上九尺ヨリ低カラス且最モ見得易キ所ニ第二條第一項ニ規定シタル構造裝置ニシテ少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ掲グヘシ

乙 第二條第二項第三項ニ規定シタル構造裝置ニシテ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ綠紅ノ二舷燈ヲ掲クルカ又ハ船首ヨリ各舷正横後ノ二點マテ右舷ハ綠色左舷ハ紅色ノ射光ヲ及スヘシ製造シタル兩色燈一箇ヲ掲グヘシ但シ此ノ燈ハ白燈ヨリ少クモ三尺下方ニ掲クルヲ要ス

二 汽艇ハ第一項甲ノ白燈ヲ舷線上九尺ノ所ヨリ下方ニ掲クルヲ得然レトモ其ノ白燈ハ乙ノ兩色燈ヨリ高キヲ要ス

三 二十噸未滿ノ帆船ハ帆ヲ用ウルト構欄ヲ用ウルトニ拘ハラス一面ハ綠色一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用キタル燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ他船ノ汽船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ之ヲ表示スヘシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得サル様ニ爲スヲ要ス

四 構欄ヲ以テ運轉スル船ハ構欄ヲ用ウルト帆ヲ用ウルトニ拘ハラス白色ノ燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ臨時之ヲ表示スヘシ

本條ノ諸船ハ第四條第一項及第十一條末項ノ燈ヲ掲クルニ及ハス

第八條 水先船水先業務ノ爲メ其ノ營業所ニアルトキハ他船ニ要スル燈ヲ表示セス周回ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ構欄ニ掲ケ且十五分ヲ超エサル短時ノ間隔ヲ以テ閃火一箇若ハ數箇ヲ發スヘシ

水先船ニハ點火シタル燈ヲ用意シ置キ他船ノ汽船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クトキハ我船ノ進行スル方向ヲ示ス爲メ短時ノ間隔ヲ以テ之ヲ表示スヘシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得サル様ニ爲スヲ要ス

水先人ヲ要招スル船ハ直付ケスヘキ水先船へ白燈ヲ構欄ニ掲クル代リニ臨時之ヲ表示シ又前項ノ燈ノ代リニ一面ハ綠色一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用キタル燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ前項ノ規定ニ依リ之ヲ使用スルヲ得

免許水先人ノ業務ニ專用スル水先汽船水先業務ノ爲メ其ノ營業所ニアリテ碇泊セサルトキハ第一項ノ規定ニ依リ水先船ニ要スル燈及閃火ノ

外ニ積燈ノ下方八尺ノ所ニ周回少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキ紅燈一箇ヲ掲シ且航行中ノ船舶ニ要スル舷燈ヲ掲クヘシ  
前項ノ水先汽船水先業務ノ爲メ其ノ營業所ニアリテ碇泊スルトキハ第一項ノ規定ニ依リ水先船ニ要スル燈及閃火ノ外ニ前項ノ規定ニ依リ紅燈ヲ掲スヘシ但シ舷燈ヲ掲クヘカラズ  
水先船其ノ營業所ニアルモ水先業務ニ從事セザルトキハ其ノ積量ニ相當スル他船ト同様ニ燈ヲ掲クヘシ

第九條

航行中ノ船舶ニ本條ニ規定アル場合ヲ除ク外其ノ積量ニ相當スル航行中ノ船舶ニ對シテ規定シタル燈ヲ掲クルカ又ハ之ヲ表示スヘシ  
一 無甲板船即チ全部張詰メタル甲板ニ因リテ海水ノ浸入ヲ防カサル船夜間漁業ニ從事スルニ當リ其ノ放出スル漁船ノ端ト本船トノ水平上ノ距離方百五十尺以内ナルトキハ周回ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ掲クヘシ  
無甲板船夜間漁業ニ從事スルニ當リ其ノ抽出スル漁具ノ端ト本船トノ水平上ノ距離方百五十尺ヲ超ユルトキハ周回ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ掲クヘシ且我船ノ他船ニ近寄リ行クトキ又ハ他船ノ我船ニ近寄リ來ルトキハ其ノ白燈ノ下方ニ少クモ三尺ヲ隔テ且漁具ノ結着シタル方向ニ於テ水平上少クモ五尺ヲ隔テ白燈一箇ヲ掲表スヘシ

二 第一ニ規定シタル無甲板船ヲ除ク外流シ網ヲ用キテ漁業ニ從事スル船舶ハ網ノ全部又ハ一部水中ニ投下シアル間ハ最も見得易キ所ニ白燈二箇ヲ掲クヘシ此ノ兩燈ハ上下ノ距離六尺ヨリ少カラズ十五尺ヨリ多カラズ且龍骨線ニテ測リタル前後ノ距離五尺ヨリ少カラズ十尺ヨリ多カラサル様其ノ一燈ヲ他燈ノ下方ニ裝置シ其ノ下燈ハ網ノ

方向ニ掲クヘシ此ノ兩燈ハ周回少クモ三海里ノ距離ヨリ見得ヘキモタルヲ要ス  
總積量二十噸未満ノ帆走漁船ハ地中海及日本國並韓國ノ沿海ニ於テハ必シモ兩燈中其ノ下燈ヲ掲クルヲ要セス然レトモ之ヲ掲ケザルトキハ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ同一ノ位置(網又ハ漁具ノ方向ニ於テ)ニ表示スヘシ

三 第一ニ規定シタル無甲板船ヲ除ク外延繩ヲ用キテ漁業ニ從事スルニ當リ延繩ヲ結着シ又ハ之ヲ曳入ルル船舶ニシテ碇泊セス又ハ第八ノ燈ヲ掲クヘシ其ノ延繩ヲ延ヘ又ハ曳繩ヲ用ウルモノハ其ノ船ノ種類ニ應ジ航行中ノ汽船又ハ帆船ニ對シテ規定シタル燈ヲ掲クヘシ  
總積量二十噸未満ノ帆走漁船ハ地中海及日本國並韓國ノ沿海ニ於テハ必シモ兩燈中其ノ下燈ヲ掲クルヲ要セス然レトモ之ヲ掲ケザルトキハ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ同一ノ位置(釣繩ノ方向ニ於テ)ニ表示スヘシ

四 打タセ網(總テ海底ニ漁具ヲ曳クモノヲ包含ス)ヲ用キテ漁業ニ從事スル船舶ハ左ノ規定ニ依ルヘシ  
甲 汽船ハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ノ位置ニ三色ノ燈籠一箇ヲ掲ケ尙其ノ下方六尺ヨリ少カラズ十二尺ヨリ多カラサル所ニ白燈ノ籠一箇ヲ掲表スヘシ此ノ三色燈ハ船ノ正首ヨリ左右各二點マテハ白色其レヨリ各舷正横後ノ二點マテ右舷ハ綠色左舷ハ紅色ノ射光ヲ及スヘク製造シ且裝置スルヲ要シ又白燈ハ常ニ不同ナル

參照)

九 霧中降雪其ノ他暴雨中流シ網ヲ打タセ網桁網又ハ延繩ヲ用キテ漁業ニ從事スル總積量二十噸以上ノ船舶ハ汽船ニアリテハ汽笛若ハ汽角帆船ニアリテハ號角ヲ用キ一分時ヨリ多カラサル間隔ヲ以テ一聲ヲ發シ之ニ續キテ號鐘ヲ鳴ラスヘシ總積量二十噸未満ノ漁船ハ必シモ此ノ信號ヲ爲スヲ要セス然レトモ之ヲ爲サザルトキハ一分時ヨリ多カラサル間隔ヲ以テ適宜其他ノ有效ナル音響信號ヲ爲スヘシ  
十 網延繩又ハ打タセ網ヲ用キテ漁業ニ從事スル船舶航行中晝間ニアリテハ最も見得易キ所ニ藍其ノ他ノ信號ヲ掲ケ近寄リ來ル他船ニ其ノ漁業中ナトルコトヲ表示スヘシ若シ碇泊中ノ船舶漁具ヲ投下セルトキハ他船ノ近寄リ來リタルトキ同様ノ信號ヲ他船ノ航過シ得ル舷側ニ於テ表示スヘシ

本條ニ依リ特ニ規定シタル燈ヲ掲ケ又之ヲ表示スルヲ要スル船舶ハ第四條第一項及第十一條末項ノ燈ヲ掲クルニ及ハス  
第十條 他船ニ追越サレムトスル船舶ハ他船ニ向テ船尾ヨリ白燈ヲ表示シ又ハ閃火ヲ發スヘシ  
本條ニ從テ表示スヘキ白燈ハ豫メ船尾ニ掲置クヲ得然レトモ此ノ燈ハ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノニシテ常ニ不同ナキ亮明ノ光ヲ發シ號鐘ノ十二點間ヲ照スヘク製造シ船ノ正後ヨリ左右ハ六點間宛射光ノ及フヘキ椽隔板ヲ裝置シ成ルヘク船燈ト同一ノ高さニ掲クヘシ  
第十一條 長サ百五十尺未満ノ船舶碇泊中ハ前方ノ最も見得易クシテ船體上ヨリ二十尺ヲ超エサル所ニ白燈一箇ヲ掲クヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ亮明ノ光ヲ發シ周回少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス

亮明ノ光ヲ發シテ周回ヲ照スヘク製造シタルモノタルヲ要ス  
乙 帆船ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ周回ヲ照スヘク製造シタル白色ノ燈籠一箇ヲ掲ケ且他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メ最も見得易キ所ニ白色ノ閃火又ハ炬火一箇ヲ表示スヘシ  
甲及乙ニ規定シタル諸燈ハ少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス  
五 桁網ヲ用キテ牡蠣採取ニ從事スル船舶其ノ他桁網ヲ用キテ漁業ニ從事スル船舶ハ打タセ網ヲ用キテ漁業ニ從事スル船舶ト同一ノ燈ヲ掲ケ及之ヲ表示スヘシ  
六 漁船ハ本條ニ規定シタル燈ヲ掲ケ及之ヲ表示スル外何時ニテモ閃火ヲ用キ且漁業用ノ燈火ヲ用ウルヲ得  
七 長サ百五十尺未満ノ漁船碇泊中ハ周回少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ掲クヘシ  
長サ百五十尺以上ノ漁船碇泊中ハ周回少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ掲ケ且第十一條ニ規定シタル白燈一箇ヲ掲表スヘシ  
長サ百五十尺未満ナルト百五十尺以上ナルトト間ハ碇泊中ノ漁船流網其ノ他ノ漁具ヲ結着シタルトキハ他船ノ我船ニ近寄リ來ルトキ碇泊燈ノ下方少クモ三尺ヲ隔テ且漁網其ノ他ノ漁具ノ方向ニ於テ水平上少クモ五尺ヲ隔テ白燈一箇ヲ掲表スヘシ  
八 漁船漁業ニ從事中漁具ノ岩礁其ノ他障礙物ニ觸著シタル爲メ停留スルトキハ晝間ニアリテハ第十一條ニ規定スル晝間信號ヲ引下シ夜間ニアリテハ碇泊船ト同一ノ燈ヲ表示シ又霧中降雪其ノ他暴雨中ハ碇泊船ニ對シテ規定シタル霧中信號ヲ爲スヘシ(第十五條第四項及末項

長サ百五十尺以上ノ船舶碇泊中ハ前方ノ最モ見得易クシテ船體上二十尺以上四十尺以下ノ所ニ前項ノ白燈一箇ヲ掲ケ且船尾若クハ其ノ最寄ニ於テ前方ノ燈ヨリ少クモ十五尺下方ニ同種ノ白燈一箇ヲ掲ケヘシ

本條船舶ノ長サハ本船舶證書面ノ長サニ依ルヘシ  
船舶若クハ其ノ最寄ニ於テ乗揚ケタル船舶ハ本條白燈ノ外尙第四條第一項ニ規定シタル紅燈二箇ヲ掲ケヘシ

第十二條 各船他船ノ注意ヲ喚起スル爲必要ナリトスルトキハ本法ニ規定シタル船燈ノ外尙閃火ヲ發シ或ハ雜船信號ト混同セサル爆裂信號ヲ發スルヲ得

第十三條 本法船燈ノ規定ハ二級以上ノ軍艦又ハ軍艦ニ護送セララル船舶ニ増掲スル列位燈及信號燈ニ關シ各國政府ニ於テ特ニ制定シタル規則ノ施行ヲ妨ケス又船舶所有主ニ於テ其ノ國政府ノ許可ヲ受ケ登簿公告ノ手續ヲ經テ私用スル識別信號ノ使用ヲ妨ケス

第十四條 汽船晝間ニ帆ノミヲ以テ運轉スルモ其ノ烟突ヲ引下ケサルトキハ前方ノ最モ見得易キ所ニ直徑二尺ノ黑球若クハ黑色形象一箇ヲ掲ケヘシ

霧中信號  
第十五條 航行中ノ船舶ニ關シ本條ニ規定シタル信號ヲ爲スニハ左ノ信號器ヲ用ウヘシ  
汽船ハ汽笛若クハ汽角  
帆船及他船ニ引カレテ運行スル船舶ハ霧中號角  
本條中長聲トハ四秒乃至六秒時間ノ發聲ヲ謂フ

汽船ハ汽力其ノ他之ニ代用スヘキモノニ因リ發聲スル適當ノ汽笛若クハ汽角ヲ音響ノ妨害物ナキ所ニ裝置シ且號鐘及機關ノ作用ニ因リ發聲

第十六條 霧中降雪其ノ他暴雨中ハ各船現時ノ狀況ニ注意シ適度ノ速力ヲ以テ進行スヘシ

汽船其ノ正横ヨリ前面ニ方リテ他船ノ霧中信號ヲ聞キ其ノ所在ヲ定メ得サルトキハ成ルヘク機關ノ運轉ヲ止メ全ク衝突ノ虞ナキニ至ルマテ其ノ運航ニ注意スヘシ

航方

衝突ノ危險ハ其ノ現況ニヨリ我船ニ近寄り來ル他船ノ方位ヲ看守シテ之ヲ豫知スルヲ得若其方位儘ニ變更スルヲ認メサルトキハ危險ナルモノト知ルヘシ

第十七條 二級ノ帆船互ニ近寄りテ衝突ノ虞アルトキハ其ノ一船ヨリ左ノ如ク他船ノ航路ヲ避ケヘシ

一 一杯ニ開カサル船ハ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避ケヘシ  
二 左舷ニ一杯ニ開キタル船ハ右舷ニ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避ケヘシ

三 一杯ニ開カサル二級ノ船、風ヲ受クル船同シカラサルトキハ左舷ニ風ヲ受ケタル船ヨリ他船ノ航路ヲ避ケヘシ

四 一杯ニ開カサル二級ノ船、風ヲ受クル船同シキトキハ風上ノ船ヨリ風下ノ船ノ航路ヲ避ケヘシ

五 船尾ヨリ風ヲ受ケタル船ハ他船ノ航路ヲ避ケヘシ

第十八條 二級ノ汽船正シク眞向又ハ幾ント眞向ニ行進フテ衝突ノ虞アルトキハ兩船トモ航路ヲ右舷ニ轉シ互ニ他船ノ左舷ノ方ヲ行進スヘシ  
本條ハ兩船正シク眞向又ハ幾ント眞向ニ行進フテ衝突ノ虞アルトキニ限り適用スヘシ兩船各々其ノ航路ヲ保チテ互ニ替リ行クトキニハ適用スヘカラス

スル適當ノ霧中號角ヲ備フヘシ又總積量二十噸以上ノ帆船ハ汽船同様ノ號鐘及霧中號角ヲ備フヘシ  
霧中降雪其ノ他暴雨中ハ晝夜ノ別ナク左ノ各項ニ規定シタル信號ヲ爲スヘシ

一 汽船航行中ハ二分時ヨリ多カラサル間隔ヲ以テ長聲ヲ一發スヘシ  
二 汽船航行中運轉ヲ止テ速力ヲ有タサルトキハ二分時ヨリ多カラサル間隔ヲ以テ長聲ヲ二發スヘシ但シ其ノ二發ノ間隔ハ大約一秒時タルヲ要ス

三 帆船航行中ハ一分時ヨリ多カラサル間隔ヲ以テ右舷開ナレハ一聲ヲ發シ左舷開ナレハ二聲ヲ連發シ船ノ正横後ニ風ヲ受ケタルトキハ三聲ヲ連發スヘシ

四 船舶碇泊中ハ一分時ヨリ多カラサル間隔ヲ以テ大約五秒時間間シク號鐘ヲ鳴ラスヘシ

五 他船ヲ引キテ運航スル船舶、海底電信線ノ布設若ハ引揚ニ從事スル船舶及航行中運轉自由ヲ得スシテ近寄り來ル他船ノ航路ヲ避ケ能ハサルカ又ハ本法ニ遵テ運轉シ能ハサル船舶ハ本條第一項及第三項ニ規定シタル信號ノ代リニ二分時ヨリ多カラサル間隔ヲ以テ三聲ヲ連發シ即チ長聲ヲ一發シタル後直チニ短聲ヲ二發スヘシ又他船ニ引カレテ運航スル船舶モ此ノ信號ヲ爲スハ妨ナシト雖他ノ信號ヲ爲スヘカラス  
總積量二十噸未滿ノ帆船ハ必ハシモ前數項ニ規定シタル信號ヲ爲スヲ要セス然レトモ其信號ヲ爲ササルトキハ一分時ヨリ多カラサル間隔ヲ以テ適宜他ノ音響信號ヲ爲スヘシ

霧中速力

本條ヲ應用スヘキ場合ハ兩船共ニ正シク眞向又ハ幾ント眞向ニ行進セタルトキ即チ晝間ニアリテハ我船ノ橋ト他船ノ橋ト一直線又ハ幾ント一直線ニ見ユルトキ夜間ニアリテハ互ニ他船ノ兩舷燈ヲ見ルトキニ限ルヘシ

本條ハ晝間他船ノ我航路ヲ横切リテ我船ノ前面ニ見ユルトキ又ハ夜間我船ノ紅燈他船ノ紅燈ニ對シ或ハ我船ノ綠燈ニ對スルトキ又ハ我船ノ前面ニ綠燈ヲ見スシテ紅燈ヲ見或ハ紅燈ヲ見スシテ綠燈ヲ見ルトキ又ハ綠紅ノ兩燈ヲ我船ノ前面ヨリ他ノ位置ニ見ルトキハ適用スヘカラス

第十九條 二級ノ汽船互ニ航路ヲ横切リ衝突ノ虞アルトキハ他船ヲ右舷ニ見ル船ヨリ他船ノ航路ヲ避ケヘシ

第二十條 帆船ト汽船ト互ニ近寄りテ衝突ノ虞アルトキハ汽船ハ帆船ノ航路ヲ避ケヘシ

第二十一條 本法航方ニ依リ二船ノ内一船ヨリ他船ノ航路ヲ避ケルトキハ他船ニ於テ其ノ航路及速力ヲ保ツヘシ  
但シ他船ニ於テ天氣密濛又ハ其ノ他ノ事故ニ因リ航路ヲ避ケル船ノ位置ノミニテハ衝突ヲ避ケ能ハサル程兩船接近シタルコトヲ認ムルトキハ自ら亦臨機衝突ヲ避ケルニ至當ノ處置ヲ爲スヘシ

第二十二條 本法航方ニ依リ他船ノ航路ヲ避ケヘキ船ハ成ルヘク他船ノ前面ヲ横切ルヘカラス

第二十三條 本法航方ニ依リ他船ノ航路ヲ避ケヘキ汽船ハ他船ニ近寄りタルトキ時宜ニ應シテ速力ヲ緩メ船ハ運轉ヲ止メ又ハ後退スヘシ

第二十四條 總テ他船ヲ追越ス船ハ本法航方中前數條ノ規定ニ拘ハラス他船ノ航路ヲ避ケヘシ  
總テ他船ノ兩舷正横後ノ二點以外即チ夜間ニアリテハ舷燈ヲ見難キ位

置ヨリ其ノ船ヲ追越サントスル船舶ハ之ヲ追越船ト爲シ其ノ後兩船ノ位置ニ變更ヲ來スモ其ノ追越船ヲ以テ本法ノ航路横切船ト爲サス故ニ其ノ船ハ他船ヲ全ク追越シ了ルマテ他船ノ航路ヲ避クヘキモノトス  
 其間他船ヲ追越サントスル船舶ニシテ前項ニ記載シタル方位ノ内外ヲ辨知シ難キモノハ本船ヲ追越船ト看做シテ他船ノ航路ヲ避クヘシ  
 第二十五條 汽船狹隘ノ水道ニ於テ無難ニ通航シ得ルトキハ其ノ中流ノ右側即チ本船ノ右舷ニ當ル方ヲ航行スヘシ  
 第二十六條 航行中ノ帆船ハ網或ハ繩ヲ用キテ漁業ニ從事スル帆船ノ航路ヲ避クヘシ但漁船ト雖モ他船ノ通航スヘキ線路ヲ妨クヘカラス  
 第二十七條 本法ヲ履行スルニ當リ運航及衝突ニ關シ百航ノ危險ニ注意スルハ勿論若危險切迫シテ本法ヲ履行シ能ハサル特殊ノ場合ニ於テハ其危險ヲ避クル爲臨機ノ處置ヲ爲スコトニ注意スヘシ

航路信號

第二十八條 本條中短聲トハ大約一秒時間ノ發聲ヲ謂フ  
 航行中ノ汽船他船ニ近寄り航路ヲ變セムトスルトキハ汽笛若ハ汽角ヲ以テ左ノ信號ヲ爲シ他船ニ我船ノ航路ヲ通知スヘシ  
 短聲一發 我船航路ヲ右舷ニ取ル  
 短聲二發 我船航路ヲ左舷ニ取ル  
 短聲三發 我船全速力ニテ後退ス

懈怠ノ責

第二十九條 本法ハ點燈、信號又ハ見張ノ怠リ其ノ他海員ノ當務又ハ臨機ノ處置ニ必要ナル注意ノ怠リヨリ生シタル結果ニ付船、船主、船長、海員ヲシテ其ノ責ヲ免レシメサルモノトス

特例

第三十條 本法ハ行政官廳ニ於テ規定シタル港、川其ノ他内海ノ運航ニ關スル特別規則ノ施行ヲ妨ケス

難船信號

第三十一條 危險ニ罹リテ他船又ハ陸地ヨリ救助ヲ要スル船舶ハ左ノ信號ヲ同時又ハ別々ニ使用スヘシ

晝間信號

- 一 大約一分時ノ間隔ヲ以テ砲又ハ其ノ他ノ爆裂發火信號ヲ一發ス
- 二 萬國船舶信號書ニ記載スルNCノ難船信號ヲ表示ス
- 三 方形旗ノ上又ハ下ニ球若クハ之ニ類似ノモノヲ掲グル遠隔信號ヲ表示ス
- 四 霧中信號器ヲ以テ間斷ナク音聲ヲ發ス

夜間信號

- 一 大約一分時ノ間隔ヲ以テ砲又ハ其ノ他ノ爆裂發火信號ヲ一發ス
- 二 船上ノ發煙(モリタ桶、油樽等)
- 三 星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭ヲ一次一發ツツ度々打揚グ
- 四 霧中信號器ヲ以テ間斷ナク音聲ヲ發ス

附則

第三十二條 本法中船舶積量噸數ニ關シ日本形船ハ十石ヲ以テ一噸ニ通算ス  
 第三十三條 本法ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行ス  
 第三十四條 明治十三年(七月)第三十五號布告海上衝突豫防規則同十四年(五月)第三十三號布告同規則追加同十八年(八月)第二十七號布告同規則改正追加法ハ施行ノ日ヨリ廢止ス

第六節 船員

船員法 (明治三十二年三月八日法律第四十七號)

第一章 總則

第二章 船員手帳

第三章 船長

第四章 海員

第五章 紀律

第六章 罰則

附則

船員法

第一章 總則

第一條 本法ハ日本船舶ノ船員ニ之ヲ適用ス但湖川、港灣ノミヲ航行スル船舶又ハ船舶法第二十條ニ掲ケタル船舶ノ船員ニ付テハ此限ニ在ラス

第二條 本法ニ於テ船員トハ船長及ヒ海員ヲ謂ヒ海員トハ船長以外ノ一切ノ乗組員ヲ謂フ

第二章 船員手帳

第三條 日本ニ於テ船員ト爲ラント欲スル者ハ管海官廳ニ船員手帳ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス  
 申請人ハ戶籍吏ノ書面其他ノ公正證書ニ依リテ左ノ事項ヲ證スルコトヲ要ス但申請人カ其本籍地又ハ寄留地ニ於テ申請ヲ爲ス場合ニ於テ其

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

地ノ管海官廳カ戶籍吏ノ職務ヲ行フトキハ此限ニ在ラス

一 氏名

二 本籍地

三 身分

四 出生ノ年月日

第四條 未成年者カ船員ト爲ルニハ其法定代理人ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

未成年者カ船員手帳ノ交付ヲ申請スルニハ前條第二項ニ掲ケタル事項ノ外前項ノ許可ヲ得タル旨ヲ證スルコトヲ要ス

第五條 船員ト爲ルコトヲ許サレタル未成年者ハ雇傭契約ニ關シテハ成年者ト同一ノ能力ヲ有ス

第六條 外國ニ於テ船員ト爲リタル者カ日本ニ到着シタルトキハ其到着ノ日ヨリ一箇月内ニ船員手帳ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス

第七條 船員手帳ニ記載シタル事項ニシテ第三條第二項ニ掲ケタルモノニ錯誤アリタルトキ又ハ同條第二項第一號乃至第三號ニ掲ケタルモノニ變更ヲ生シタルトキハ船員ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ一箇月内ニ管海官廳ニ船員手帳ノ訂正ヲ申請スルコトヲ要ス

船員カ日本ニ在ラサル間ニ於テ錯誤又ハ變更ノ事實ヲ知リタルトキハ前項ノ期間ハ其船員カ日本ニ到着シタル日ヨリ之ヲ起算ス

第八條 第三條第二項及ヒ第四條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九條 船員手帳カ滅失シタルトキハ船員ハ遲滞ナク更ニ其交付ヲ申請スルコトヲ要ス

船員手帳カ毀損シタルトキハ船員ハ遲滞ナク其書換ヲ申請スルコトヲ要ス



第十條 船員カ日本ニ在ラサル間ニ於テ船員手帳カ滅失又ハ毀損シタルトキハ船員カ日本ニ到着シタル後遅滞ナク船員手帳ノ交付又ハ書換ヲ申請スルコトヲ要ス

第十一條 第三條第二項及ヒ第四條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス但原管海官廳ニ船員手帳ノ交付又ハ書換ヲ申請スルトキハ此限ニ在ラズ

第十二條 船員カ廢業ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク管海官廳ニ其船員手帳ヲ返還スルコトヲ要ス  
船員カ死亡シタルトキハ其船員手帳ヲ保管スル者之ヲ返還スルコトヲ要ス

第三章 船長

第十三條 船長ハ海員ヲ指揮、監督シ及ヒ船中ニ在ル者ニ對シ其職務ヲ行フニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十四條 船長ハ管海官廳ノ命令アリタルトキハ商法第五百六十二條第一項ニ掲ケタル書類ヲ提出スルコトヲ要ス

第十五條 船舶カ灣港ヲ出入スルトキ、狹隘ナル水路ヲ通過スルトキ其他危險ノ虞アルトキハ船長ハ甲板ニ在リテ自ラ船舶ヲ指揮スルコトヲ要ス

第十六條 日本ト外國トノ間又ハ外國各港ノ間ヲ航行スル船舶カ外國ノ港ニ入港シ又ハ日本ニ到着シタルトキハ船長ハ二十四時間内ニ其港ノ管海官廳、若シ其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ航海日誌ヲ提出シテ其檢閲ヲ受クルコトヲ要ス  
前項ノ規定ハ船舶入港ノ時ヨリ十二時間内ニ發航スル場合ニハ之ヲ適用セス

管海官廳ハ必要ナル書類ノ提出ヲ命シ又ハ船員、旅客其他船中ニ在リタル者ヲ呼出シテ訊問ヲ爲スコトヲ得

第十七條 左ノ場合ニ於テハ船長ハ最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ出頭シテ其報告ヲ爲スコトヲ要ス  
一 豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ  
二 人命又ハ船舶ヲ救ヒタルトキ  
三 衝突其他ノ海難カ生シタルトキ  
四 船舶カ捕獲セラレタルトキ  
五 船中ニ於テ死亡シタル者アリタルトキ

船舶カ豫定セサル港ニ寄港シタルトキ又ハ前項第二號乃至第五號ニ掲ケタル事由カ碇泊中ニ生シタルトキハ船長ハ其港ノ管海官廳、若シ其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ出頭シテ其報告ヲ爲スコトヲ要ス

前項第三項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十八條 前條第一項及ヒ第二項ノ場合ニ於テハ船長ハ報告書ヲ作り其認證ヲ申請スルコトヲ得

第十九條 船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ船長ハ人命、船舶及ヒ積荷ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡シ且旅客、海員其他船中ニ在ル者ヲ去ラシメタル後ニ非サレハ其指揮スル船舶ヲ去ルコトヲ得

第二十條 船舶カ衝突シタルトキハ船長ハ互ニ人命及ヒ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡シ且船舶ノ名稱、船籍港、發航港及ヒ到達港ヲ告グルコトヲ要ス但自己ノ指揮スル船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ此限ニ在ラズ

第二十一條 船長カ航海中救護ヲ求ムル船舶ヲ認メタルトキハ人命ヲ救ルトキハ氏名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル若シ署名スルコト能ハス且印ヲ有セサルトキハ氏名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル  
前項ノ規定ニ依リ捺印セシメ又ハ氏名ヲ代署セシメ若シ捺印シタル場合ニ於テハ海員名簿ニ其事由ヲ附記スルコトヲ要ス

第二十八條 當事者ハ正當ノ理由アル場合ニ限り代理人ヲシテ公認ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十九條 公認アリタルトキハ海員ハ遲滞ナク其船員手帳ヲ管海官廳ニ提出シテ公認ノ認證ヲ申請スルコトヲ要ス

第三十條 海員ノ雇止ニ關シテ爭アルトキハ當事者ノ一方ハ管海官廳ニ其事由ヲ申立テ雇止ノ公認ヲ申請スルコトヲ得

管海官廳カ前項ノ申請ヲ正當ナリト認メタルトキハ當事者雙方ヲ呼出ダシ海員名簿及ヒ海員手帳ヲ提出セシメテ雇止ノ公認ヲ爲スコトヲ要ス  
當事者ノ一方カ出頭セサルトキハ管海官廳ハ相手方ノ申立ニ依リテ雇止ノ公認ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ海員名簿及ヒ海員手帳ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十一條 船長ハ海員ノ雇入期間中其船員手帳ヲ保管スルコトヲ要ス

第三十二條 海員ハ雇入期間中脱船シタルトキハ船長ハ遲滞ナク管海官廳ニ其海員ノ船員手帳ヲ返還スルコトヲ要ス

第三十三條 海員ハ雇止アリタル場合ニ於テハ船長ニ對シ其職務ノ執行又ハ品行ニ關スル證明書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第三十四條 海員名簿カ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ更ニ海員名簿

トヲ要ス

第二十七條 管海官廳カ公認ヲ爲スニハ海員名簿ニ記載シタル事項ヲ當事者雙方ニ讀聞カセタル後之ニ署名捺印セシムルコトヲ要ス但海員ノ雇止ヲ爲シタル場合ニ於テ正當ノ理由アルトキハ當事者ノ一方カ出頭セサルトキト雖モ公認ヲ爲スコトヲ得  
當事者カ印ヲ有セサルトキハ署名スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハサ

ヲ作リ之ヲ管海官廳ニ提出シテ公認ヲ申請スルコトヲ要ス  
第二十七條 及ヒ第二十八條ノ規定ハ海員名簿及ヒ船員手帳カ共ニ滅失  
又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス但原管海官廳ニ公認ヲ申請スルトキ  
ハ此限ニ在ラス

第三十五條 海員カ雇入期間中第九條又ハ第十條ノ規定ニ依リテ船員手  
帳ノ交付又ハ書換ヲ申請シタル場合ニ於テ其交付又ハ書換アリタルト  
キハ海員ハ遲滞ナク第二十九條ニ定メタル手續ヲ爲スコトヲ要ス

第五節 紀律

第三十六條 左ノ場合ニハ船長ハ海員ヲ懲戒スルコトヲ得

一 海員カ上長ニ對シテ尊敬又ハ從順ノ道ヲ失ヒタルトキ

二 海員カ其職務ヲ怠リタルトキ

三 海員カ他ノ海員ノ職務執行ヲ妨ケタルトキ

四 海員カ喧嘩シタルトキ

五 海員カ船長ノ許可ヲ得ズシテ船舶ヲ去リタルトキ又ハ船長カ指定  
シタル時マテニ歸船セザリシトキ

六 海員カ船長ノ許可ヲ得ズシテ點火又ハ焚火シタルトキ

七 海員カ船長ノ許可ヲ得ズシテ端艇ヲ使用シタルトキ

八 海員カ食料又ハ飲料ヲ濫費シタルトキ

九 海員カ船長ノ許可ヲ得ズシテ酒類ヲ所持スルトキ又ハ吸煙シタル  
トキ

十 海員カ賭博シテ事ヲ省ミサルトキ

十一 其他海員カ船中ノ秩序ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキ

第三十七條 懲戒ハ左ノ四種トス

一 監禁

二 上陸禁止

三 加役

四 減給

第三十八條 監禁ハ三日以下トシ船中ノ一室ニ拘置ス

上陸禁止ハ七日以下トス此期間ニハ船舶ノ碇泊日數ノミヲ算入ス

加役ハ七日以下トシ常務時間外ニ於テ役務ニ服セシム但一日二時間ヲ  
超ユルコトヲ得ス

減給ハ給料月額十分ノ一以下トス

第三十九條 前條第一項乃至第三項ノ期間ニハ初日ヲ算入ス

第四十條 懲戒ノ適用ハ行爲ノ輕重ニ從ヒ船長之ヲ定ム但二種以上ノ懲  
戒ヲ併科スルコトヲ得ス

第四十一條 海員カ兇器、爆發若クハ發火シ易キ物、劇藥其他ノ危險物  
又ハ酒類ヲ所持スルトキハ船長ニ於テ其物ヲ保管又ハ放棄スルコトヲ  
得

第四十二條 海員カ人身又ハ船舶ニ危害ヲ及ボスヘキ行爲ヲ爲サントス  
ルトキハ船長ハ必要ノ期間内其海員ノ身體ヲ拘束スルコトヲ得

第四十三條 船長ハ必要アルトキハ旅客其他船中ニ在ル者ニ對シテモ前  
二條ニ定メタル處分ヲ爲スコトヲ得

第四十四條 海員カ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乗込マサルトキ又  
ハ船長ノ許可ヲ得ズシテ之ヲ去リタルトキハ船長ハ乗船ヲ強制スルコ  
トヲ得

第四十五條 船長ノ命令ニ服從セサル者アル場合ニ於テ必要ト認ムル時  
ハ船長ハ海軍ノ艦船、地方官廳又ハ管海官廳ニ援助ヲ求ムルコトヲ得

第六節 罰則

二 船長カ船舶ヲ安全ニ碇泊セシメ且商法第五百六十三條ノ規定ニ從  
ヒ其職務ヲ委任セスシテ船舶ヲ去リタルトキ

三 船長カ第十五條ノ規定ニ反シテ甲板ニ在ラサルトキ

四 船長カ必要ナクシテ豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ

第五十一條 船 長カ第十六條第一項、第十七條第一項、第二十二  
條又ハ第三十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰  
金ニ處ス

第五十二條 船長カ第十九條ノ規定ニ違反シタルトキハ二月以上五年以  
下ノ重禁錮ニ處ス

第五十三條 船長カ第二十條ノ規定ニ反シテ人命又ハ船舶ノ保護ニ必要  
ナル手段ヲ盡ササルトキハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五十  
圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

船長カ第二十條ノ規定ニ反シテ告知ヲ爲ササルトキハ十圓以上三百圓  
以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條 船長カ第二十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ十一日以上一  
年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十五條 船舶ニ急迫ノ危險アル場合ニ於テ海員カ船長ノ許可ヲ得ズ  
シテ其船舶ノ去リタルトキハ十一日以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第五十六條 第十九條又ハ第二十條ノ場合ニ於テ船長カ人命又ハ船舶ノ  
保護ニ必要ナル手段ヲ爲スニ當タリ海員カ上長ノ命令ニ服從セサルト  
キハ十一日以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五百圓以下ノ罰  
金ニ處ス

第五十七條 船長カ第二十三條第一項ノ規定ニ反シテ送還ノ命令ヲ拒ミ  
タルトキハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十六條 詐偽ノ所爲ヲ以テ船員手帳ノ交付ヲ受ケタル者ハ十五日以  
上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

詐欺ノ所爲ヲ以テ海員名簿ニ公認ヲ受ケ又ハ船員手帳ニ認證ヲ受ケタ  
ル者亦同シ

第四十七條 第七條、第九條、第十條、第十二條、第二十九條、第三十  
二條又ハ第三十五條ノ規定ニ反シテ船員手帳ノ交付、訂正若クハ公認ノ  
認證ヲ申請シ又ハ船員手帳ヲ返還スルコトヲ怠リタル者ハ二圓以上二  
十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十八條 虛偽ノ海員名簿又ハ海員手帳ヲ行使シタル者ハ一月以上一  
年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

公認ヲ受ケタル海員名簿又ハ認證ヲ受ケタル船員手帳ヲ増減變換シテ  
行使シタル者亦同シ

第四十九條 左ノ場合ニ於テハ船長ヲ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處  
シ又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 船長カ正當ノ理由ナクシテ商法第五百六十二條第一項ニ掲ケタル  
書類ヲ船中ニ備ヘサルトキ又ハ之ヲ毀棄シタルトキ

二 船長カ第十四條ノ規定ニ反シテ書類ノ提出ヲ拒ミタルトキ

三 船長カ商法第五百六十二條第一項第二號乃至第五號ニ掲ケタル書  
類ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

四 船長カ第十七條第一項又ハ第二項ノ場合ニ於テ虛偽ノ報告ヲ爲シ  
タルトキ

第五十條 左ノ場合ニ於テ船長ヲ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 船長カ商法第五百六十一條ノ検査ヲ爲サスシテ發航ヲ爲シタルト  
キ

第五十八條 船舶所有者又は船長が第二十六條ノ規定ニ違反シタルトキハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十九條 船長が第三十三條ニ定メタル證明書ヲ交付セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタル證明書ヲ交付シタルトキハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第六十條 船長が第三十四條第一項ノ規定ニ違反シタルトキハ五十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十一條 海員が雇入手續ノ終ハリタル後正當ノ理由ナクシテ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乗込マサルトキハ二十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十二條 船長が第五章ニ定メタル處分ヲ爲スニ當リ海員ニ助力ヲ爲スヘキコトヲ命ジタル場合ニ於テ海員が其命令ニ服從セザルトキハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十三條 船員、旅客其他船中ニ在リタル者カ本法ノ規定ニ依リ管海官廳ヨリ呼出ヲ受ケ又ハ書類ノ提出ヲ命セラレタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ之ニ應セザルトキハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十四條 海員が船長ノ許可ヲ得シテ二十四時間以上船中ニ在ラサルトキハ二十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

海員が船中ニ在リタルトキハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

海員が外國ニ於テ前二項ノ罪ヲ犯シタルトキハ一等ヲ加フ

第六十五條 船長が正當ノ理由ナクシテ船員ヲ遺棄シタルトキハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

船長が外國ニ於テ正當ノ理由ナクシテ海員ヲ遺棄シタルトキハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

船長が外國ニ於テ正當ノ理由ナクシテ海員ヲ遺棄シタルトキハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第六十六條 海員が船長ノ許可ヲ得シテ船中ニ在リタルトキハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十七條 故ナク船體若クハ機關ノ要部ヲ毀損シ又ハ重要ナル器具ヲ毀損若クハ放棄シタル者ハ十一日以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十八條 船舶ノ運航ヲ妨ケタルトキハ一等ヲ加ヘ船中ニ在リタル者ハ重禁錮ニ處シ又ハ船中ニ在リタル者ヲ以テ前條第一項ノ罪ヲ犯シタル者ハ重禁錮ニ處シ又ハ船中ニ在リタル者ヲ以テ前條第一項ノ罪ヲ犯シタル者ハ重禁錮ニ處シ又ハ船中ニ在リタル者ヲ以テ前條第一項ノ罪ヲ犯シタル者ハ重禁錮ニ處ス

第六十九條 海員が上長ニ對シテ脅迫ノ罪ヲ犯シタルトキハ刑法各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ

第七十條 海員が上長ニ對シテ毆打創傷ノ罪ヲ犯シタルトキハ刑法各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ

第七十一條 船長が旅客其他船中ニ在リタル者ニ對シテ其職權ヲ濫用シ又ハ虐待ヲ爲シタルトキハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病、死傷ニ致シタルトキハ前條ノ例ニ依リテ處斷ス

第七十二條 海員が相當シテ左ノ行爲ヲ爲シタルトキハ各號ノ區別ニ依リテ處斷ス

第七十三條 船中ニ在リタル者カ本法ノ規定ニ依リ管海官廳ヨリ呼出ヲ受ケ又ハ書類ノ提出ヲ命セラレタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ之ニ應セザルトキハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十四條 海員が船長ノ許可ヲ得シテ二十四時間以上船中ニ在ラサルトキハ二十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

海員が船中ニ在リタルトキハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

海員が外國ニ於テ前二項ノ罪ヲ犯シタルトキハ一等ヲ加フ

第六十五條 船長が正當ノ理由ナクシテ船員ヲ遺棄シタルトキハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

船長が外國ニ於テ正當ノ理由ナクシテ海員ヲ遺棄シタルトキハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

船長が外國ニ於テ正當ノ理由ナクシテ海員ヲ遺棄シタルトキハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第六十六條 海員が船長ノ許可ヲ得シテ船中ニ在リタルトキハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十七條 故ナク船體若クハ機關ノ要部ヲ毀損シ又ハ重要ナル器具ヲ毀損若クハ放棄シタル者ハ十一日以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十八條 船舶ノ運航ヲ妨ケタルトキハ一等ヲ加ヘ船中ニ在リタル者ハ重禁錮ニ處シ又ハ船中ニ在リタル者ヲ以テ前條第一項ノ罪ヲ犯シタル者ハ重禁錮ニ處シ又ハ船中ニ在リタル者ヲ以テ前條第一項ノ罪ヲ犯シタル者ハ重禁錮ニ處ス

第六十九條 海員が上長ニ對シテ脅迫ノ罪ヲ犯シタルトキハ刑法各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ

第七十條 海員が上長ニ對シテ毆打創傷ノ罪ヲ犯シタルトキハ刑法各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ

第七十一條 船長が旅客其他船中ニ在リタル者ニ對シテ其職權ヲ濫用シ又ハ虐待ヲ爲シタルトキハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病、死傷ニ致シタルトキハ前條ノ例ニ依リテ處斷ス

第七十二條 海員が相當シテ左ノ行爲ヲ爲シタルトキハ各號ノ區別ニ依リテ處斷ス

第七十三條 船中ニ在リタル者カ本法ノ規定ニ依リ管海官廳ヨリ呼出ヲ受ケ又ハ書類ノ提出ヲ命セラレタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ之ニ應セザルトキハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十四條 海員が船長ノ許可ヲ得シテ二十四時間以上船中ニ在ラサルトキハ二十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

海員が船中ニ在リタルトキハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

海員が外國ニ於テ前二項ノ罪ヲ犯シタルトキハ一等ヲ加フ

上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

船長が外國ニ於テ正當ノ理由ナクシテ海員ヲ遺棄シタルトキハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第六十六條 海員が船長ノ許可ヲ得シテ船中ニ在リタルトキハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十七條 故ナク船體若クハ機關ノ要部ヲ毀損シ又ハ重要ナル器具ヲ毀損若クハ放棄シタル者ハ十一日以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十八條 船舶ノ運航ヲ妨ケタルトキハ一等ヲ加ヘ船中ニ在リタル者ハ重禁錮ニ處シ又ハ船中ニ在リタル者ヲ以テ前條第一項ノ罪ヲ犯シタル者ハ重禁錮ニ處シ又ハ船中ニ在リタル者ヲ以テ前條第一項ノ罪ヲ犯シタル者ハ重禁錮ニ處ス

第六十九條 海員が上長ニ對シテ脅迫ノ罪ヲ犯シタルトキハ刑法各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ

第七十條 海員が上長ニ對シテ毆打創傷ノ罪ヲ犯シタルトキハ刑法各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ

第七十一條 船長が旅客其他船中ニ在リタル者ニ對シテ其職權ヲ濫用シ又ハ虐待ヲ爲シタルトキハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病、死傷ニ致シタルトキハ前條ノ例ニ依リテ處斷ス

第七十二條 海員が相當シテ左ノ行爲ヲ爲シタルトキハ各號ノ區別ニ依リテ處斷ス

第七十三條 船中ニ在リタル者カ本法ノ規定ニ依リ管海官廳ヨリ呼出ヲ受ケ又ハ書類ノ提出ヲ命セラレタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ之ニ應セザルトキハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十四條 海員が船長ノ許可ヲ得シテ二十四時間以上船中ニ在ラサルトキハ二十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

海員が船中ニ在リタルトキハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

海員が外國ニ於テ前二項ノ罪ヲ犯シタルトキハ一等ヲ加フ

第六十五條 船長が正當ノ理由ナクシテ船員ヲ遺棄シタルトキハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

船長が外國ニ於テ正當ノ理由ナクシテ海員ヲ遺棄シタルトキハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

船長が外國ニ於テ正當ノ理由ナクシテ海員ヲ遺棄シタルトキハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第六十六條 海員が船長ノ許可ヲ得シテ船中ニ在リタルトキハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十七條 故ナク船體若クハ機關ノ要部ヲ毀損シ又ハ重要ナル器具ヲ毀損若クハ放棄シタル者ハ十一日以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十八條 船舶ノ運航ヲ妨ケタルトキハ一等ヲ加ヘ船中ニ在リタル者ハ重禁錮ニ處シ又ハ船中ニ在リタル者ヲ以テ前條第一項ノ罪ヲ犯シタル者ハ重禁錮ニ處シ又ハ船中ニ在リタル者ヲ以テ前條第一項ノ罪ヲ犯シタル者ハ重禁錮ニ處ス

第六十九條 海員が上長ニ對シテ脅迫ノ罪ヲ犯シタルトキハ刑法各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ

第七十條 海員が上長ニ對シテ毆打創傷ノ罪ヲ犯シタルトキハ刑法各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ

第七十一條 船長が旅客其他船中ニ在リタル者ニ對シテ其職權ヲ濫用シ又ハ虐待ヲ爲シタルトキハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病、死傷ニ致シタルトキハ前條ノ例ニ依リテ處斷ス

第七十二條 海員が相當シテ左ノ行爲ヲ爲シタルトキハ各號ノ區別ニ依リテ處斷ス

第七十三條 船中ニ在リタル者カ本法ノ規定ニ依リ管海官廳ヨリ呼出ヲ受ケ又ハ書類ノ提出ヲ命セラレタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ之ニ應セザルトキハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十四條 海員が船長ノ許可ヲ得シテ二十四時間以上船中ニ在ラサルトキハ二十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

海員が船中ニ在リタルトキハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス

海員が外國ニ於テ前二項ノ罪ヲ犯シタルトキハ一等ヲ加フ

第六十五條 船長が正當ノ理由ナクシテ船員ヲ遺棄シタルトキハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

船長が外國ニ於テ正當ノ理由ナクシテ海員ヲ遺棄シタルトキハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

船長が外國ニ於テ正當ノ理由ナクシテ海員ヲ遺棄シタルトキハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第六十六條 海員が船長ノ許可ヲ得シテ船中ニ在リタルトキハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十七條 故ナク船體若クハ機關ノ要部ヲ毀損シ又ハ重要ナル器具ヲ毀損若クハ放棄シタル者ハ十一日以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十八條 船舶ノ運航ヲ妨ケタルトキハ一等ヲ加ヘ船中ニ在リタル者ハ重禁錮ニ處シ又ハ船中ニ在リタル者ヲ以テ前條第一項ノ罪ヲ犯シタル者ハ重禁錮ニ處シ又ハ船中ニ在リタル者ヲ以テ前條第一項ノ罪ヲ犯シタル者ハ重禁錮ニ處ス

第六十九條 海員が上長ニ對シテ脅迫ノ罪ヲ犯シタルトキハ刑法各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ

第七十條 海員が上長ニ對シテ毆打創傷ノ罪ヲ犯シタルトキハ刑法各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ

第七十一條 船長が旅客其他船中ニ在リタル者ニ對シテ其職權ヲ濫用シ又ハ虐待ヲ爲シタルトキハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病、死傷ニ致シタルトキハ前條ノ例ニ依リテ處斷ス

第七十二條 海員が相當シテ左ノ行爲ヲ爲シタルトキハ各號ノ區別ニ依リテ處斷ス

船員法施行細則 (明治三十二年六月十二日 遞信省令第二十五號)

第一章 總則

第一條 船員法又ハ本則ノ規定ニ依リ申請ハ特ニ明文ヲ掲タル場合ヲ除ク外書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第二條 代理人ニ依リテ前條ノ申請ヲ爲ストキハ代理人ハ其權限ヲ證スル書面ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

第三條 船員法及本則中最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ト稱スルハ最初ニ到着シタル管海官廳アル港ノ管海官廳ヲ謂フ

第四條 本則第二章乃至第四章ノ事務ハ管海官廳ニ於テ當事者ノ申請ニ依リ理由アリト認ムルトキハ休暇日ト雖モ之ヲ行フコトアルヘシ

第二章 船員手帳

第五條 船員法第三條第一項又ハ第六條ニ依リ船員手帳ノ交付ヲ申請セントスル者ハ第一號書式ノ申請書ヲ最寄管海官廳ニ差出スヘシ

第六條 船員法第三條第一項又ハ第六條ニ依リ船員手帳ノ交付ヲ申請セ

ントスル者ハ第一號書式ノ申請書ヲ最寄管海官廳ニ差出スヘシ

船員法第三條第二項但書ノ場合ヲ除ク外申請者ハ同項ニ掲クル事項ヲ  
證スル戸籍吏ノ書面 他ノ公正證書ヲ申請書ニ添付スヘシ但申請書ニ  
其證明ヲ受ケタルトキハ此限ニアラス

第六條 未成年者ハ前條ノ規定ニ從テ外左ノ事項ヲ記載シ法定代理人ノ  
署名捺印シタル書面ヲ申請書ニ添付スヘシ  
一 未成年者ノ氏名及本籍地  
二 船員ト爲ルコトヲ許シタル旨  
三 船員ト爲ルコトヲ許シタル年月日  
四 法定代理人ノ本籍地及住所

第七條 船員法第七條ニ依リ船員手帖ノ訂正ヲ申請セントスル者ハ船員  
手帳ヲ添ヘ同法第三條第三項但書ノ場合ヲ除ク外訂正ヲ要スル事項ヲ  
證スル戸籍吏ノ書面其他ノ公正證書ヲ最寄管海官廳ニ差出スヘシ

第八條 船員法第九條又ハ第十條ニ依リ船員手帳ノ交付又ハ書換ヲ申請  
セントスル者ハ第十一號書式ヲ申請書ヲ最寄管海官廳ニ差出シ且書換  
ヲ申請スル場合ニハ船員手帳ヲ差出スヘシ

第五條第二項及第六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス  
但船員法第十一條但書ノ場合ハ此限ニアラス

船員雇入期間中第一項ノ申請ヲ爲ス場合ニハ申請書ニ船長連署スルコ  
トヲ要ス

第八條ノ二 船員力汽船ニ乗組マムトスルトキハ船員手帳ニ新ニ撮影  
シタル自己ノ寫眞(半身脱帽、臺紙ナキモノ)ヲ添ヘ最寄管海官廳ニ差  
出スヘシ

管海官廳ニ於テハ船員手帳ニ前項ノ寫眞ヲ貼附シ年月日ヲ記載シタル  
後之ヲ當該受有者ニ還付ス

前二項ノ規定ハ船員手帳ニ貼附シタル寫眞力減失若ハ毀損シ又ハ貼附  
ノ日ヨリ十年ヲ經過シタル場合ニ之ヲ準用ス

第九條 船員法第十二條又ハ第三十二條ニ依リ船員手帖ヲ返還セントス  
ル者ハ其事由ヲ疏明シ最寄管海官廳ニ船員手帖ヲ差出スヘシ

第九條ノ二 雇入期間中行衛不明トナリタル海員ノ雇止ヲ爲シタル者ハ  
其雇止公認ヲ申請シタル管海官廳ニ該海員ノ雇止ヲ爲シタル者ハ  
之ヲ差出スコト能ハサルトキハ其事由ヲ疏明スヘシ

他人ノ船員手帖ヲ保管スル者該船員手帖受有者ノ所在不明ニシテ之  
ヲ本人ニ還付スル能ハサルトキハ最寄管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ

前二項ノ規定ニ依リ船員手帖ヲ受領シタル管海官廳ハ受領ノ日ヨリ一  
箇年內ニ本人又ハ代理人ヨリ交付ノ請求ヲキトキハ之ヲ廢棄スヘシ

第九條ノ三 海員力最後雇止ノ公認ヲ受ケタル日ヨリ引續キ三年間雇入  
ノ公認ヲ受ケサルトキハ其ノ受有スル船員手帖ハ之ヲ無効トス雇入雇  
止ノ公認ヲ受ケルヲ要セサル船員力最後下船ノ日ヨリ引續キ三年間雇  
船セサルトキ亦同シ

雇入雇止ノ公認ヲ受ケルヲ要セサル船員ハ乗船又ハ下船ノ日ヨリ十四  
日以内ニ第十二號又ハ第十三號書式ニ依リ最寄管海官廳ニ届出ヲ爲ス  
ヘシ但シ船長就職又ハ退職ノ認證ヲ申請シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ乗船若ハ下船ノ届出又ハ退職認證ノ申請ヲ爲スル  
トキハ第一項ノ期間ハ船員手帖交付ノ日又ハ最後乗船ノ届出若ハ最後  
就職認證ノ申請書ニ掲タル乗船若ハ就職ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第十條 船員手帖餘白ナキニ至リタルトキハ船員ハ現ニ受有スル船員手  
帖ヲ最寄管海官廳ノ檢閱ニ供シ更ニ其交付ヲ申請スヘシ

第十一條 本章ニ掲クル申請ハ日本ニ於ケル管海官廳ニ之ヲ爲スヘキモ

シタルトキハ欄外ニ其旨及字數ヲ記載シ船長之ニ認印シ訂正又ハ削除  
シタル文字ハ之ヲ讀ミ得ヘキ様抹消スヘシ

第十三條第二項ニ依リ書類ヲ訂正シタルトキハ前項ノ規定ニ從テ外其  
行端ニ訂正ヲ爲シタル年月日ヲ記載シ船長之ヲ認印スヘシ

第十七條 管海官廳ニ於テ船員法第十六條第一項ニ依リ航海日誌ノ檢閱  
ヲ爲シタルトキハ之ニ檢閱ヲ爲シタル旨及檢閱ノ年月日ヲ記載シ管海  
官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ船長ニ還付ス

第十八條 船員法第十七條第一項又ハ第二項ノ報告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲  
スコトヲ要ス

前項ノ書面及船員法第十八條ノ報告書ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長之ニ  
署名捺印スルコトヲ要ス  
一 船舶ノ番號、種類及名稱  
二 船籍港  
三 船舶所有者ノ氏名又ハ名稱  
四 船長ノ氏名、住所並海技免狀ノ種類及機關ニ關スル事項ニ付テハ  
機關長ノ氏名、住所並海技免狀ノ種類  
五 船舶ノ發航港並到達港及報告スヘキ事實ヲ發生シタル場所並年月  
日時  
六 報告スヘキ事實ノ顛末

第十九條 報告書ノ認證ハ報告書ニ認證ヲ爲シタル旨及認證ノ年月日ヲ  
記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ爲ス

第二十條 海員船中ニ於テ死亡シタルトキハ船長ハ運滞ナク重立シタル  
海員二名以上ノ立會ヲ以テ其遺産ヲ取調ヘ遺産目錄ヲ作ルヘシ  
遺産目錄ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長之ニ署名捺印シ遺産ノ取調ニ立會

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

船員法第三條第二項但書ノ場合ヲ除ク外申請者ハ同項ニ掲クル事項ヲ  
證スル戸籍吏ノ書面 他ノ公正證書ヲ申請書ニ添付スヘシ但申請書ニ  
其證明ヲ受ケタルトキハ此限ニアラス

第十二條 船員手帖ノ様式ハ第二號書式ニ依ル

第十三條 船長ハ海員名簿、屬具目錄、航海日誌又ハ旅客名簿ヲ船中ニ  
備ヘタルトキ運滞ナク書式ニ從ヒ必要ナル事項ヲ之ニ記載スヘシ

前項ニ依リ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船長ハ運滞ナク之  
ヲ訂正スヘシ

第十四條 左ノ場合ニ於テ船長ハ事實ノ發生後運滞ナク書式ニ從ヒ航海  
日誌ニ事實ノ顛末、發生ノ年月日時、場所及關係ノ事項ヲ記載スヘシ

一 豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ  
二 人命又ハ船舶ヲ救ヒタルトキ  
三 衝突其他ノ海難ニ罹リタルトキ  
四 豫定セサル港ニ寄港シタルトキ  
五 船員ノ急迫ノ危險アリタル爲メ船長ニ於テ船舶ヲ去リタルトキ  
六 船長ニ於テ海員ヲ懲戒シタルトキ  
七 船員法第四十一條乃至第四十四條ニ依リテ處分ヲ爲シタルトキ  
八 船員法第四十五條ニ依リ援助ヲ求メタルトキ  
九 船中ニ於テ犯罪アリタルトキ  
十 船中ニ於テ出生アリタルトキ  
十一 船中ニ於テ死亡アリタルトキ及死亡者ノ遺産ヲ處分シタルトキ  
十二 前各號ニ掲クル場合ノ外船中ニ於テ異常ノ事變發生シタルトキ

第十五條 船長ハ旅客乗船シタルトキハ其乗船後、下船シタルトキハ其  
下船後運滞ナク旅客名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載スヘシ

第十六條 本章ニ掲クル書類ヲ記載スルニ當リ文字ヲ訂正挿入又ハ削除

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

船員法第三條第二項但書ノ場合ヲ除ク外申請者ハ同項ニ掲クル事項ヲ  
證スル戸籍吏ノ書面 他ノ公正證書ヲ申請書ニ添付スヘシ但申請書ニ  
其證明ヲ受ケタルトキハ此限ニアラス

第六條 未成年者ハ前條ノ規定ニ從テ外左ノ事項ヲ記載シ法定代理人ノ  
署名捺印シタル書面ヲ申請書ニ添付スヘシ  
一 未成年者ノ氏名及本籍地  
二 船員ト爲ルコトヲ許シタル旨  
三 船員ト爲ルコトヲ許シタル年月日  
四 法定代理人ノ本籍地及住所

第七條 船員法第七條ニ依リ船員手帖ノ訂正ヲ申請セントスル者ハ船員  
手帳ヲ添ヘ同法第三條第三項但書ノ場合ヲ除ク外訂正ヲ要スル事項ヲ  
證スル戸籍吏ノ書面其他ノ公正證書ヲ最寄管海官廳ニ差出スヘシ

第八條 船員法第九條又ハ第十條ニ依リ船員手帳ノ交付又ハ書換ヲ申請  
セントスル者ハ第十一號書式ヲ申請書ヲ最寄管海官廳ニ差出シ且書換  
ヲ申請スル場合ニハ船員手帳ヲ差出スヘシ

第五條第二項及第六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス  
但船員法第十一條但書ノ場合ハ此限ニアラス

船員雇入期間中第一項ノ申請ヲ爲ス場合ニハ申請書ニ船長連署スルコ  
トヲ要ス

第八條ノ二 船員力汽船ニ乗組マムトスルトキハ船員手帳ニ新ニ撮影  
シタル自己ノ寫眞(半身脱帽、臺紙ナキモノ)ヲ添ヘ最寄管海官廳ニ差  
出スヘシ

ヒタル海員之ニ連署スルコトヲ要ス

- 一 死亡シタル海員ノ氏名、本籍地住所及死亡ノ年月日時
- 二 遺産ノ品名及数量、若シ金貨ナルトキハ其金額
- 三 遺産目録ヲ作りタル年月日

第二十一條 船長ハ戸籍法ノ規定ニ依リ死亡ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ戸籍吏、公吏又ハ領事ニ送付スル場合ニ於テハ其港ノ管海官廳其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ遺産目録ヲ差出スヘシ

船中ニ死亡者アリタルモ前項ニ掲ケル謄本ノ送付ヲ要セザルトキハ船長ハ遺産目録ヲ作りタル港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキ場合又ハ航行中ノ作リタル場合ニ在リテハ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ遺産目録ヲ差出スヘシ

第二十二條 前條ニ依リ遺産目録ヲ受ケタルトキハ管海官廳ハ其管海官廳又ハ其指定スル管海官廳ニ遺産ヲ差出スヘキコトヲ船長ニ命スルトヲ得

第二十三條 船員法第二十三條第一項ニ依リ日本臣民ヲ送還スヘキコトヲ命セラレタル船長カ公使、領事又ハ貿易事務官ノ指定シタル港ニ到着シタルトキハ其港ニ於ケル警察署ニ送還ノ事由ヲ疏明シ被送還者ヲ引渡スヘシ

前項ニ依リ被送還者ヲ引渡シタル船長カ被送還者ヨリ送還費用ノ償還ヲ得ザルトキハ被送還者ノ氏名、出生年月日、出生地、自分、本籍地住所、扶養義務者ノ氏名住所及送還ノ事實ヲ記載シタル書面ヲ作り之ヲ被送還者ヲ引渡シタル警察署ニ提出シテ其證明ヲ申請スルコトヲ得

船長カ明治三十三年勅令第四百十五號ノ規定ニ依リ臺灣總督府、北海

道廳又ハ府縣ニ送還費用ノ請求ヲ爲ス場合ニハ請求書ニ前項ノ書類ヲ添付スヘシ

第二十三條 船長カ就職又ハ退職ノ認證ヲ申請セントスルトキハ就職ノ場合ニハ第九號書式退職ノ場合ニハ第十號書式ノ申請書ニ就職又ハ退職及其年月日ヲ記スル書面ヲ添ヘテ船員手帖ヲ最寄管海官廳ニ提出スヘシ

就職ノ認證ヲ申請セントスル場合ニハ船長ハ前項ノ規定ニ從テ外其海技免狀ヲ管海官廳ノ檢閲ニ供スヘシ

第二十四條 第十九條ノ規定ハ前條ノ認證ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四章 海員

第二十五條 海員雇入ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ヲ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ雇入港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一 第三號書式ノ申請書

二 被雇者海技免狀ヲ有スルトキハ其免狀

第二十六條 海員名簿及前條第一號ノ書面ニ被雇者ノ氏名及之ニ關スル事項ヲ記載スルニハ左ノ順序ニ從フヘシ

第一 甲板部海員

第二 機關部海員

第三 事務部海員同一ノ部ニ屬スル海員間ニ在リテハ上長ヲ先ニスヘシ

第二十七條 當事者代理人ヲシテ海員雇入ノ公認ヲ受ケシメントスルトキハ其理由ヲ記載シ且其權限ヲ記スル書面ヲ代理人ニ交付シ代理人ハ之ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

第二十八條 海員雇入ノ公認ヲ爲スニ當リ管海官廳ニ於テ海員名簿ニ記載シタル事項ヲ當事者ニ讀聞カスニハ被雇者ニ付テハ第二十六條ノ順序ニ依リ之ヲ爲ス

當事者ヲシテ署名捺印セシムルニハ雇者ヲ先ニ被雇者ヲ後ニス被雇者間ニ在リテハ第二十六條ノ順序ニ依ル

第二十九條 被雇者總員署名捺印シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿ニ海員雇入ノ公認ヲ爲シタル年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ第二十

五條第二號ノ書類ト共ニ之ヲ雇者ニ還付

第三十條 船員法第二十九條ニ依リ雇入ノ公認ノ認證ヲ申請セントスルトキハ海員ハ船員手帖ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ公認ヲ爲シタル管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ但シ機關部員以外ノ者ニ在リテハ機關ノ欄ノ記載ヲ省略スルコトヲ得

第三十一條 船員法第三十五條ニ依リ公認ノ認證ヲ申請セントスルトキハ海員ハ書式ニ從ヒ船員手帖ニ現在ノ契約條項其他ノ事項ヲ記載シ最寄管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ船長ハ現在ノ契約條項ヲ記載シタル海員名簿ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

第三十二條 船員法第六條ニ依リ海員手帖ノ交付ヲ申請シタル者其雇入期間中船員手帖ノ交付アリタルトキハ還滯ナク前條第一項ノ手續ヲ爲シ公認ノ認證ヲ申請スヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條 左ノ場合ニ於テハ海員雇止ノ公認ヲ申請スヘシ

- 一 海員雇入期間力滿了シタルトキ
- 二 海員力死亡シタルトキ
- 三 海員雇入契約ヲ解除シタルトキ

四 海員雇入契約力終了シタルトキ

五 雇入期間中ニ船舶カ船員法ノ適用ヲ受クルコトヲ要セザルニ至リタルトキ

第三十四條 海員雇止ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ前條ニ掲ケル事實ノ發生シタル港ノ管海官廳其港ニ管海官廳ナキトキハ航行中其事實發生シタルトキハ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一 第四號書式ノ申請書

二 被雇者ニ關シ記載ヲ爲シタル航海日誌

第三十五條 第二十六條乃至第二十八條及第三十條ノ規定ハ海員雇止ノ公認ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條ノ二 管海官廳アラサル港ニ於テ雇止メラレタル海員ハ船長ニ對シ左ノ事項ヲ記載シタル證明書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

一 雇入年月日

二 職務

三 雇止年月日

四 雇止事由

五 雇止地

前項ノ請求ヲ受ケタル船長ハ證明書ヲ作り署名捺印シテ之ヲ請求者ニ交付シ其後第三十四條及第三十五條ニ依リ該海員ノ雇止公認ヲ受ケタルトキハ還滯ナク其公認アリタル管海官廳ノ名稱及年月日ヲ該海員ニ通知スヘシ

第一項ニ掲ケル海員カ前項ノ證明書及雇止公認ノ通知ヲ受ケタルトキハ船員手帖ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ前項ノ證明書及通知書ヲ添ヘ

其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ提出シテ履止公認ノ認證ヲ申請スヘシ

第三十六條 被雇者總員又ハ船員法第二十七條第一項但書ノ場合ニ在リテハ出頭シタル當事者總員署名捺印シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿ニ海員履止ノ公認ヲ爲シタル年月日並當事者ノ一方出頭セスシテ公認ヲ爲シタルトキハ其事由ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ第三十四條第二號ノ書類ト共ニ之ヲ履者ニ還付ス

第三十七條 船員法第三十條第一項ニ依リ履止ノ公認ヲ申請スル者ハ其申立ヲ確ムヘキ證憑アルトキハ之ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

第三十八條 管海官廳ニ於テ船員法第三十條第二項ニ依リ當事者双方ヲ呼出シタルトキハ當事者ノ争ニ關シ各申立ヲ爲サシムヘシ此場合ニ於テ申請者ノ相手方ハ其申立ヲ確ムヘキ證憑アルトキハ之ヲ提出スルコトヲ得

第三十九條 管海官廳ニ於テ前條ノ手續ヲ爲シタル後由請フ理由アリトスルトキハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項、船員法第三十條ニ依リ海員履止ノ公認ヲ爲シタルコト及公認ノ年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ履者ニ還付ス

第四十條 海員履入契約更新ノ公認ヲ申請セントスルトキハ履者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ更新ヲ爲シタル港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキ又ハ航行中更新ヲ爲シタルトキハ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

- 一 第五號書式ノ申請書
- 二 第二十五條第二號ノ書類
- 三 第三十四條第二號ノ書類

第四十一條 海員履入契約變更ノ公認ヲ申請セントスルトキハ履者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ變更ヲ爲シタル港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキ又ハ航行中變更ヲ爲シタルトキハ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一 第六號書式ノ申請書  
二 契約ノ變更被雇者ノ職務ニ係ル場合ニ於テ被雇者海技免狀ヲ有スルトキハ其免狀

第四十二條 第二十六條乃至第二十九條ノ規定ハ海員履入契約ノ更新又ハ變更ノ公認ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十三條 海員履入履止又ハ履入契約ノ更新若ハ變更ノ公認ノ認證ヲ申請シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿又ハ船長ノ證明書ニ依リ船員手帖ノ記載事項ヲ調査シ正當ト認ムルトキハ船員手帖ニ公認ノ認證ノ年月日及第三十一條、第三十二條又ハ第三十五條ノ二ノ場合ニ在リテハ公認ノ認證ノ事由ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シ履止ノ場合ニハ之ヲ海員ニ還付シ其他ノ場合ニハ之ヲ履者ニ交付ス

第四十三條ノ二 船員カ船員手帖ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ法令ニ特別ノ規定ナキ場合ニ於テモ管海官廳ニ申請シテ船員手帖ニ原手帖ニ記載アリタル事項ニ關スル認證ヲ受クルコトヲ得

第四十七條 第十六條第一項ノ規定ハ認印及欄外ノ記載ニ關スル規定ヲ除ク外第二十五條第三十條第三十一條第三十二條第三十四條第三十五條第四十條第四十一條又ハ第四十四條第二項ニ依リ海員名簿又ハ船員手帖ニ記載ヲ爲スニ當リ文字ヲ訂正、挿入又ハ削除シタル場合ニ之ヲ準用ス此場合ニハ管海官廳ニ於テ公認又ハ公認ノ認證ヲ爲スニ當リ之ヲ認印スルニアラサレハ文字ノ訂正、挿入又ハ削除ハ其效ヲ有セス

追3

第四十七條ノ二 管海官廳ハ年月日及管海官廳ノ名稱ヲ刻シタル印ヲ以テ第十七條、第十九條、第二十四條、第二十九條、第三十六條、第三十九條、第四十二條第一項、第四十三條、第四十三條ノ二第三項、第四十六條ノ年月日ノ記載及捺印ニ代フルコトヲ得

第四十八條 公認及公認ノ認證ハ管海官廳ニ於テ當事者ノ申請ニ定リ理由アリト認ムルトキハ管海官廳外ノ場所ニ於テ之ヲ行フコトアルヘシ

第五章 手数料

- 第四十九條 手数料ノ額左ノ如シ
  - 一 船員手帖ノ交付又ハ書換 一部ニ付 二十錢
  - 二 船員手帖(但シ行政區劃ノ變更ノ訂正ニ因ル場合ヲ除ク) 船員法第三條第二項ノ事項一箇ニ付 五錢
  - 三 報告書ノ認證 一通ニ付 一圓
  - 四 船長就職又ハ退職ノ認證 一件ニ付 二十錢
  - 五 公認 被雇者一人ニ付 十錢
  - 六 公認ノ認證 但船員法第三十四條ノ場合ニ於テハ被雇者一人ニ付 五錢
  - 七 外國ニ於テ手数料ヲ納付スヘキトキハ其額ハ左ノ規定ニ依ル
    - 一 報告書ノ認證 一通ニ付 二圓
    - 二 船長就職又ハ退職ノ認證 一件ニ付 四十錢

シ公認アリタル海員名簿、船長ニ於テ證明シタル海員名簿ノ原本、毀損シタル船員手帖又ハ相當官廳ノ證明書ヲ管海官廳ノ檢閱ニ供スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ認證ノ申請ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ前項ノ書類ニ依リ新手帖ノ記載事項ヲ調査シ正當ト認ムルトキハ前條ノ手續ニ依リ且認證ノ事由ヲ記載シテ認證ヲ爲ス

第四十四條 船員法第三十四條第一項ニ依リ公認ヲ申請セントスルトキハ左ノ書類ヲ添ヘ海員名簿ヲ作りタル港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキ又ハ航行中ノ作りタルトキハ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一 第七號書式ノ申請書  
二 第二十五條第二號ノ書類  
三 被雇者ノ船員手帖現存スルトキハ其手帖  
前項ノ海員名簿ニハ現ニ履入期間中ニ係ル海員ニ付テ書式ニ定ムル事項及原管海官廳ニ海員名簿ヲ提出スル場合ニ在リテハ被雇者總員ノ氏名、其他ノ場合ニ在リテハ前項ニ依リ提出スル船員手帖ヲ受有スル被雇者ノ氏名ヲ之ニ記載スヘシ

第二十六條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス  
第四十五條 第二十七條及第二十八條ノ規定ハ被雇者全部又ハ一部ノ船員手帖滅失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス  
但原管海官廳ニ前條ノ海員名簿ヲ提出スルトキハ此限ニアラス  
第四十六條 船員法第三十四條第一項ノ申請ニ依リ公認ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿ニ同項ノ公認ヲ爲シタルコト及公認ノ年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ第四十四條第二號及第三號ノ書類ト共ニ之ヲ船長ニ還付ス

三 公認 被雇者一人ニ付 二十錢  
 但船員法第三十五條ノ場合ニ於テハ被雇者一人ニ付 十錢  
 四 公認ノ認證 一件ニ付 十錢  
 前二項ノ手数料ハ第四條又ハ前條ノ場合ニ於テハ前二項ニ定ムル所ノ二倍トス

第五十條 前條第一項第一號ノ手数料ハ第八號書式ノ手数料納付書ニ其金額ニ相當スル收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納付スヘシ

前條第一項第二號乃至第六號ノ手数料ハ逓信大臣ノ告示スル場所ニ於テハ前項ノ規定ニ依リ、其他ノ場所ニ於テハ現金ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

前二項ニ依リ貼用シタル印紙ハ管海官廳ニ於テ消印ヲ爲スヘキモノトス但申請者ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ケナシ

第六章 罰則

第五十一條 第十三條第二項第二十條第一項第二十一條第二十二條ノ二第一項第三十一條第二項又ハ第三十二條ニ違反シタル者第二十二條ノ命令ニ違反シテ管海官廳ニ遺産ヲ差出ササル者又ハ第三十五條第二項ニ屬メタル證明書ノ交付又ハ公證ノ通知ヲ爲ササル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第五十二條 本則ハ船員法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五十三條 從來ノ海員名簿ヲ提出シテ海員雇入ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ被雇者(海員)氏名、浦役人檢印及事故摘要ノ欄ヲ除ク外其各欄ニ相當ノ事項ヲ記載スヘシ

第五十四條 前條ノ場合ニ於テハ雇者ハ明治年月日雇主ト記載シタル下

及該期間満了後初メテ雇入ノ公認ヲ受ケル場合ニ雇者ヨリ之ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

前項ニ依リ提出シタル海員雇止證書又ハ第五十九條ノ書面ニハ管海官廳ニ於テ雇入ノ公認ヲ爲シタルトキ其裏面ニ公認ノ年月日及船員ノ名稱ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ雇者ニ還付スヘシ

附則 (大正十二年十月逓信省令第八四號)

本令ハ大正十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ汽船ニ乗組メル者ハ逓滞ナク第八條ノ二第一項ノ例ニ準シ其ノ手續ヲ爲スヘシ

本令施行前交付ヲ受ケタル船員手帖ニ付テハ第九條ノ三第一項ニ定ムル期間ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

附則

本令ハ昭和五年五月十日ヨリ之ヲ施行ス  
 明治三十二年六月逓信省令第二十五條第二號書式ニ依ル船員手帖ハ當分ノ間仍之ヲ使用スルコトヲ得  
 前項ノ船員手帖ヲ以テ雇入ノ公認ノ認證ヲ申請セントスル場合ニ於テハ機關ノ種類及公稱馬力ハ「積量」ノ欄ニ手當ハ「給料」ノ欄ニ併列シテ之ヲ記載スヘシ

第七節 渡航、移民

移民保護法 (明治二十九年四月八日法律第七十號)

第一章 移民

第一條 本法ニ於テ移民ト稱スルハ勞働ニ従事スルノ目的ヲ以テ清韓兩國以外ノ外國ニ渡航スル者及其ノ家族ニシテ之ト同行シ又ハ其ノ所在地ニ渡航スル者ヲ謂フ  
 前項ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
 第二條 移民ハ行政廳ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ外國ニ渡航スルコトヲ得ス

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

被雇者ハ被雇者(海員)氏名ノ欄ニ署名捺印スヘシ

第五十五條 從來ノ海員名簿ヲ提出シテ海員雇止ノ公認ヲ申請セントスルトキハ本則施行前ニ雇入ノ公認ヲ受ケタル者ナルト否トヲ問ハス雇止ノ事由、場所及年月日ヲ之ニ記載スヘシ

第五十六條 前條ノ規定ハ從來ノ海員名簿ヲ提出シテ海員雇入契約ノ更新又ハ變更ノ公認ヲ申請セントスル場合ニ之ヲ準用ス

第五十七條 前二條ノ場合ニ於テ當事者ヲシテ署名捺印セシムルニハ各條ノ記載ヲ爲シタル次行ニ之ヲ爲サシムヘシ

第五十八條 海員ノ雇止、雇入契約ノ更新又ハ變更ノ公認ニ關シ第三十六條第三十九條第四十二條又ハ第四十六條ニ依リ管海官廳ニ於テ爲スヘキ記載及捺印ハ前條ノ署名捺印ヲ爲シタル次行ニ之ヲ爲ス

第五十九條 船員法施行ノ日ヨリ六箇月間ニ海員雇止ノ公認ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ左ノ事項ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シタル書面ヲ海員ニ交付スヘシ

- 一 船舶ノ名稱、番號、積量、船籍港及船舶所有者ノ氏名又ハ名稱
- 二 海員ノ氏名及本籍地
- 三 雇入ノ公認アリタル年月日、場所、海員ノ従事シタル職務及給料
- 四 雇止ノ公認アリタル年月日、場所及雇止ノ事由

第六十條 從來ノ海員名簿ニシテ二葉以上ノ用紙ヲ綴合シタルモノニハ管海官廳ニ於テ公認ヲ爲ストキ其各葉ニ契印スヘシ

第六十一條 第四章中海員名簿ニ關スル規定ハ前八條ニ於テ特ニ明文ヲ掲ケル場合ヲ除ク外從來ノ海員名簿ニ付テ之ヲ準用ス

第六十二條 最後ノ雇止ノ公認アリタルコトヲ證スル海員雇止證書又ハ第五十九條ノ書面ハ船員法施行後六箇月間ニ雇入ノ公認ヲ受ケル場合

渡航ノ許可ハ其ノ許可ノ日ヨリ六箇月以内ニ出發セサルトキハ效力ヲ失フモノトス

第三條 行政廳ハ渡航スヘキ地ノ情況ニ因リ移民取扱人ニ依ラサル移民ヲシテ適當ト認ムル二人以上ノ保證人ヲ定メシムルコトヲ得

保證人ハ移民ノ疾病其ノ他困難ノ場合ニ於テ之ヲ救助シ若ハ歸國セシムヘシ又行政廳ニ於テ移民ヲ救助シ若ハ歸國セシメタルトキハ其ノ費用ヲ辨償スヘシ

第四條 行政廳ハ移民保護ノ爲若ハ公安保持ノ爲又ハ外交上必要ト認ムルトキハ移民ノ渡航ヲ差止メ又ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

渡航差止中ノ日數ハ第二條第二項ノ期間ニ算入セス

第二章 移民取扱人

第五條 本法ニ於テ移民取扱人ト稱スルハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラズ移民ヲ募集シ又ハ其ノ渡航ヲ周旋スルヲ以テ營業ト爲ス者ヲ謂フ

移民取扱人ハ行政廳ノ許可ヲ得テ移民ト直接ノ關係ヲ有スル業務ヲ營ムコトヲ得

第六條 移民取扱人タラムト欲スル者ハ行政廳ノ許可ヲ受ケヘシ

移民取扱人ノ許可ハ其ノ許可ノ日ヨリ六箇月以内ニ營業ヲ開始セサルトキハ效力ヲ失フモノトス

第七條 一 帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員若ハ株主トスル商會社ニシテ帝國ニ於テ主タル營業所ヲ有スルモノニ非サレハ移民取扱人タルコトヲ得ス

前項ノ外移民取扱人ニ要スル資格ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條ノ二 移民取扱人ハ渡航ノ周旋ヲ爲シタル移民ニ對シ渡航ノ日ヨリ滿十箇年間第三條第二項ニ規定シタル保證人ノ義務ヲ負フ

第八條 行政廳ハ移民取扱人ノ行為法律命令ニ違反シタルトキ若ハ公安ヲ害スルモノト認ムルトキ又ハ移民取扱人保證金ノ納付ヲ遲滞シタルトキハ其ノ營業ヲ停止シ又ハ營業ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第九條 移民取扱人ハ營業ヲ停止セラレ又ハ休業シタルトキト雖既ニ渡航セシメタル移民ニ對シ契約ノ履行ヲ中止スルコトヲ得ス

第十條 移民取扱人代理人ヲ定メ其ノ業務ヲ行ハシムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條 移民取扱人ハ業務擔當社員若ハ取締役又ハ代理人ヲ在留セシメサル地ニ移民ヲ渡航セシムルコトヲ得ス

第十二條 移民取扱人ハ移民トシテ渡航スル者ニ非サレハ其ノ周旋又ハ募集ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條 移民取扱人ハ勞働契約ニ因リ渡航スル移民ノ渡航ノ周旋又ハ募集ヲ爲スコトキハ移民ト書面契約ヲ爲シ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十四條 移民取扱人ハ手数料ノ外何等ノ名義ヲ以テスルチ問ハス移民ヨリ金錢又ハ物品ヲ受クルコトヲ得ス但シ其ノ手数料ハ豫メ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十五條ノ一 移民取扱人移民ヲ募集スルトキハ出發セシムヘキ期日ヲ豫定シテ之ヲ示スヘシ移民取扱人正當ノ理由ナクシテ豫定ノ期日內ニ移民ヲ出發セシメサルトキハ其ノ出發延期ノ爲ニ生スル移民ノ費用ヲ負擔スヘシ

第十五條ノ二 行政廳ハ必要ト認ムルトキハ移民取扱人ニ同業組合ノ設立ヲ命スルコトヲ得

同業組合ハ法人トス

同業組合ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 移民取扱人ハ行政廳ニ保證金ヲ納付シタル後ニ非サレハ其ノ營業ヲ開始スルコトヲ得ス

第十七條 行政廳ハ必要ト認ムルトキハ保證金額ヲ増減スルコトヲ得但シ前條ノ金額以下ニ下スコトヲ得ス

第十八條 行政廳ニ於テ移民取扱人移民ニ對シ契約ヲ履行セス又ハ第七條ノ二ニ規定シタル保證金ノ義務ヲ履行セスト認メタルトキハ保證金ヨリ其ノ費用ヲ支出シテ移民ヲ救助シ又ハ歸國セシムルコトヲ得

第十九條 移民取扱人死亡、解散、營業許可ノ取消又ハ其ノ理由ニ依リ營業ヲ廢止スルモ保證金ハ行政廳ニ於テ領置ノ必要アリト認ムル間ハ其ノ全部又ハ一部ヲ還付セサルコトヲ得

第二十條ノ一 移民取扱人營業中及前條行政廳ニ於テ保證金額置ノ必要アリト認ムル間ハ移民又ハ其ノ相續人カ本法ニ從ヒタル契約ニ基キ權利ヲ執行スル場合ノ外何人ト雖保證金ニ對シテ債權取立ヲ爲ス事ヲ得ス

第四章 移民運送船

第二十一條 本法ニ於テ移民運送船ト稱スルハ命令ヲ以テ定ムル地方ニ渡航スル五十人以上ノ移民ヲ搭載スル船舶ヲ謂フ

第二十二條 移民運送船ニ依リ移民ノ運送ハ行政廳ノ許可ヲ受タルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ許可ヲ受ケタル者ハ行政廳ノ定ムル所ニ依リ保證金ヲ納付スヘシ

第二十三條 法律命令ニ違反シタル移民ノ渡航ヲ周旋シ又ハ渡航禁止中ニ移民ヲ渡航セシメタル移民取扱人、代理人ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 行政廳ノ許可ヲ受ケスシテ移民取扱人ノ行為ヲ爲シタル者又ハ營業停止中ニ移民ヲ募集シ又ハ其ノ渡航ノ周旋ヲ爲シタル移民取扱人及代理人ハ二百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

行政廳ノ許可ヲ受ケスシテ第五條第二項ノ營業ヲ爲シタル移民取扱人亦前項ニ同シ

第二十五條 移民取扱人行政廳ノ許可ヲ受ケサル代理人ナシテ其ノ行為ヲ爲シタル代理人亦同シ

第二十六條ノ一 誘惑ノ手段ヲ以テ移民ヲ募集シ若ハ渡航ノ周旋ヲナシタル移民取扱人及代理人ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二十六條ノ二 第二十五條ノ三ニ違反シタル者ハ五百圓以上一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條ノ三 第二十五條ノ五ニ違反シタル者ハ二百圓以上三千圓以下ノ罰金ニ處ス行政廳カ移民運送船ノ發着港ヲ指定シタル場合ニ於テ其ノ指定ニ違反シタル者亦同シ

第二十七條 行政廳ハ前條ノ許可ヲ受ケタル者ノ行為ニシテ法令ニ違反シタルトキ又ハ移民ノ利益ヲ害スルモノト認ムルトキハ其ノ營業ヲ停止シ又ハ營業ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第六條 罰則

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通



第二十六條ノ四 第二十條ノ七ニ依リ行政廳ノ命シタル報告ヲ爲ササル者ハ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條ノ五 第二十條ノ八、第二十條ノ九及第二十條ノ十二違反シタル者ハ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 本法ノ罰則ハ商會社ニ在テハ其ノ各條ニ掲ケル行爲ヲ爲シタル業務擔當社員又ハ取締役ニ之ヲ適用ス

第七節 附則

第二十八條 本法施行以後ヨリ當該官廳ノ許可ヲ受ケ營業スル移民取扱人ハ本法施行ノ際別ニ許可ヲ受ケルヲ要セス本法ノ規定ニ依リ其營業ヲ繼續スルコトヲ得但シ其ノ營業ヲ繼續セザルトキト雖其ノ既ニ納付シタル保證金ニ對シテ仍本法ノ規程ヲ適用ス

第二十九條 本法ハ帝國ト締結シタル特別ノ條約ニ基キ渡航スル移民及其ノ取扱人ニ適用セス

第三十條 本法施行ノ爲ニ必要ナル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一條 本法ハ明治二十九年六月一日ヨリ施行ス

明治二十七年勅令第四十二號移民保護規則ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

移民保護法施行細則 (明治四十年六月八日 外務省令第三號)

【沿革】 明治四十二年五月省令第四號、大正三年十一月同第三號、同九年十二月同第九號、昭和三年十二月同第一二號、同四年五月同第六號改正

第一章 移民

第一條 移民保護法第一條ノ労働ハ農業、漁業、鑛業、工業、土木、運搬、建築、炊事、洗濯、裁縫、理髮、給仕及看病等ニ關スル労働トス

第二條 移民取扱人移民ヲ募集セントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ毎年豫

メ外務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

一 移民ヲ渡航セシムヘキ地及該地方ノ狀況

二 移民取扱ニ關シ外國官憲又ハ外國若ハ内國ノ會社個人等ト契約ルコトキハ該契約書寫

三 募集移民ノ資格條件

四 移民ノ業務及其ノ收入又ハ所得ノ豫定額

五 移民ノ負擔トナルヘキ金額

六 移民トノ契約書案

七 其ノ年四月一日ヨリ翌年三月末日ニ至ル間ノ移民募集豫定數及之

カ地方別募集配當表

八 募集ノ方法

移民取扱人前項ノ認可ヲ受ケタル後前項第三號及第五號乃至第八號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ豫メ外務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ但シ地方別募集配當表ヲ變更スル場合ニ限り之ヲ外務大臣及關係地方長官ニ届出ツヘシ

移民取扱人前二項ノ認可ヲ受ケタルトキハ該認可書ノ寫及之カ出願書類ノ寫ヲ添ヘ其ノ旨豫メ移民募集地ノ地方長官ニ届出ツヘシ但シ第一項第二號ノ書類ハ之カ添附ヲ省略スルコトヲ得

前項ノ出願書ニハ移民取扱人ニ依ル者ニ在リテハ移民取扱人之ニ連署シ移民保護法第三條ニ依リ保證人ヲ要スル地ニ渡航スル者ニ在リテハ保證人之ヲ連署スヘシ但シ契約移民ニ在リテハ出願ノ際移民保護法第十三條第一項ノ契約書寫ヲ添附スヘシ

第三條 移民保護法第三條ニ依リ保證人ヲ定メシムヘキ地ハ外務大臣之ヲ告示ス

第四條 移民保護法第三條ノ保證人ハ本籍地又ハ寄留地ノ地方長官ニ於テ適當ト認ムル者ニ限ル

第二章 移民取扱人

第五條 移民取扱人タラムトスル者ハ左ノ事項ヲ詳記シ外務大臣ニ出願シテ許可ヲ受ケヘシ但シ商會社ノ場合ニ於テ合名會社ニ在リテハ總社員、合資會社ニ在リテハ無限責任社員、株式會社ニ在リテハ發起人又ハ取締役、株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ヨリ出願シ且定款ヲ添附スルコトヲ要ス

一 商號アルモノハ商號

二 營業所

三 營業資本金額

四 營業年限ヲ定ムルモノハ其ノ年限

五 移民ヲ渡航セシムヘキ地

六 移民募集ノ方法及其ノ渡航前後ニ於ケル周旋方法

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

七 出願者ノ履歴

八 出願者ノ財産但シ合名會社及合資會社ニ在リテハ各社員ノ出資額及財産、株式會社ニ在リテハ發起人又ハ取締役ノ株式引受又ハ所有額及財産並株式ノ總數及一株ノ金額、株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ出資額、株式引受額及財産並株式總數及一株ノ金額、移民取扱人ノ相續人ニシテ其ノ營業ヲ繼續セムトスル者又ハ移民取扱人ノ營業ヲ讓受ケムトスル者ニ關シテハ前項ノ規定ヲ準用ス

第六條 移民取扱人前條ニ依リ許可ヲ受ケタル後左ノ場合ニ於テハ外務大臣ノ許可ヲ受ケヘシ

- 一 前條第一項第二號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ變更セムトスルトキ
  - 二 合名會社及合資會社ニ在リテ社員及其ノ出資額ヲ變更セムトスルトキ又ハ新ニ社員ヲ加入セシメントスルトキ但シ新ニ社員ト爲リタル者ニ關シテハ其ノ履歴書及財産調査、出資額ヲ變更セムトスル者ニ關シテハ其ノ財産調査ヲ添付スルヲ要ス
  - 三 株式會社ニ在リテ取締役ヲ選任セムトスルトキ並資本金、株式ノ總數及一株ノ金額ヲ變更セムトスルトキ
  - 四 株式合資會社ニ在リテ無限責任社員及其ノ出資額又ハ株式引受額ヲ變更セムトスルトキ又ハ株式ノ總數及一株ノ金額ヲ變更セムトスルトキ
- 第七條 左ノ事項ハ移民取扱人ニ於テ一週間以内ニ外務大臣ニ届出ツヘシ
- 一 商號ノ新設、取得、變更又ハ廢止
  - 二 開業ノ年月日

三 業務執行社員ノ選任及業務執行社員又ハ取締役ノ解任又ハ死亡

- 四 同一廳府縣内ニ於ケル主タル營業所ノ移轉
- 五 支店又ハ出張所ノ廢置移轉
- 六 前數號ニ掲ケタルモノノ外法令ノ規定ニ依リ登記シタル事項
- 七 商會社ニ在リテハ前條第二號乃至第四號ニ掲ケタルモノノ外定款ヲ變更シタルトキ

移民取扱人死亡シタルトキハ其ノ相續人ヨリ届出ヲ爲スヘシ  
主タル營業所ヲ置ク廳府縣以外ノ地ニ於ケル支店又ハ出張所ノ廢置移轉ハ一週間以内ニ其ノ他ノ地方長官ニモ届出ツヘシ

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者及外務大臣ニ於テ不適當ト認ムル者ハ移民取扱人又ハ代理人タルコトヲ得ス

- 一 禁治產者準禁治產者
  - 二 剽奪公權者及停止公權者
  - 三 家産分敗又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタル時ヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者
  - 四 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル時ヨリ其ノ裁判確定スルニ至ル迄ノ者
- 第九條 移民取扱人移民保護法第五條第二項ノ業務ヲ兼營セムトスルトキハ左ノ事項ヲ詳記シ外務大臣ニ出願シテ許可ヲ受ケヘシ
- 一 兼營スヘキ業務ノ種類及其ノ業務ヲ經營セムトスル地方
  - 二 兼營スヘキ業務ト移民トノ關係
  - 三 兼營スヘキ業務ニ充當スヘキ資本金額
  - 四 兼營スヘキ業務經營ノ方法
- 移民取扱人移民渡航地ニ於テ業務ヲ兼營セムトスル場合ニ於テハ前項

ノ出願書ニ該地方ノ狀況書ヲ添附スルヲ要ス

第十條 移民取扱人前條ニ依リ許可ヲ受ケタル後其ノ業務ノ兼管ヲ廢止セムトスルトキ又ハ前條第一項各號ニ掲ケタル事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事情ヲ詳記シ外務大臣ニ出願シテ許可ヲ受ケヘシ

第十一條 移民保護法第十條ニ依リ移民取扱人ニ於テ代理人ヲ定ムトスルトキハ左ノ事項ヲ詳記シタル書類ヲ添附シ外務大臣ニ出願シテ許可ヲ受ケヘシ  
一 内地代理人ト海外代理人ノ別  
二 代理人ノ履歴  
三 代理人ノ財産

外務大臣前項ノ許可ヲ與ヘタルトキハ附屬第一號書式ノ許可證ヲ移民取扱人ニ下付ス但シ移民取扱人ハ該許可證ヲ代理人ニ交付スヘシ  
代理人ノ解任又ハ死亡ハ移民取扱人ニ於テ解任ノ日又ハ死亡ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ一週間以内ニ外務大臣ニ届出ツヘシ

第十二條 外務大臣ハ代理人ノ行為法令ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害スルモノト認メタルトキハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十三條 移民取扱人又ハ代理人カ本店、支店又ハ出張所ニ於テ使用スル事務員ノ選任ハ所在地地方長官ノ定ムル所ニ所リ同長官ニ出願シテ認可ヲ受ケヘシ

第十四條 代理人其ノ業務ヲ行フトキハ許可證ヲ、移民取扱人又ハ代理人ノ使用スル事務員其ノ事務ヲ行フトキハ認可證ヲ携帯スヘシ

前項ノ場合ニ於テ移民取扱人ハ遲滞ナク其旨ヲ外務大臣ニ届出ツヘシ

第二十條 移民取扱人移民ヲ募集セムトスルトキハ移民募集地方別豫定表ヲ添附シ豫メ之ヲ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

第二十一條 移民取扱人又ハ代理人移民募集ノ目的ヲ以テ新聞紙ニ廣告文ヲ掲載シ又ハ印刷物ヲ配付セムトスルトキハ豫メ外務大臣ニ出願シテ認可ヲ受ケヘシ

第二十二條 移民取扱人移民ヲ募集ナク爲スニ當リテハ自己所在ノ地又ハ業務執行社員若ハ取締役ノ在留スル地方ヲ除ク外代理人ヲシテ募集ノ期間其ノ募集ノ地ニ在留セシムルコトヲ要ス

第二十三條 移民保護法第十三條ノ契約書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス  
一 契約期限  
二 手数料  
三 渡航及歸航費用ノ支辨方法  
四 賃金及賃金ノ支辨方法  
五 渡航地ニ於ケル周旋方法  
六 移民ノ疾病其ノ他困難ノ場合ニ於ケル救助又ハ歸國ノ方法

移民取扱人ハ前項契約書ノ全文ニ移民渡航地ノ狀況書ヲ添附シ移民本籍地又ハ寄留地ノ地方長官ニ出願シテ認可ヲ受ケヘシ

第二十四條 移民取扱人移民ニ關シテ別ニ他人ト契約ヲ爲シタルトキハ該契約書寫ヲ添附シ其ノ旨ヲ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

テ且其ノ移民ノ渡航地ヲ管轄スル在外帝國官廳ニモ届出ツヘシ

移民取扱人前項ノ契約ニ基キ移民ヲ募集セムトスルトキハ前條ノ手續ヲ爲スニ當リ該契約書寫ヲ添附スヘシ

代理人死亡シタルトキ解任セラレタルトキ又ハ其ノ許可ヲ取消サレタルトキハ移民取扱人ハ遲滞ナク許可證ヲ外務大臣ニ返納スヘシ

移民取扱人又ハ代理人ノ使用スル事務員死亡シタルトキ又ハ解任セラレタルトキハ移民取扱人又ハ代理人ハ遲滞ナク其認可證ヲ當該地方長官ニ返納スヘシ

第十五條 業務執行社員、取締役又ハ代理人ニシテ移民渡航地ニ渡航スルトキ又ハ渡航地ヨリ歸國シタルトキハ移民取扱人ハ遲滞ナク其旨ヲ外務大臣ニ届出ツヘシ

第十六條 移民渡航地ニ在留スル業務執行社員、取締役又ハ代理人ニシテ歸國ノ爲出立セムトスルトキ又ハ一時其ノ地ヲ去ラムトスルトキハ所轄在外帝國官廳ニ出願シテ許可ヲ受ケヘシ

第十七條 外務大臣必要ト認ムルトキハ移民取扱人カ移民渡航地内ニ於テ業務執行社員、取締役又ハ代理人ヲ在留セシムヘキ場所ヲ指定スルコトアルヘシ

第十八條 移民渡航地ニ在留スル業務執行社員、取締役又ハ代理人ハ移民名簿ヲ備ヘ移民ノ就業地、職業及雇主ノ氏名ヲ明記シ且契約移民ニ付テハ賃金支拂簿ヲ備ヘ官廳ノ命アルトキハ何時ニテモ之ヲ示スヘシ

第十九條 移民ニシテ渡航地外ニ轉住シタルトキハ其ノ渡航地ニ在留スル業務執行社員、取締役又ハ代理人ハ遲滞ナク其ノ氏名及轉住地ヲ在留地及轉住地ノ在外帝國官廳ニ届出ツヘシ

主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官必要ト認ムルトキハ第一項契約書ノ原本ノ提示ヲ命スルコトアルヘシ

第二十五條 當該官廳ニ於テ移民保護法第十三條ニ掲ケタル契約書ヲ示スヘキコトヲ命シタルトキハ移民取扱人及移民ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十六條 移民保護法第十四條ニ依リ手数料ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ移民取扱人ハ移民ノ渡航地及手数料ノ額ヲ記載シ移民本籍地又ハ寄留地ノ地方長官ニ出願スヘシ

第二十七條 移民取扱人移民保護法第十五條ノ一ニ依リ豫定シタル移民ノ出發期日ヲ移民ニ通知スルニハ書面ヲ以テスルコトヲ要ス

移民取扱人前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ主タル營業所ヲ置ク地及移民出發港所在地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

第二十八條 移民出發港所在地ノ地方長官必要ト認ムルトキハ其ノ地ニ代理人ヲ在留セシムヘキ旨ヲ移民取扱人ニ命スルコトアルヘシ

第二十九條 移民取扱人移民ヲ渡航セシムルトキハ移民ノ出發ト同時ニ移民ノ氏名ヲ其ノ渡航地ヲ管轄スル在外帝國官廳ニ届出ツヘシ但シ契約移民ニ係ルトキハ移民保護法第十三條第一項ノ契約書寫ヲ添附スヘシ

第三十條 移民ノ身上ニ關スル異變其ノ他移民ニ關スル重要ナル事件ハ移民取扱人直ニ之ヲ外務大臣ニ届出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ移民渡航地ニ在留スル業務執行社員、取締役又ハ代理人ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ所轄在外帝國官廳ニ届出ツヘシ

第三十一條 移民取扱人ハ附屬第二號書式ニ依リ毎月末日渡航者名簿ヲ調製シ翌月五日迄ニ又附屬第三號及第四號書式ニ依リ毎年末日歸國者名簿及死亡者名簿ヲ調製シ翌年三月三十一日迄ニ外務大臣提出スヘシ

第三十二條 外務大臣必要ト認ムルトキハ別ニ定ムル移民取扱人同業組合規程ニ準據シ該組合ヲ設立スヘキコトヲ移民取扱人ニ命令ス

第三十三條 本章中移民取扱人ヨリ外務大臣ニ出願又ハ届ツ爲スヘキ場合及第三十一條ニ依ル名簿ヲ提出スヘキ場合ニ於テハ其ノ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官ヲ經由スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ提出書類ノ原本一通ヲ添へ原本ト共ニ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第三章 保證金

第三十四條 移民保護法第十六條ニ掲ケタル保證金ハ之ヲ主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官ニ納付スヘシ

第三十五條 移民取扱人ノ納付スヘキ保證金ノ額及其ノ増減ハ外務大臣ニテ定ム

第三十六條 移民取扱人ノ納付スヘキ保證金ハ國債證券ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

前項國債證券ノ價格ハ其ノ納付ヲ受クヘキ地方長官ノ定ムル所ニ依ル

本條證券ノ價格ニ異動アリタルトキハ地方長官ハ移民取扱人ヲシテ之ニ依リ生シタル不足額ヲ追納セシムヘシ

第三十七條 主タル營業所ヲ置ク地ノ地方長官ハ移民取扱人ノ保證金ノ増額ヲ追納セシメ又ハ其ノ缺損ヲ填補セシムル場合ニ於テ一箇月以内ノ猶豫ヲ與フルコトヲ得

第四節 移民運送船

第三十八條 移民保護法第二十條ノ二ニ依リ命令ヲ以テ定ムル地方外務大臣之ヲ告示ス

務大臣之ヲ告示ス

第三十九條 移民保護法第二十條ノ二ニ依リ移民ノ員數ヲ算定スル場合ニ於テ五年以上十二年未満ノ者ハ二人ヲ以テ、二年以上五年未満ノ者ハ四人ヲ以テ一人ニ積算シ二年未満ノ者ハ之ヲ算入セス

第四十條 移民運送船ニ依リ移民ノ運送ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ詳記シ帝國運送業者ニ在リテハ其ノ本店所在地ノ地方長官ヲ經由シ外國運送業者ニ在リテハ帝國内ニ在ル其ノ代表者所在地ノ地方長官ヲ經由シ外務大臣ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ但シ船體證書並移民運送船體ナルトキハ備船契約書寫ヲ添付スルコトヲ要ス

- 一 商號アルモノハ其ノ商號
  - 二 本店所在地
  - 三 移民運送船
  - 四 船長ノ國籍、住所、氏名
  - 五 移民乗船港、到着港並寄航港
  - 六 移民乗船港ヨリ到着港ニ至ル迄ノ航海豫定日數
  - 七 營業資本金額
  - 八 運送スヘキ移民ノ豫定人員
- 同一運送業者カ同一航路ニ使用スル移民運送船ハ二隻以上ヲ同一ノ國書ニ併記スルコトヲ得
- 外務大臣必要ト認ムルトキハ出願者ノ履歷書、商會社ニ在リテハ其ノ定款ヲ提出セシムルコトアルヘシ
- 第四十一條 第三十八條ニ依リ外務大臣ノ告示シタル地方ニ於ケル一定ノ港ヘ一箇年二回以上航海ヲ爲ス移民運送船ニ關シテハ二回以上ノ運送ニ付同時ニ前條ノ出願ヲ爲スコトヲ得但シ一箇年ヲ超ユル期間ニ互

ルコトヲ得ス

第四十二條 外務大臣移民運送船ニ依リ移民ノ運送ヲ許可シタルトキハ附屬第五號書式ニ依リ移民運送許可證ヲ下付ス

第四十三條 第四十條ノ許可ヲ受ケタル運送業者ニシテ同條第一項第三號及第五號ニ掲ケタル事項ヲ變更シタルトキハ同條ノ手續ニ準シ

外務大臣ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ

前項ノ運送業者第四十條第一項第一號、第二號、第四號、第七號及第八號ニ掲ケタル事項ヲ變更シタルトキハ同條ノ手續ニ準シ之ヲ

外務大臣ニ届出ツヘシ

第四十四條 移民運送船ニ依リ移民ノ運送ヲ爲サムトスル者第四十二條ノ許可證ヲ下付セラレタルトキハ該許可證ヲ移民運送船長ニ交付スヘシ

移民運送船長ハ官廳ノ命アルトキハ何時ニテモ前項ノ許可證ヲ提示スヘシ

第四十五條 移民運送業者移民到着港ニ移民ノ運送ヲ了シタルトキハ運送ナク第四十條ノ手續ニ依リ運送許可證ヲ外務大臣ニ返納スヘシ

第四十一條ノ出願ニ基キ下付セラレタル許可證ノ期間満了シタルトキ亦同シ

第四十六條 移民保護法第二十條ノ三第二項ニ依リ納付スヘキ保證金ノ額ハ外務大臣隨時之ヲ定ム

前項ノ保證金ハ第四十二條ノ許可證ヲ下付セラレタルトキ出願者ヨリ即時ニ之ヲ當該地方長官ニ納付スヘシ

本條ノ保證金ニ關シテハ第二十六條及第三十七條ノ規定ヲ準用ス

第四十七條 移民運送船ニ依リ移民ノ運送ヲ爲スル者ハ移民運送業者ハ

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

可ヲ受クヘシ

第四十條ノ出願ト同時ニ同條ノ手續ニ準シ豫メ外務大臣ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ

第四十八條 運送業者第四十一條ノ出願ヲ爲ス場合ニ於テハ一定ノ期間ニ對スル運送貨ノ最高額ヲ定メ其ノ認可ヲ出願スルコトヲ得

運送業者前項ノ認可ヲ受ケタル後所定ノ期間内ニ運送貨最高額ノ増額ヲ爲サムトスルトキハ外務大臣ニ出願シテ増額ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第四十九條 前條ニ依リ運送貨最高額ノ認可ヲ受ケタル運送業者ハ運送貨ノ額ヲ定メ、航前五日迄ニ之ヲ移民乗船港所在地ノ地方長官ニ届出ツヘシ但シ運送貨ニ變更ナキ時ハ本條ノ届出ヲ要セス

第五十條 移民運送業者ハ移民運送船發航ノ日時ヲ豫メ移民乗船港所在地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

第五十一條 二 植民地ヲ經營スルコトヲ以テ主タル目的トスル者カ自己ノ經營スル植民地ニ入植セシムル爲メ移民ヲ募集セントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ毎年豫メ外務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

- 一 植民地ノ所在及植民地ノ狀況
- 二 植民地ノ經營方法
- 三 植民地經營ニ關シ植民地所在國官憲トノ間ニ契約アルモノ又ハ該官憲ノ許可又ハ承認ヲ得タルモノニ在リテハ該契約書、許可書又ハ承認書ノ寫
- 四 募集移民ノ資格條件
- 五 入植移民ノ業務及其ノ收入又ハ所得ノ豫定額
- 六 移民ノ負擔トナルヘキ金額
- 七 入植移民ノ疾病其ノ他困難ノ場合ニ於ケル救助方法

一三一

八 移民トノ契約書案

九 其ノ年四月一日ヨリ翌年三月末日ニ至ル間ノ移民募集豫定數及之カ地方別募集配當表

十 募集ノ方法及募集ニ關シ廣告ヲ爲シ又ハ印刷物ヲ配付セントスルトキハ該廣告又ハ印刷物ノ文案

十一 經營者ノ資産、經營者カ法人ナルトキハ該法人ノ定款又ハ寄附行爲及登記簿謄本

植民地經營者カ前項ノ許可ヲ受ケタル後前項第四號及第六號乃至第十號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ豫メ外務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ地方別募集配當表ヲ變更スル場合ニ限り之ヲ外務大臣及關係地方長官ニ届出ツヘシ

植民地經營者カ前二項ノ許可又ハ認可ヲ受ケタルトキハ該許可書又ハ認可書ノ寫及之カ出願書類ノ寫ヲ添ヘ其ノ旨豫メ移民募集地ノ地方長官ニ届出ツヘシ但シ第一項第三號ノ書類ハ之カ添附ヲ省略スルコトヲ得

第五十條ノ三 植民地經營者カ自己ノ經營スル植民地ニ入植セシムル爲移民ヲ募集スルニ當リ代理人ヲ定メ又ハ事務員ヲ使用シ及該代理人カ事務員ヲ使用スル場合ハ移民取扱人ノ代理人又ハ事務員ニ關スル規定ヲ準用ス

第五章 雜則

第五十一條 金錢貸付ヲ業トスル者ニシテ移民ニ對シ渡航費其他渡航ノ準備ニ必要ナル金錢ヲ貸與セムトスルトキハ利率償還ノ方法其ノ他契約條件ノ要領ヲ記載シ其ノ所轄地方長官ニ出願シテ認可ヲ受クヘシ

第五十二條 前條ノ認可ヲ受ケタル金錢貸付業者ハ移民貸付金ニ付別ニ

帳簿ヲ備ヘ置クコトヲ要ス

當該官吏ハ前項帳簿ノ検査ヲ行フコトアルヘシ此場合ニ於テ金錢貸付業者ハ其ノ検査ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十三條 移民出發港ニ於テ移民宿泊業ヲ營マムトスル者ハ其ノ地方長官ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ

第五十四條 移民取扱人ニ非スシテ移民乗船ニ關スル周旋ヲ爲サムトスル者ハ移民乗船地ノ地方長官ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ

第五十五條 前二條ノ許可及第五十一條ノ認可ノ出願手續ニ關スル規程並前二條ノ許可ヲ受ケタル者及第五十一條金錢貸付業者ノ取締ニ關スル規程ハ地方長官之ヲ定ム

第六章 罰則

第五十六條 第六條、第十條、第十三條第一項、第十四條、第十六條第一項、第十八條、第二十條第一項及第二項、第二十一條、第二十二條、第二十四條第一項第二項、第二十五條、第二十七條、第三十條、第三十一條、第四十三條、第四十四條、第五十條ノ二第一項及第二項、第五十條ノ三又ハ第五十二條ニ違反シタル者ハ二十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十七條 第七條、第十一條第三項、第十五條、第十九條、第二十條第三項、第二十九條、第四十五條、第四十九條又ハ第五十條及第五十條ノ二第三項ニ違反シタル者ハ十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十七條ノ二 法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本令ニ違反シタルトキハ本令ニ規定シタル罰則ヲ法人ノ代表者ニ適用ス

移民保護法第三條ニ依リ移民ヲシテ

保證人ヲ定メシムヘキ地名

(明治四十年六月十一日 外務省告示 第十四號)

移民保護法第三條ニ依リ移民ヲシテ保證人ヲ定メシムヘキ地ヲ左ノ通相定メ本年七月一日ヨリ施行ス

- 一 比律賓群島
- 一 澳洲及太平洋諸島
- 一 暹羅國
- 一 墨西哥國
- 一 伯刺西爾國
- 一 智利國
- 一 秘魯國
- 一 亞爾然丁國
- 一 亞弗利加洲

移民保護法第二十條ノ二ニ依リ命令

ヲ以テ定メシムヘキ地名

(明治四十年六月十四日 外務省告示 第十五號)

【沿革】 明治四十年告示第一九號、同四十四年二月同第二號改正 移民保護法第二十條ノ二ニ依リ命令ヲ以テ定メシムヘキ地ヲ左ノ通相定メ本年七月一日ヨリ施行ス

- 一 米領布哇
- 一 墨西哥國
- 一 伯刺西爾國
- 一 智利國
- 一 秘魯國
- 一 亞爾丁國
- 一 英領加奈陀
- 一 比律賓群島
- 一 太平洋諸島

附則

第五十八條 本令中地方長官トアルハ東京府ニ在リテハ警視總監トス

第五十九條 本令ニ於テ在外帝國官廳ト稱スルハ帝國總領事官、領事官又ハ貿易事務官ヲ謂ヒ總領事館、領事館、貿易事務館ナキ地ニ於テハ帝國大使館及公使館ヲ謂フ

第六十條 本令ハ明治四十年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十九年外務省令第三號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

外國旅券規則 (明治四十年三月十五日)

(外務省令 第一一五號)

【沿革】 明治四十年十一月省令第七號、同四十二年五月同第三號、同四十三年十一月同第七號、大正二年十二月同第二號、同五年一月同第一號、同六年一月同第一號、同十年三月同第二號、同十一年七月同第九號、同十四年三月同第四號改正

第一條 外國へ旅行スル者ニ下付スル旅券ハ外務大臣之ヲ發給シ外國ニ於テハ帝國大使、公使、領事官及貿易事務官ヲシテ之ヲ發給セシム

第二條 旅券ノ下付ヲ請フ者ハ書面ニ左ノ事項ヲ記載シ之ニ戸籍謄本又ハ其ノ氏名、本籍地及身分ヲ證明スヘキ文書ヲ添付シ内國ニ於テハ本籍地又ハ所在地ノ地方上級行政廳(東京府下ニ在リテハ關東州ニ於テハ關東都督府、外國ニ於テハ在外公館ニ出願スヘシ但シ關東州ニ於テハ關東都督、外國ニ於テハ帝國大使、公使、領事官又ハ貿易事務官ノ認定ニ依リ戸籍謄本又ハ其ノ他ノ文書ノ添附ヲ省略セシムルコトヲ得

- 一 氏名(片假名ヲ以テ傍訓ヲ付スヘシ)
二 本籍地(本籍地ト所在地ト異ナルトキハ所在地ヲ使記スヘシ)
三 身分(戸主、家族ノ別家族ナルトキハ戸主ノ氏名及戸主トノ続柄ヲ記載スヘシ)
四 年齢(滿何年若ハ何年何月何日生)
五 職業
六 旅行地名
七 旅行ノ目的
旅券ノ下付ヲ請フ者長崎縣下對馬國ニ本籍地若ハ所在地ナ有スルトキ

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

ハ對馬島廳ニ出願スルコトヲ得

本條ノ願書ニハ最近ノ撮影ニ係ル本人ノ寫眞二葉(手札形、半身、無臺紙)ヲ添付スヘシ但シ父又ハ母ノ旅券ニ併記スル五歳未満ノ子ニ付テハ此限ニ在ラス

第三條 朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ於ケル旅券ノ下付ハ各朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官及南洋廳長官ノ定ムル所ニ依ル

第四條 (削除)

第五條 (削除)

第六條 官命ニ依リ外國ニ旅行スル者ハ内國及關東州ニ於テハ其ノ所管官廳ヲ經由シテ外務省ニ、外國ニ於テハ在外公館ニ旅券ノ下付ヲ出願スルコトヲ得但シ第二條第一項第一號、第六號及第七號ノ事項ヲ開申スヘシ家族又ハ從者ヲ同行スルトキハ同行者ニ係ル第二條第一項第一號乃至第四號ノ事項ヲ併シテ開申スヘシ

官命ニ依リ外國ニ在ル者其ノ所在地ニ家族又ハ從者ヲ呼寄セムトスルトキハ其ノ旅券下付ノ出願ニ關シテ前項ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第七條 移民保護法ノ規定ニ依リ移民取扱人ニ依リ移民又ハ保證人ヲ要スル移民ニシテ第二條ノ出願ヲ爲ストキハ移民取扱人又ハ保證人ノ連署ヲ要ス

第八條 第二條ノ規定ニ依リ内國及關東州ニ於テ旅券ノ下付ヲ受クル者ハ旅券一部ニ付金五圓ニ相當スル收入印紙ヲ領收證ヲ貼付スヘシ在外公館ヨリ下付ヲ受クル旅券ノ手数料ニ關シテハ大正九年外務省令第五號ニ依ル

第九條 旅券ノ下付ヲ受クル者ハ其ノ券面ニ署名スヘシ若シ署名スルコト

ト能ハサルトキハ代署セシメ本人之ニ實印ヲ捺捺スヘシ  
旅券面ニ査證アルコトヲ必要トスル國ニ旅行スル者ハ其ノ定ムル所ニ  
依リ査證ヲ受クヘシ

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ旅券ノ下付ヲ受クルコトヲ得ス  
一 豫戒命令中ノ者  
一 清國又ハ韓國在留禁止命令中ノ者

第十一條 第二條ノ規定ニ依リ旅券ノ下付ヲ受ケタル後六箇月以内ニ出  
發セサル者ハ旅券ヲ返納スヘシ

第十二條 旅行者歸國若ハ歸著シタルトキハ旅券ヲ返納スヘシ  
旅券ノ下付ヲ受ケタル者死亡シタルトキハ其ノ遺族ヨリ之ヲ返納スヘ  
シ

第十三條 商業漁業其ノ他職業ノ爲特定ノ地ニ數次往復スル者ハ歸國若  
ハ歸著毎ニ其ノ旅券ヲ返納スルコトヲ要セス但シ旅券領收ノ日ヨリ三  
箇年ヲ過キテ歸國若ハ歸著スルトキ又ハ歸國後何時ニテモ本人所在地  
ヲ管轄スル地方上級行政廳ヨリ命令アリタルトキハ之ヲ返納スヘシ  
前項特定ノ地ハ外務大臣之ヲ告示ス

第十四條 旅行十年ニ及ヒ歸國セサル者ハ旅券ヲ領收シタルトキヨリ十  
年以内ニ帝國大使、公使、領事官又ハ貿易事務官ノ査證ヲ受クヘシ其  
ノ後十年ニ及フ毎ニ亦同シ

第十五條 旅券ノ下付ヲ受ケタル者第十條各號ノ一ニ該當スルニ至リタ  
ルトキ又ハ第二條第一項第一號乃至第三號、第六號及第七號ノ事項ニ  
變更ヲ生シタルトキハ直ニ旅券ヲ返納スヘシ

第十六條 旅券ヲ紛失シタルトキハ直ニ届出ツヘシ之ヲ發見シタルトキ  
亦同シ

### 第八節 航空

航空法 (大正十年四月八日 法律第五十四號)

#### 第一章 總則

第一條 本法ニ於テ航空機トハ人ノ搭乘シ得ル氣球、風、航空船及飛行  
機ヲ謂フ

本法ニ於テ航空トハ陸上又ハ水上ノ滑走ヲ、離陸又ハ著陸トハ離水又  
ハ著水ヲ包含ス

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ所有スル航空機ハ之ヲ日本航空機  
トス

一 日本國又ハ日本ノ公共團體

二 日本臣民

三 日本法令ニ依リ設立シタル會社ニシテ合名會社ニ在リテハ社員ノ  
全員、合資會社及株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全員、株  
式會社ニ在リテハ取締役ノ全員方日本臣民タルモノ

四 前號ニ掲ケル法人以外ノ法人ニシテ日本法令ニ依リ設立シ其ノ代  
表者ノ全員方日本臣民タルモノ

第三條 本法ハ本章及第四十一條乃至第四十三條ノ規定ヲ除クノ外軍用  
航空機ニ之ヲ適用セス

國ノ使用ニ供スル航空機ニ付テハ第二十一條、第二十八條乃至第三十  
條、第三十三條、第三十四條及第四十條ノ規定ニ關シ勅令ヲ以テ別段ノ  
規定ヲ爲スコトヲ得

#### 第十七條

本令ノ規定ニ依リ旅券ヲ返納又ハ其ノ紛失若ハ發見ノ届出ヲ  
受クヘキ官廳ハ內國ニ於テハ地方上級行政廳、警視廳、函館支廳及對  
馬島廳、關東州ニ於テハ關東都府、外國ニ於テハ在外公館トス

第十八條 本令ニ於テ在外公館ト稱スルハ帝國大使館、公使館、總領事  
館、領事館、總領事館分館、領事館分館及貿易事務官ヲ謂フ

第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ其ノ旅券ヲ沒收シ百圓以内ノ罰  
金若ハ科料若ハ三月以下ノ懲役又ハ拘留ニ處ス

一 第二條第一項各號ノ事項ヲ詐稱シ又ハ第十條各號ノ一ニ該當スル  
者其ノ事實ヲ申告セス其ノ他詐欺ノ所爲ヲ以テ旅券ノ下付ヲ受ケタ  
ル者及之ヲ幫助シタル者

一 他人ノ氏名ヲ記載シタル旅券ヲ使用シ又ハ之ヲ使用セシメ其ノ他  
不正ノ目的ヲ以テ旅券ヲ授受シタル者及之ヲ幫助シタル者

一 旅券ニ貼付シタル寫眞ヲ取換ヘ該旅券ヲ使用シ又ハ之ヲ使用セシ  
メタル者

一 本令ニ依リ旅券ヲ返納スヘキ場合ニ之ヲ返納セスシテ使用シ又ハ  
事實ヲ偽リテ旅券紛失ノ旨ヲ届出テタル者

#### 附則

第二十條 舊規則ニ依リ旅券ノ下付ヲ受ケタル者ニ對スル第十一條ノ期  
間ハ該旅券面ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十一條 本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
明治三十三年六月外務省令第二號外國旅券規則ハ本令施行ノ日ヨリ之  
ヲ廢止ス

第四條 航空ニ關シ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ別段ノ規定アルトキハ  
其ノ規定ニ從フ

#### 第二章 航空機ノ検査及登録

第五條 航空機ヲ製造スル者ハ其ノ設計、材料、部分品、技巧及製品ニ付  
行政官廳ノ検査ヲ受クヘシ

第六條 航空機ノ所有者ハ其ノ航空機ニ付行政官廳ノ検査ヲ受  
クヘシ

前二項ノ検査ニ合格シタル航空機ニ對シテハ堪航證明書ヲ交付ス

第一項及第二項ノ規定ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受ケ  
タル航空機ニ之ヲ適用セス

第六條 堪航證明書ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ效力ヲ  
失フ

一 堪航證明書ニ記載シタル有効期間ヲ經過シタルトキ

二 第十四條第一項ノ規定ニ依リ航空機ノ使用ヲ禁止シタルトキ

前項第一號ノ有効期間ハ前條ノ検査ニ合格シタル日ヨリ起算シ六月以  
内ニ於テ行政官廳之ヲ定ム有効期間ハ第十一條ノ検査ノ結果ニ依リ檢  
査ノ日ヨリ起算シ六月以内ニ於テ行政官廳之ヲ延長スルコトヲ得

第七條 第五條ノ検査ニ合格シタル航空機ノ所有者ハ行政官廳ニ其ノ航  
空機ノ登録ヲ申請スルコトヲ得

航空機ノ登録事項ハ航空機ノ所有者ノ氏名名稱、登録記號其ノ他命令  
ヲ以テ定ムル事項トス

登録シタル事項ニ變更アリタルトキハ航空機ノ所有者ハ其ノ日ヨリ起  
算シ十四日以内ニ行政官廳ニ變更ノ登録ヲ申請スヘシ

登録シタル航空機ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ航空機ノ所有者ノ

氏名名稱、登録記號其ノ他ノ登録事項ヲ記載シタル登録證明書ヲ交付ス

第八條 航空機カ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ際ノ航空機ノ所有者ハ其ノ日ヨリ起算シ十四日以内ニ行政官廳ニ其ノ航空機ヲ返付スヘシ

一 滅失又ハ破壊シタルトキ

二 解撤セラレタルトキ

三 其ノ機體證明書カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキ

登録シタル航空機カ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ際ノ航空機ノ所有者ハ其ノ日ヨリ起算シ十四日以内ニ行政官廳ニ登録證明書ヲ返付スヘシ

一 滅失又ハ破壊シタルトキ

二 解撤セラレタルトキ

三 日本國籍ヲ喪失シタルトキ

四 其ノ機體證明書カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキ

前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ同時ニ抹消登録ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ抹消登録ノ申請ナキトキ又ハ第二項第四號ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ職權ヲ以テ抹消ノ登録ヲ爲スコトヲ得

第九條 登録シタル航空機ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ國籍記號、登録記號並所有者ノ氏名、名稱及住所ヲ表示スヘシ

第十條 航空機ハ前條ノ規定ニ依ル表示ヲ爲シ且機體證明書及登録證明書ヲ備付クルニ非サレハ之ヲ航空ノ用ニ供スルコトヲ得ス

第十一條 行政官廳ハ定期又ハ臨時ニ航空機ノ検査ヲ爲スコトヲ得

第十二條 第五條第一項第二項及第十條ノ規定ハ航空機ノ試験ノ爲飛行

場又ハ命令ヲ以テ定ムル場所ニ於テ航空スル航空機ニ關シテハ之ヲ適用セス

第十三條 第五條、第七條、第八條及第十一條ニ規定スルモノノ外航空機ノ検査又ハ登録ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 行政官廳ハ第十一條ノ検査ノ結果ニ基キ其ノ他航空機ノ現狀ニ因リ必要アルトキハ航空機ノ使用ノ制限、停止又ハ禁止ヲ命スルコトヲ得

行政官廳ハ前項ノ規定ニ依リ制限ヲ命シタルトキハ機體證明書ニ制限事項ヲ附記シ停止ヲ命シタルトキハ停止中機體證明書ヲ領置ス

第三章 乗員

第十五條 航空機ノ乗員ニ非サレハ航空機ニ搭乘シテ其ノ運航ニ從事スルコトヲ得ス

第十六條 技師證明書及航空免狀ヲ有スルコトヲ要ス

格シタル者ニ之ヲ亦付ス技師證明書ヲ有スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ航空免狀ノ交付ヲ受クルコトヲ得

第十七條 乗員ハ技師證明書及航空免狀ヲ携帯スルニ非サレハ運航ニ從事スルコトヲ得ス

第十八條 行政官廳ハ乗員ニ對シ定期又ハ臨時ニ検査ヲ爲スコトヲ得

第十九條 第十五條第一項ノ規定ハ飛行場又ハ命令ヲ以テ定ムル場所ニ於テ航空機ニ搭乘シテ運航練習ヲ爲ス者及運航練習ノ爲乗員ト同乘シ共同シテ運航ニ從事スル者ハ之ヲ適用セス

第二十條 行政官廳ハ乗員引續キ六月以上運航ニ從事セザルトキ、第十八條ノ検査ノ結果ニ基キ必要アルトキ又ハ保安上必要ナルトキハ航空

飛行場ノ經營者ハ第一項ノ航空機ノ維持ノ爲緊急ノ必要アルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス他人ノ土地ニ立入り若ハ障礙ト爲ルヘキ物件ヲ除去シ又ハ必要ナル土地若ハ物件ヲ使用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ經營者ハ遲滞ナク其ノ旨行政官廳ニ届出テ且其ノ土地又ハ物件ノ占有者ニ通知スヘシ

第二十五條 前條ノ規定ニ依リ立入、除去又ハ使用ニ因リ生シタル損害ハ飛行場ノ經營者之ヲ補償スヘシ

前項ノ規定ニ依リ補償ノ金額ニ關シ協議調ハサルトキハ行政官廳ノ決定ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ決定ニ不服アル者ハ其ノ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ起算シ三月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十六條 第二十四條第二項第三項及前條ノ規定ハ許可又ハ届出ニ關スル規定ヲ除ク外軍用ニ供スル飛行場ノ境界ヨリ外方五百「メートル」ノ區域内ニ於テ航空ノ障礙ト爲ルヘキモノアルトキ必要ナル航空機ノ設置又ハ維持スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ經營者ハ他人ノ運航スル航空機又ハ飛行機ニ對シ其ノ飛行場ニ於テ著陸又ハ離陸スルコトヲ拒ムコトヲ得但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ經營者其ノ飛行場ノ使用ニ對シ使用料ヲ請求セムトスルトキハ豫メ其ノ額ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受ケヘシ

第二十八條 公共ノ用ニ供セザル飛行場ノ經營者ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルニ非サレハ他人ノ運航スル他人ニ屬スル航空機ヲシテ飛行場ニ於テ著陸又ハ離陸セシムルコトヲ得ス

第五章 航空及運送

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

ノ制限、停止又ハ禁止ヲ命スルコトヲ得

行政官廳ハ前項ノ規定ニ依リ制限ヲ命シタルトキハ航空免狀ニ制限事項ヲ附記シ停止ヲ命シタルトキハ停止中航空免狀ヲ領置ス

第一項ノ規定ニ依リ禁止ヲ命セラレタル乗員ハ其ノ日ヨリ起算シ十四日以内ニ行政官廳ニ航空免狀ヲ返付スヘシ

第四章 飛行場及其ノ經營者

第二十一條 飛行場ヲ設置セムトスル者、其ノ區域ヲ變更セムトスル者又ハ公共ノ用ニ供スル飛行場ヲ廢止セムトスル者ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケヘシ公共ノ用ニ供スル飛行場ヲ公共ノ用ニ供セザル飛行場ニ變更シ又ハ公共ノ用ニ供セザル飛行場ヲ公共ノ用ニ供スル飛行場ニ變更セムトスル者亦同シ

第二十二條 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ經營者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ航空ニ必要ナル設備ヲ爲スヘシ

第二十三條 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ經營者ノ行政官廳ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ其ノ飛行場ヲ他ノ目的ニ使用シ又ハ使用セシムルコトヲ得ス

第二十四條 行政官廳ハ飛行場ノ境界ヨリ外方五百「メートル」ノ區域内ニ於テ航空ノ障礙ト爲ルヘキモノアルトキハ飛行場ノ經營者ニ對シ必要ナル航空機ノ設置ヲ命スルコトヲ得

飛行場ノ經營者ハ前項ノ航空機ノ設置又ハ維持ノ爲必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ日以後日没前ニ限リ他人ノ土地ニ立入り若ハ障礙ト爲ルヘキ物件ヲ除去シ又ハ必要ナル土地若ハ物件ヲ使用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ經營者ハ豫メ其ノ土地又ハ物件ノ占有者ニ其ノ旨通知スヘシ

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通



第二十九條 航空船及飛行機ハ陸上ニ在リテハ飛行場ニ非サル場所、水上ニ在リテハ命令ヲ以テ禁止スル場所ニ於テ離陸又ハ著陸スルコトヲ得ス但シ故障若ハ避難ノ爲其ノ他已ムコトヲ得サル事由アルトキ又ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 故ナク皇居、禁苑、離宮、行在所若ハ神宮ノ上空ニ於テ又ハ皇陵ノ上空千「メートル」以下ニ於テ航空機ノ運航ヲ爲スコトヲ得ス前項ニ掲グル場所ノ外航空ニ關スル制限又ハ禁止ヲ必要トスル場所ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一條 戰時又ハ事變ニ際シ必要アルトキハ行政官廳ハ航空機ノ航空ヲ禁止スルコトヲ得

第三十二條 日本航空機ニ非サル航空機ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ航空ノ用ニ供スルコトヲ得ス

第三十三條 日本國外ヨリ發航シテ日本國內ニ至リ若ハ日本國內ヨリ發航シテ日本國外ニ至ル航空機又ハ日本國外ヨリ發航シ著陸スルコトヲクシテ日本國ヲ通過シ日本國外ニ至ル航空機ハ行政官廳ノ指定スル航空路ニ由リ航空スヘシ

第三十四條 日本國外ヨリ發航シテ日本國內ニ至リ又ハ日本國內ヨリ發航シテ日本國外ニ至ル航空機ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外行政官廳ノ指定スル飛行場ニ於テ著陸又ハ離陸スヘシ

第三十五條 日本航空機ニ非サル航空機ニ依リ有償ニテ日本各地ノ間ニ於テ旅客又ハ貨物ノ運送ヲ爲スコトヲ得ス但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條 行政官廳ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ日本航空機ニ依リ運送業ヲ營ムコトヲ得ス

第三十七條 航空標識ノ用地又ハ公共ノ用ニ供スル飛行場ノ用地トスル爲必要ナル土地及水ノ使用ニ關スル權利其ノ他土地ニ關スル所有權以外ノ權利ハ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

第三十八條 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ用地ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ因リ其ノ地租ヲ免除ス但シ一時ノ使用ニ供スルモノ又ハ有料借地ノモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十九條 關稅法中船舶、船長、船用品及海路運送並之ニ關スル犯罪事件ノ調査、處分及處罰ニ付テハ規定ハ航空機、航空機ノ長、航空機ノ機用品及航空機ニ依リ外國貨物ノ運送並之ニ關スル犯罪事件ノ調査、處分及處罰ニ付テハ準用ス但シ關稅法中開港トアルハ第三十四條ノ飛行場トス

第四十條 第三十三條ノ航空機カ故障又ハ避難ノ爲其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ第三十四條ニ規定スル著陸ノ場所以外ニ著陸シタルトキハ稅關官吏其ノ地ニ在ル場合ニ於テハ稅關官吏ニ、稅關官吏其ノ地ニ在ラサル場合ニ於テハ警察官吏ニ運送ヲ届出ツヘシ

第四十一條 日本國外ヨリ發航シテ日本國內ニ至ル航空機ニ關シテハ傳染病豫防ノ爲檢疫ヲ施行ス

第四十二條 前條ノ規定ハ内地、朝鮮、臺灣相互間ニ付テハ準用ス

第五十條 現ニ航空ノ用ニ供スル航空機ヲ墜落、顛覆若ハ覆没セシメ又ハ破壊シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第五十一條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第五十二條 過失ニ因リ航空ノ危險ヲ生セシメ又ハ現ニ航空ノ用ニ供スル航空機ノ墜落、顛覆、覆没又ハ破壊ヲ致シタル者ハ二千元以下ノ罰金ニ處ス

第五十三條 詐術ヲ用キ第五條若ハ第十一條ノ検査ヲ受ケ又ハ不實ノ事項ヲ登錄セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千元以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條 第四十九條、第五十條第一項及前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第五十五條 左ノ各條ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千元以下ノ罰金ニ處ス

一 第五條又ハ第十一條ノ検査ニ合格セサル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者又ハ第三十二條ノ規定ニ違反シタル者

二 第十四條第一項ノ規定ニ依リ行政官廳ノ爲シタル命令ニ違反シタル者

三 第九條ノ規定ニ違反シテ國籍記號若ハ登録記號ヲ表示セサル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者又ハ虛偽ノ國籍記號若ハ登録記號ヲ表示シタル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者

第五十六條 第十五條第一項ノ規定ニ違反シタル者又ハ第二十條第一項

第四十三條 航空機ノ救難及之ニ關スル處罰ニ付テハ水難救護法ヲ準用ス

第四十四條 左ノ事項ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

一 航空機ニ備附クヘキ日誌其ノ他ノ帳簿書類及附屬品其ノ他ノ物件ニ關スル事項

二 保安上又ハ軍事上ノ必要ノ爲航空機ニ搭載スルコトヲ制限又ハ禁止スル火藥類寫、眞機其ノ他ノ物件ニ關スル事項

三 航空機ニ關スル燈火及信號ニ關スル事項

四 航空ニ關スル保安上必要ナル制限及航空機ト船舶トノ衝突豫防ニ關スル事項

五 航空標識及其ノ設置ニ關スル事項

六 飛行場ノ設備ニ關スル事項

第四十五條 當該官吏ハ其ノ職權ノ執行ニ必要ナリト認ムルトキハ航空機ノ離陸差止又ハ着陸ヲ命スルコトヲ得

第四十六條 當該官吏ハ其ノ職權ノ執行ニ必要ナリト認ムルトキハ航空機、飛行場又ハ格納庫ニ臨檢シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ備附テ要スル帳簿書類及物件ニ關シ検査ヲ爲スコトヲ得

第四十七條 朝鮮及臺灣ニ於テハ第三十七條第二項、第三十八條及條四十三條ノ規定ニ關シ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七編 罰則

第四十八條 航空標識ヲ損壞シタル者又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ無効トラスメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千元以下ノ罰金ニ處ス

第四十九條 詐術ノ信號ヲ爲シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ航空ノ危險ヲ生セシメタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

ノ規定ニ依リ爲シタル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十七條 第三十條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第三十條第二項ノ規定ニ依ル制限者ハ禁止ニ違反シタル者、第三十一條ノ規定ニ依ル禁止ニ違反シタル者又ハ第三十三條ノ規定ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十八條 第二十九條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第四十五條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ命令ニ違反シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二十四條第一項ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者

二 故ナク當該官吏ノ臨檢若ハ檢査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者

第六十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス  
一 第九條ノ規定ニ違反シテ航空機所有者ノ氏名名稱若ハ住所ヲ表示セサル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者又ハ虚偽ノ氏名名稱若ハ住所ヲ表示シタル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者

二 第十條ノ規定ニ違反シテ堪航證明書又ハ登録證明書ヲ備付ケサル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者

三 第十七條ノ規定ニ違反シタル者

航空法施行規則 (昭和二年五月五日 逓信省令第八號)

目次

- 第一章 總則
- 第二章 檢査
- 第三章 登録
- 第四章 記號
- 第五章 乗員
- 第六章 飛行場
- 第七章 航空
- 第八章 運送
- 第九章 雜則

附則  
航空法施行規則  
第一章 總則

第一條 本令ニ於テ國際航空條約トハ大正八年十月巴里ニ於テ署名調印

二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス  
一 第二十三條ノ規定ニ違反シタル者

二 第二十七條第二項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケスシテ使用料ノ請求ヲ爲シタル者

第六十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ過料ニ處ス  
一 第五條第一項又ハ第二項ノ規定ニ違反シタル者

二 第七條第三項又ハ第八條第三項ノ規定ニ依ル登録ノ申請ヲ怠リタル者

三 第八條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル堪航證明書又ハ登録證明書ノ返付ヲ怠リタル者

四 第二十條第三項ノ規定ニ依ル航空免狀ノ返付ヲ怠リタル者

五 第四十條第一項ノ規定ニ依ル届出ヲ怠リタル者  
前項ニ規定スル過料ハ法人ニ在リテハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ之ヲ適用ス

第六十四條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前條ノ過料ニ付之ヲ準用ス

附則  
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和二年五月勅令第一〇四號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行)

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

セラレタル航空ニ關スル條約及大正九年五月巴里ニ於テ署名セラレタル同條約議定書ヲ謂フ

第二條 日本國內ヨリ發航シテ國際航空條約ニ加盟セル外國ニ至リ又ハ國際航空條約ニ加盟セル外國ヨリ發航シテ日本國內ニ至ル日本航空機及其ノ乗員ノ受有シテハ備付クヘキ書類ニ付テハ國際航空條約ノ外本令ヲ適用ス

第三條 朝鮮、臺灣、樺太又ハ關東州ニ於テ當該規則ニ依リ交付セラレタル堪航證明書、航空機乗員技術證明書及航空免狀ハ選信大臣ニ於テ各地域ニ於ケル當該規則カ本令其ノ他航空法施行ニ關スル命令ノ規定ト同一ノ内容ヲ有スト認ムル場合ニ於テハ本令ニ依リ之ヲ交付シタルモノト看做ス

第四條 本令ハ第七章ノ規定ヲ除クノ外當分ノ內風ニ之ヲ適用セス  
第五條 滑空機ヲ航空ノ用ニ供セムトスルトキハ選信大臣ニ其ノ検査ヲ申請スヘシ但シ試驗ノ爲航空スル場合ハ此ノ限ニ在ラス  
前項ノ規定ニ依ル検査ノ申請及執行ニ付テハ第二章ノ規定ヲ準用ス

第六章 検査  
一 製造検査  
二 特別検査  
三 定期検査  
四 臨時検査

第七條 製造検査ハ航空法第五條第一項ノ規定ニ依リ航空機ノ設計、材料、部分品、技功及製品ニ付検査ノ申請アリタルトキ之ヲ行フ  
第八條 特別検査ハ航空法第五條第二項ノ規定ニ依リ堪航證明書ナキ航空機ニ付検査ノ申請アリタルトキ之ヲ行フ

1110/III

空機ニ付検査ノ申請アリタルトキ之ヲ行フ

第九條 定期検査ハ堪航證明書ノ有效期間延長ノ爲検査ノ申請アリタルトキ之ヲ行フ  
第十條 臨時検査ハ左ノ各號ノ場合ニ検査ノ申請アリタルトキ之ヲ行フ

- 一 堪航證明書アル航空機ノ機體又ハ發動機ノ要部ニ變更ヲ加ヘタルトキ
  - 二 堪航證明書アル運送營業用航空機ニ裝備セル發動機ノ豫備發動機トシテ發動機ヲ整備スルトキ
  - 三 堪航證明書アル航空機ニ裝備セル發動機ヲ豫備發動機以外ノ發動機ト取換ヘムトスルトキ
  - 四 堪航證明書アル航空機ニ裝備セル發動機ニ使用スル「プロペラ」ノ豫備「プロペラ」トシテ同一型式ノ「プロペラ」ヲ整備スルトキ
  - 五 堪航證明書アル航空機ニ裝備セル發動機ニ使用スル「プロペラ」ヲ豫備「プロペラ」以外ノ「プロペラ」ト取換ヘムトスルトキ
- 前項各號ノ場合ノ外選信大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ臨時ニ航空機ノ検査ヲ行フ

第十一條 航空機ノ検査ハ製造検査ニ付テハ航空機ヲ製造スル者ヨリ、其ノ他ノ検査ニ付テハ航空機所有者ヨリ之ヲ申請スヘシ  
第十二條 製造検査ヲ受ケムトスル者ハ第一號書式ニ依リ製造検査申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ製造著手前選信大臣ニ之ヲ提出スヘシ

- 一 設計書
- 二 設計圖面
- 三 製造工程ヲ記載シタル書面

第十三條 特別検査ヲ受ケムトスル者ハ第二號書式ニ依リ特別検査申請書ニ左ノ書類又ハ之ニ準スヘキ書類アルトキハ之ヲ添附シ選信大臣ニ提出スヘシ

- 一 機能説明書
- 二 圖面
- 三 仕様書
- 四 既に航空ノ用ニ供シタル航空機ニ在リテハ其ノ使用時間及修繕ニ關スル技術的記録
- 五 其ノ他參考ト爲ルヘキ事項ヲ記載シタル書面

第十四條 定期検査ヲ受ケムトスル者ハ堪航證明書ノ有效期間滿了一月前迄ニ第三號書式ニ依リ定期検査申請書ヲ選信大臣ニ提出スヘシ  
第十五條 臨時検査ヲ受ケムトスル者ハ第四號書式ニ依リ臨時検査申請書ヲ選信大臣ニ提出スヘシ

第十六條 航空機ノ検査ハ航空機検査規則ニ依リ之ヲ行フ  
第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ航空機ノ製造者又ハ所有者ハ其ノ事實ヲ證明スルニ足ル書類ヲ具シ製造検査又ハ特別検査ノ免除ヲ選信大臣ニ申請スルコトヲ得

- 一 日本ニ於テ航空ノ用ニ供セサル目的ヲ以テ航空機ヲ製造スルトキ
- 二 日本ニ於テ航空ノ用ニ供セサル目的ヲ以テ航空機ヲ輸入シタルトキ
- 三 其ノ他相當ノ事由アルトキ

第十八條 選信大臣検査ヲ行ハムトスルトキハ検査ノ日時、場所其ノ他必要ナル事項ヲ検査申請者ニ通知ス

第十九條 前條ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタル者ハ検査ヲ受クルニ必要ナル場合ニ之ヲ準用ス

第五編 通信、交通、電氣 第二章 交通

1110/IV

ル準備ヲ爲スヘシ

第二十條 當該官吏検査ヲ行フ場合ニ於テハ検査ヲ受ケヘキ者又ハ其ノ代理人ニ立會ヒ當該官吏ノ要求ニ應ジ堪航證明書、登録證明書、航空日誌其ノ他検査ニ必要ナル書類ヲ檢閲ニ供スヘシ

第二十一條 航空機ノ検査ハ定置場ニ於テ之ヲ行フ但シ定置場以外ノ場所ニ於テ検査ヲ受ケルキ旨ノ申請アリタル場合ニ於テ相當ノ事由アルトキハ定置場ニ非サル場所ニ於テ検査ヲ行フコトアルヘシ

第二十二條 航空機ノ定置場ハ相當ノ事由アル場合ヲ除クノ外飛行場ニ之ヲ定ムヘシ

第二十三條 堪航證明書ハ第五號書式ニ依ル  
第二十四條 堪航證明書ハ當該航空機ノ操縱席附近ニ之ヲ掲クヘシ

第二十五條 検査ニ合格シタル機體、發動機又ハ「プロペラ」ニハ第六號書式ニ依リ検査済記號ヲ標示ス

第二十六條 堪航證明書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ航空機所有者ハ遲滞ナク選信大臣ニ堪航證明書ノ書換ヲ申請スヘシ  
前項ノ規定ニ依リ新證明書ノ交付ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク舊證明書ヲ選信大臣ニ返付スヘシ

第二十七條 堪航證明書ヲ亡失シタルトキハ航空機所有者ハ遲滞ナク事由ヲ具シ其ノ旨選信大臣ニ届出ツヘシ

第二十八條 堪航證明書ヲ亡失又ハ毀損シタル場合ニ於テ航空機所有者ハ其ノ再交付ヲ受ケムトスルトキハ事由ヲ具シ選信大臣ニ之ヲ申請スヘシ  
第二十九條 堪航證明書ノ再交付ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

サルトキハ事由ヲ具シ其ノ旨選信大臣ニ届出ツヘシ  
第三十條 塔航證明書亡失ノ届出アリタルトキ又ハ之ヲ返付スヘキ場合ニ於テ返付サルトキハ選信大臣ハ當該塔航證明書ノ無効ナルコトヲ官報ニ公告ス

第三章 登録

第三十一條 航空機ノ登録ハ左ノ三種トス

- 一 新規登録
- 二 變更登録
- 三 抹消登録

第三十二條 新規登録ハ航空法第七條第一項ノ規定ニ依リ航空機ノ登録ノ申請アリタルトキ之ヲ行フ

第三十三條 變更登録ハ航空法第七條第三項ノ規定ニ依リ航空機ノ變更登録ノ申請アリタルトキ之ヲ行フ

第三十四條 抹消登録ハ航空法第八條第三項ノ規定ニ依リ航空機ノ抹消登録ノ申請アリタルトキ之ヲ行フ

第三十五條 第三十二條乃至前條ノ規定ニ依リ登録ヲ申請セムトスル者ハ第七號乃至第九號書式ニ依ル登録申請書ヲ選信大臣ニ提出スヘシ

第三十六條 選信大臣前條ノ申請ヲ受理シタルトキハ第十號書式ニ依ル航空機原簿ニ左ニ掲クル事項ヲ登録ス

- 一 航空機ノ種類
- 二 登録番號
- 三 登録年月日
- 四 国籍記號及登録記號
- 五 塔航證明書番號

證明書ヲ申請者ニ交付ス

第四十二條 行政區劃、其ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキハ航空機原簿又ハ登録證明書ニ記載シタル當該行政區劃、其ノ名稱又ハ地番號ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス又ハ其ノ名稱ノ變更アリタルトキ亦同シ

第四十三條 航空機所有者登録ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ知りタルトキハ其ノ旨ヲ疏明シ登録及登録證明書ノ訂正ヲ申請スヘシ  
選信大臣登録ノ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ知りタルトキハ之ヲ訂正シ其ノ旨ヲ航空機所有者ニ通知ス  
第四十一條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ登録ヲ訂正シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十四條 登録證明書ヲ亡失シタルトキハ航空機所有者ハ選信大臣ニ届出ツヘシ  
由ヲ具シ其ノ旨選信大臣ニ届出ツヘシ

第四十五條 登録證明書ヲ亡失又ハ毀損シタル場合ニ於テ航空機所有者其ノ再交付ヲ受ケムトスルトキハ事由ヲ具シ選信大臣ニ申請スヘシ  
第二十六條第二項ノ規定ハ毀損ニ因リ登録證明書ノ再交付ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十六條 變更登録ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於テ登録證明書ノ交付ヲ受ケタルトキハ選信大臣ニ届出ツヘシ  
選信大臣選信大臣ニ届出ツヘシ  
第四十三條第三項ノ規定ニ依リ登録證明書ノ交付アリタルトキ亦同シ

第四十七條 登録證明書ヲ返付スヘキ場合ニ於テ之ヲ返付スルコト能ハサルトキハ事由ヲ具シ其ノ旨選信大臣ニ届出ツヘシ  
第四十八條 航空機所有者登録證明書ニ記載シタル事項ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ知りタルトキハ其ノ旨ヲ疏明シ登録證明書ノ訂正ヲ申請ス

六 機體ノ製造者、製造番號及型式  
七 發動機ヲ備フル航空機ニ在リテハ其ノ發動機ノ製造者、製造番號、型式、馬力及數

八 航空機ノ定置場

九 所有者ノ氏名又ハ名稱及住所

前項第一號ニ掲クル航空機ノ種類ハ航空法第一條ノ定ムル所ニ依ル

第三十七條 新規登録申請書ニハ所有者ノ戸籍抄本又ハ之ニ準スヘキ書面ヲ添付スヘシ但シ航空機ノ所有者カ會社其ノ他ノ法人ナルトキハ登録申請書ニ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員、合名會社又ハ株式會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全員、株式會社ニ在リテハ取締役ノ全員、會社以外ノ法人ニ在リテハ其ノ代表者ノ全員ノ戸籍抄本又ハ之ニ準スヘキ書面及會社其ノ他ノ法人ノ設立登記ノ際本ヲ添付スヘシ

第三十八條 前條ノ規定ニ依リ申請書ニ添付スヘキ書面ハ同時ニ數箇ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テ一通ノ申請書ニ之ヲ添付シタルトキハ他ノ申請書ニハ之ヲ省略スルコトヲ得前ニ登録ノ申請ヲ爲シタル者更ニ登録ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テ添付スヘキ書面ノ内容前後同一ナルトキ亦同シ  
前項ノ規定ニ依リ申請書ニ添付スヘキ書面ヲ省略シタルトキハ申請書ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第三十九條 所有者ノ變更ニ因ル變更登録申請書ニハ其ノ事由ヲ記スルニ足ル書面ヲ添付スヘシ

第四十條 抹消登録申請書ニハ其ノ事由ヲ記スルニ足ル書面アルトキハ之ヲ添付スヘシ

第四十一條 選信大臣ハ新規登録又ハ變更登録ノ申請アリタル場合ニ於テ當該事項ヲ航空機原簿ニ登録シタルトキハ第十一號書式ニ依ル登録

ヘシ

選信大臣前項ノ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ知りタルトキハ其ノ旨ヲ航空機所有者ニ通知ス  
前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ航空機所有者ハ選信大臣ニ届出ツヘシ  
正ヲ申請スヘシ

第四十九條 登録證明書亡失ノ届出アリタルトキ又ハ之ヲ返付スヘキ場合ニ於テ返付セサルトキハ選信大臣ハ當該登録證明書ノ無効ナルコトヲ官報ニ公告ス

第五十條 航空機ノ所有者又ハ利害關係人ハ航空機原簿ノ謄本若ハ抄本ノ交付又ハ航空機原簿ノ閲覧ヲ申請スルコトヲ得

第四章 記號

第五十一條 航空機ノ国籍記號ハ羅馬字ノ大文字Jヲ以テ之ヲ表示ス  
第五十二條 航空機ノ登録記號ハ母音字ヲ包含スル羅馬字ノ大文字四箇ノ集合ヲ以テ之ヲ表示ス此ノ場合ニ於テYハ之ヲ母音字ト看做ス  
第五十三條 登録シタル航空機ノ所有者ハ當該航空機ニ其ノ国籍記號及登録記號ヲ掲記スヘシ

前項ノ記號ハ白地ニ黑色ノ楷書ノ文字ヲ以テ之ヲ掲記スヘシ  
第五十四條 国籍記號及登録記號ハ當該航空機ニ付左ノ場所ニ之ヲ連記スヘシ

- 一 飛行機ニ在リテハ上主翼ノ上面、下主翼ノ下面及主翼ト尾翼トノ間ノ胴體ノ兩側ハ「ナセル」ノ兩側
- 二 航空船ニ在リテハ氣囊ノ横斷面ノ最大部附近ニ於ケル兩側及其ノ兩側ヨリ等距離ノ上面
- 三 氣球ニ在リテハ氣囊ノ水平周圍ノ最大部附近ニ於ケル相反スル兩

例

**第五十五條** 國籍記號ハ當該航空機ニ付尙左ノ場所ニ之ヲ掲記スヘシ

- 一 飛行機及航空船ニ在リテハ最下尾翼又ハ昇降舵ノ中何レカ大ナルモノノ下面ノ左右兩部、最上尾翼又ハ昇降舵ノ中何レカ大ナルモノノ上面及方向舵ノ兩面ニ在リテハ上方ニ有スルモノ
- 二 氣球ニ在リテハ吊籠

**第五十六條** 第五十四條ニ規定スル場所ニ國籍記號及登錄記號ヲ連記スル方法左ノ如シ

- 一 飛行機ノ上主翼ノ上面及下主翼ノ下面ニ在リテハ記號ノ文字ノ頂部ヲ其ノ翼ノ前縁ニ向ケ國籍記號ト登錄記號ト各一箇ヲ連記スヘシ
- 二 飛行機ノ主翼ト尾翼トノ間ニ於ケル胴體ノ兩側胴體ナキモノニ在リテハ記號ノ文字ノ頂部ヲ上方ニ向ケ國籍記號ト登錄記號ト各一箇ヲ連記スヘシ
- 三 航空船ノ氣囊ノ横斷面ノ最大部附近ニ於ケル兩側ニ在リテハ側方及地上ヨリ認メ得ラルル如ク記號ノ文字ノ頂部ヲ上方ニ向ケ國籍記號ト登錄記號ト各一箇ヲ連記スヘシ
- 四 航空船ノ氣囊ノ横斷面ノ最大部附近ニ於ケル兩側ヨリ等距離ノ上面ニ在リテハ船首ヲ左方トシ國籍記號ト登錄記號ト各一箇ヲ連記スヘシ
- 五 氣球ノ氣囊ノ水平周圍ノ最大部附近ニ於ケル相反スル兩側ニ在リテハ側方及地上ヨリ認メ得ラルル如ク記號ノ文字ノ頂部ヲ上方ニ向ケ國籍記號ト登錄記號ト各一箇ヲ連記スヘシ

キ長ノ連字符ヲ二記號間ニ附スヘシ

**第五十七條** 第五十五條ニ規定スル場所ニ國籍記號ヲ掲記スル方法左ノ如シ

- 一 飛行機及航空船ノ最下尾翼又ハ昇降舵ノ中何レカ大ナルモノノ下面ノ左右兩部並最上尾翼又ハ昇降舵ノ中何レカ大ナルモノノ上面ニ在リテハ記號ノ文字ノ頂部ヲ其ノ翼又ハ昇降舵ノ前縁ニ向ケ國籍記號各一箇ヲ掲記スヘシ
- 二 飛行機及航空船ノ方向舵ノ兩面ニ在リテハ上方ニ有スルモノノ上面ニ在リテハ記號ノ文字ノ頂部ヲ上方ニ向ケ國籍記號各一箇ヲ掲記スヘシ
- 三 氣球ノ吊籠ニ在リテハ記號ノ文字ノ頂部ヲ上方ニ向ケ國籍記號一箇ヲ掲記スヘシ

**第五十八條** 航空機ニ掲記スヘキ國籍記號及登錄記號ノ大左ノ如シ

- 一 飛行機ノ主翼及尾翼並航空船ノ尾翼ニ掲記スヘキ記號ノ文字ノ高ハ各翼幅ノ五分ノ四ナルコトヲ要ス
- 二 飛行機及航空船ノ昇降舵及方向舵ニ掲記スヘキ記號ノ文字ノ高ハ成ルヘク大ナルコトヲ要ス
- 三 飛行機ノ胴體又ハ「ナセル」ニ掲記スヘキ記號ノ文字ノ高ハ該記號ヲ掲記スヘキ胴體又ハ「ナセル」ノ部分中ノ最狭部ノ最大ノ高ノ五分ノ四ナルコトヲ要ス
- 四 航空船ノ氣囊ニ掲記スヘキ記號ノ文字ノ高ハ少クトモ氣囊ノ横斷面ノ最大部ノ周圍ノ十二分ノ一ナルコトヲ要ス
- 五 氣球ノ吊籠ニ掲記スヘキ記號ノ文字ノ高ハ吊籠ノ高ノ五分ノ四、氣球ノ氣囊ニ掲記スヘキ記號ノ文字ノ高ハ少クトモ氣囊ノ周圍ノ

十二分ノ一ナルコトヲ要ス

**六** 記號ノ文字ノ幅ハ文字ノ高ノ三分ノ二、文字ノ線幅ハ文字ノ高ノ六分ノ一ナルコトヲ要ス

**七** 各箇ノ記號ノ文字ノ形狀及大ハ同一トシ文字ノ字隔ハ字幅ノ二分ノ一ナルコトヲ要ス

前項第一號乃至第五號ノ場合ニ於テ文字ノ高二、五メートルヲ超ユルトキハ之ヲ二・五メートルト爲スコトヲ得

**第五十九條** 航空機ハ國ノ使用ニ供スル航空機及運送營業用航空機ヲ除クノ外其ノ登錄記號ノ下ニ黑色ノ横線ヲ附スヘシ

前項ノ横線ノ幅ハ登錄記號ノ文字ノ線幅ニ、登錄記號ノ文字ノ底部トノ横線ノ上部トノ間隔ハ横線ノ幅ニ均キコトヲ要ス

**第六十條** 登錄シタル航空機ノ所有者ハ其ノ氏名又ハ名稱及住所並當該航空機ノ國籍記號及登錄記號ヲ刻シタル長七センチメートル幅五センチメートルノ金屬板ヲ操縦席ノ外方見易キ場所ニ附著スヘシ

**第五章 乘 員**

**第六十一條** 航空機ニ乗組マシムヘキ乘員ノ種類及定員ハ第一號表及第二號表ニ依ル

**第六十二條** 航空機乘員技術證明書ハ左ノ九種トス

- 一 飛行機操縦士技術證明書
- 二 飛行機操縦士技術證明書
- 三 航空船操縦士技術證明書
- 四 航空船操縦士技術證明書
- 五 自由氣球操縦士技術證明書

一等航空士技術證明書

二等航空士技術證明書

航空機操縦士技術證明書

技術證明書ハ第十二號書式ニ依ル

**第六十三條** 航空免狀ハ左ノ九種トス

- 一 飛行機操縦士免狀
- 二 飛行機操縦士免狀
- 三 航空船操縦士免狀
- 四 航空船操縦士免狀
- 五 自由氣球操縦士免狀

一等航空士免狀

二等航空士免狀

航空機操縦士免狀

航空免狀ハ第十三號書式ニ依ル

**第六十四條** 技術證明書ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ第十四號書式ニ依ル申請書ニ日籍抄本出願當時市町村長又ハ其ノ職務ヲ最近撮影シタル寫眞半身說明二葉第十五號書式ニ依ル履歷書ヲ添附シ選信大臣ニ之ヲ提出スヘシ

**第六十五條** 選信大臣前條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ實地試験及學科試験ヲ行ヒ之ニ合格シタル者ニ技術證明書ヲ交付ス

**第六十六條** 技術證明書ノ受有者ハ第三號表ニ依リ技術證明書ニ對應スル航空免狀ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

**第六十七條** 前條ノ申請ヲ爲サムトスル者ハ第十六號書式ニ依ル申請書

ニ技術證明書寫及最近撮影シタル寫眞（半身脫帽ニ葉ヲ添附シ）選信大臣ニ之ヲ提出スヘシ

第六十八條 選信大臣前條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ體格検査ヲ行ヒ之ニ合格シタル者ニ航空免狀ヲ交付ス

選信大臣必要アリト認ムルトキハ前項ノ體格検査ノ外實地試験又ハ學科試験ヲ行フコトアルヘシ

第六十九條 一等飛行機操縦士免狀ノ受有者ハ用途ノ如何ニ拘ラス免狀ニ掲ケタル飛行機ノ操縦ニ從事スルコトヲ得

二等飛行機操縦士免狀ノ受有者ハ運送營業ノ爲ニスル場合ヲ除クノ外免狀ニ掲ケタル飛行機ノ操縦ニ從事スルコトヲ得

第七十條 一等航空船操縦士免狀ノ受有者ハ容積ノ如何ニ拘ラス免狀ニ掲ケタル航空船ノ操縦ニ從事スルコトヲ得

二等航空船操縦士免狀ノ受有者ハ容積二萬立方メートル未満ニシテ免狀ニ掲ケタル航空船ノ操縦ニ從事スルコトヲ得

三等航空船操縦士免狀ノ受有者ハ容積六千立方メートル未満ニシテ免狀ニ掲ケタル航空船ノ操縦ニ從事スルコトヲ得

第七十一條 自由氣球操縦士免狀ノ受有者ハ自由氣球ノ操縦ニ從事スルコトヲ得

第七十二條 一等航空士免狀ノ受有者ハ航空機ニ搭乘シ位置及針路ノ測定ニ從事スルコトヲ得

二等航空士免狀ノ受有者ハ飛行距離五百キロメートルヲ超ユル晝間海上飛行及飛行距離五百キロメートルヲ超ユル夜間飛行ヲ行フ飛行機並容積二萬立方メートル以上ノ航空船ヲ除クノ外航空機ニ搭乘シ位置及

針路ノ測定ニ從事スルコトヲ得

前項ノ規定ニ於テ飛行距離、晝間飛行、夜間飛行及海上飛行トハ第一號表備考ニ定ムル所ニ依ル

第七十三條 航空機操縦士免狀ノ受有者ハ航空機ニ搭乘シ發動機及機體ノ處理及調整ニ從事スルコトヲ得

第七十四條 飛行機操縦士免狀又ハ航空船操縦士免狀ノ受有者其ノ免狀ニ掲ケタル航空機ノ操縦ニ從事セムトスルトキハ第十七號書式ニ依ル航空免狀效力擴張申請書ヲ選信大臣ニ提出スヘシ

選信大臣前項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ實地試験ヲ行ヒ申請者之ニ合格シタルトキハ其ノ受有スル技術證明書及航空免狀ニ當該航空機ノ名稱及免許又ハ認定年月日ヲ記入ス

第七十五條 選信大臣ハ運送營業用航空機ノ乘員タル資格ヲ有スル航空機乘員 操縦士、航空士及航空機操縦士ニ對シ航空免狀交付ノ日ヨリ六月以內毎ニ定期ニ體格検査ヲ行フ

第七十六條 選信大臣必要アリト認ムルトキハ航空機乘員ニ對シ臨時ニ體格検査、實地試験又ハ學科試験ヲ行フコトアルヘシ

第七十七條 航空機乘員ノ實地試験及學科試験ハ航空機乘員試験規則ニ依リ之ヲ行フ

航空機乘員ノ體格検査ハ航空機乘員體格検査規則ニ依リ之ヲ行フ

第七十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ選信大臣ハ航空機乘員ノ就業ヲ制限、停止又ハ禁止スルコトアルヘシ

一 定期若ハ臨時ノ體格検査又ハ臨時ノ實地試験若ハ學科試験ノ結果航空機乘員タル能力ニ關ケル所アリト認ムルトキ

二 定期若ハ臨時ノ體格検査又ハ臨時ノ實地試験若ハ學科試験ヲ經

ミ、妨ケ又ハ忌避シタルトキ

三 航空中航空機ニ依リ人ヲ殺傷シ、物件ヲ損壞シ其ノ他重大ナル事故ヲ惹起シタルトキ

四 公安ヲ害スル行爲ヲ爲スノ虞アリト認ムルトキ

五 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

前項ノ規定ニ依リ就業ヲ制限又ハ停止セラレタル者ハ遲滞ナク航空免狀ヲ選信大臣ニ提出スヘシ

第七十九條 技術證明書ノ受有者ハ其ノ本籍又ハ氏名ニ變更アリタルトキハ遲滞ナク技術證明書ヲ書換テ選信大臣ニ申請スヘシ

第八十條 航空免狀ノ受有者ハ其ノ本籍、住所又ハ氏名ニ變更アリタルトキハ航空免狀ヲ添ヘ遲滞ナク其ノ旨選信大臣ニ届出ツヘシ

第八十一條 技術證明書又ハ航空免狀ヲ亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ遲滞ナク其ノ旨選信大臣ニ届出ツヘシ

第八十二條 技術證明書又ハ航空免狀ヲ亡失若ハ毀損シタル場合ニ於テ其ノ再交付ヲ受ケムトスルトキハ事由ヲ具シ選信大臣ニ之ヲ申請スヘシ

第二十六條第二項ノ規定ハ毀損ニ因リ技術證明書又ハ航空免狀ノ再交付ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第八十三條 航空免狀ノ受有者廢業シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ具シ航空免狀ヲ選信大臣ニ返付スヘシ

第八十四條 航空免狀ノ受有者死亡シタルトキハ其ノ遺族又ハ當該免狀ノ保管者ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ選信大臣ニ届出テ且航空免狀ヲ返付スヘシ

第八十五條 技術證明書若ハ航空免狀亡失ノ届出アリタルトキ又ハ航空

免狀ヲ返付スヘキ場合ニ於テ返付セザルトキハ選信大臣ハ當該技術證明書又ハ航空免狀ノ無効ナルコトヲ官報ニ公告ス

第六章 飛行場

第八十六條 飛行場ヲ設置セムトスル者ハ許可申請書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添附シ選信大臣ニ之ヲ提出シ且當該飛行場豫定地ヲ管轄スル地方長官ニ其ノ副本ヲ提出スヘシ

一 設置ノ目的

二 經營者ノ氏名又ハ名稱及住所

三 飛行場豫定地所有者ノ氏名又ハ名稱及住所

四 所在地名

五 陸上、水上又ハ水陸兩用飛行場ノ別

六 面積及地形

七 實測圖、飛行場豫定地ノ境界ヨリ外方五百メートルノ區域内ニ於テノ航空機ノ突、電柱、電線其ノ他航空ノ障害ト爲ルヘキモノヲ圖示スルコト及附近交通圖

八 恒風位

九 設置期間

十 設置費

十一 設備維持方法

十二 既存設備ノ概要

十三 豫定設備ノ概要

十四 工事著手及竣功豫定期日

十五 工事設計書、仕様書及圖面

第八十七條 飛行場ノ區域ヲ變更セムトスル者ハ變更事項ヲ具シ許可申請書ヲ選信大臣ニ提出シ且當該飛行場所在地ヲ管轄スル地方長官ニ其

ノ副本ヲ提出スヘシ

第八十八條 飛行場ノ設置アリタルトキハ左ノ事項ヲ告示ス告示シタル事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

一 設置ノ目的

二 經營者ノ氏名又ハ名稱及住所

三 用地所有者ノ氏名又ハ名稱及住所

四 所在地名

五 陸上、水上又ハ水陸兩用飛行場ノ別

六 面積及地形

七 實測圖飛行場ノ境界ヨリ外方五百メートルノ區域内ニ於テ建物、電柱、電線其ノ他航空ノ障害ト爲ルヘキモノアルトキハ之ヲ圖及附近交通圖

八 恒風位

九 設備ノ概要

十 設置期間

飛行場廢止セラレタルトキハ其ノ旨告示ス

第八十九條 公共ノ用ニ供スル飛行場ヲ廢止セムトスルトキハ飛行場ノ經營者ハ其ノ一月前迄ニ理由ヲ具シタル許可申請書ヲ逕信大臣ニ提出シ且其ノ副本ヲ當該飛行場所在地ヲ管轄スル地方長官ニ提出スヘシ公共ノ用ニ供スル飛行場ヲ公共ノ用ニ供セサル飛行場ニ變更セムトスルトキ又ハ公共ノ用ニ供セサル飛行場ヲ公共ノ用ニ供スル飛行場ニ變更セムトスルトキ亦同シ

第九十條 公共ノ用ニ供セサル飛行場ヲ廢止セムトスルトキハ飛行場ノ經營者ハ其ノ旨ヲ逕信大臣及當該飛行場所在地ヲ管轄スル地方長官ニ届出ツヘシ

附シ之ヲ申請者及相手方ニ交付スヘシ  
第九十九條 航空法第二十三條第二十四條第二十七條第一項及第二十八條ニ規定スル行政官廳ハ地方長官トス  
第一百條 飛行場ニハ別ニ定ムル所ニ依リ風向標示設備及信號設備ヲ爲スヘシ  
第一百一條 公共ノ用ニ供スル飛行場ニハ別ニ定ムル所ニ依リ航空標識ヲ設置スヘシ

第七章 航空  
第一百二條 航空法第二十九條但書ニ規定スル行政官廳ハ地方長官トス  
第一百三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場所ニ於テ故ナク航空機ノ運航ヲ爲スコトヲ得ス  
一 太皇太后、皇太后、皇后、皇太子、皇太子妃、皇太孫、皇太孫妃又ハ攝政ノ御泊所ノ上空  
二 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子、皇太子妃、皇太孫、皇太孫妃又ハ攝政ノ御泊所ノ上空  
第一百四條 皇居、禁苑、離宮、神宮又ハ皇陵ハ空中ヨリ之ヲ撮影スルコトヲ得ス

行在所、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子、皇太子妃、皇太孫、皇太孫妃若ハ攝政ノ御泊所又ハ天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子、皇太子妃、皇太孫、皇太孫妃若ハ攝政ノ御泊所ハ空中ヨリ之ヲ撮影スルコトヲ得ス但シ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス  
第一百五條 航空機ハ市街地ノ上空ニ在リテハ故障、避難其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ著陸ノ必要ヲ生シタル場合ニ於テハ市街地外ニ安全ニ著陸シ得ルニ足ルヘキ高度ヲ保ツニ非サレハ航空スルコトヲ得ス

第九十一條 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ經營者飛行場ノ使用ニ對シ使用料ヲ請求セムトスルトキハ其ノ種別及金額ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

前項ノ使用料ハ飛行場ニ之ヲ揭示スヘシ

第九十二條 地方長官必要アリト認ムルトキハ飛行場ノ經營者ニ對シ前條ノ使用料ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第九十三條 地方長官保安上必要アリト認ムルトキハ飛行場經營者ニ對シ飛行場使用ノ制限ヲ命シ又ハ公共ノ用ニ供スル飛行場ノ經營者ニ對シ航空ニ必要ナル設備ヲ爲サシムルコトヲ得

第九十四條 地方長官航空法第二十四條第二項ノ出願ヲ許可シタルトキハ出願者ニ許可證ヲ交付シ且其ノ旨土地又ハ物件ノ占有者ニ通知スヘシ其ノ通知ヲ爲シ難キトキハ其ノ旨告示スヘシ

第九十五條 前條ノ規定ニ依リ許可證ノ交付ヲ受ケタル者他人ノ土地ニ立入り若ハ障礙ト爲ルヘキ物件ヲ除去シ又ハ必要ナル土地若ハ物件ヲ使用セムトスルトキハ當該許可證ヲ携帶スヘシ

第九十六條 航空法第二十五條第二項ノ規定ニ依リ補償金額ノ決定ヲ求メムトスル者ハ相手方トノ交渉頓末ヲ記載シタル申請書ヲ地方長官ニ提出スヘシ

地方長官前項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ其ノ寫ヲ相手方ニ交付シ期限ヲ定メ答辯書ヲ提出セシムヘシ

第九十七條 前條第二項ノ規定ニ依リ長官ノ指定シタル期限内ニ答辯書ヲ提出ナキトキ又ハ申請書寫ノ交付ヲ爲スコト能ハサルトキハ地方長官ハ申請書ノミニ依リ補償金額ノ決定ヲ爲スコトヲ得

第九十八條 地方長官補償金額ノ決定ヲ爲シタルトキハ決定書ニ理由ヲ

但シ飛行場、航空法第二十九條ノ規定ニ依リ命令ヲ以テ禁止セラレザル水上ノ場所又ハ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場所ニ於テ離陸若ハ著陸セムトスルトキハ此ノ限ニ在ラス  
第一百六條 市街地又ハ多衆ノ集合スル場所ノ上空ニ於テ航空機ニ依リ曲技飛行ヲ爲スコトヲ得ス但シ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス  
第一百七條 航空機ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外火藥類ヲ搭載シテ航空スルコトヲ得ス  
第一百八條 細砂及水以外ノ「ベラスト」又ハ危險ヲ生スルノ虞アル物件ハ航空機ヨリ之ヲ投下スルコトヲ得ス  
第一百九條 競技航空、興行航空又ハ觀覽航空ヲ爲サムトスルトキハ其ノ主催者ハ航空ノ日時場所其ノ他計劃ノ詳細ヲ具シ實施豫定期日ノ十日前迄ニ地方長官ニ其ノ許可ヲ申請スヘシ  
第一百十條 航空距離五百キロメートル以上ノ無著陸航空ヲ爲サムトスルトキハ其ノ主催者又ハ當該航空機ノ操縦士ハ航空ノ目的、日時、區域、使用航空機其ノ他計劃ノ詳細ヲ具シ實施豫定期日ノ五日前迄ニ逕信大臣ニ届出ツヘシ  
第一百十一條 航空法第十二條ノ規定ニ依リ試驗航空又ハ同法第十九條ノ規定ニ依リ運航練習ハ公共ノ用ニ供セサル飛行場、航空法第二十九條但書及本令第二百二條ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場所並其ノ周圍十キロメートル以内ノ場所ノ上空ニ於テノミ之ヲ行フコトヲ得航空法第十九條ノ規定ニ依リ運航練習ハ特ニ逕信大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ニ限り前項ノ規定ニ拘ラス前項ノ區域ヲ超エテ之ヲ行フコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケムトスル者ハ航空ノ目的、日時、區域、使用航空機、航空機操縦ニ關スル經歷、離著陸場其ノ他計劃ノ詳細ヲ具シ實施豫定期日ノ十五日前途ニ選信大臣ニ申請書ヲ提出スヘシ

第四百十二條 地方長官ハ保安上必要アルトキハ揚所ヲ指定シテ航空ヲ制限又ハ禁止スルコトヲ得

第四百十三條 故障、避難其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ陸上ニ在リテハ飛行場ニ非サル場所、水上ニ在リテハ命令ヲ以テ禁止スル場所ニ著陸シタルトキハ操縦者又ハ同乗者ハ其ノ理由ヲ具シ遲滞ナク最寄警察署又ハ警察官吏ニ報告スヘシ

第四百十四條 航空機ニ依リ人ヲ殺傷シ又ハ物件ヲ損壞シタルトキハ操縦者又ハ同乗者ハ其ノ狀況ヲ具シ遲滞ナク最寄警察署又ハ警察官吏ニ報告スヘシ

第四百十五條 國際航空條約ニ加盟セサル外國ノ航空機ヲ航空ノ用ニ供セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ選信大臣ニ許可申請書ヲ提出スヘシ

一 航空機ノ国籍及標識

二 航空ノ目的

三 航空ノ日時

四 出發地、到着地及經過地

五 航空機所屬國ノ下付シ若ハ有效ト認ムル堪航證明書又ハ之ニ代ルヘキ書類ノ寫

六 航空免狀又ハ之ニ代ルヘキ書類ノ寫

第八章 運送

第四百十六條 航空機ニ依リ運送業ヲ營マムトスル者ハ許可申請書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類及航空線路圖ヲ添附シ選信大臣ニ之ヲ提出スヘシ

- 一 航空線路起點、中間離著陸場及終點
- 二 旅客、貨物又ハ郵便物運送ノ別
- 三 發着日時表
- 四 使用航空機ノ種類、型式、數及貨客積載量
- 五 航空機乘員ノ種類及數
- 六 運賃率
- 七 本店、支店及出張所ノ所在地
- 八 航空運送業ニ充ツヘキ資金總額及其ノ出資方法
- 九 起業費豫算
- 十 事業開始後三年度間ノ收支豫算
- 十一 運送ニ關スル規程
- 十二 事業開始豫定期日
- 十三 其ノ他參考ト爲ルヘキ事項

運送業ヲ營マムトスル者カ會社其ノ他ノ法人ナルトキハ前項ノ書類ノ外定款又ハ之ニ準スヘキ規程ノ寫ヲ許可申請書ニ添付スヘシ

第四百十七條 航空機ニ依リ運送業ノ許可ヲ受ケタル者事業ヲ開始セムトスルトキハ事業開始十五日前途ニ其ノ日時ヲ選信大臣ニ届出ツヘシ

第四百十八條 航空運送業者ハ其ノ使用セムトスル航空機及乘員ヲ定メ豫メ選信大臣ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第四百十九條 航空運送業者ハ事業期ノ定アルトキハ毎事業期、事業期ノ定ナキトキハ毎年一回財産目錄、貸借對照表、損益計算書及事業報告書ヲ選信大臣ニ提出スヘシ

第四百二十條 航空運送業者ハ航空運送ニ關シ重大ナル事故アリタルトキ

ハ其ノ原因、狀況及處置ヲ具シ遲滞ナク之ヲ選信大臣ニ届出ツヘシ

第四百二十一條 航空運送業者第百十六條第一號乃至第七號又ハ第十一號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ選信大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第四百二十二條 航空運送業者其ノ事業ヲ休止又ハ廢止セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ遲滞ナク之ヲ選信大臣ニ届出ツヘシ

第四百二十三條 航空運送業者ハ選信大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ事業ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得ス

第四百二十四條 航空運送業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ選信大臣ハ事業ノ停止ヲ命ジ又ハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

一 故ナク許可ヲ受ケタル日ヨリ一年以内ニ事業ヲ開始セサルトキ

二 事業ヲ繼續スルニ堪ヘスト認ムルトキ

三 公安ヲ害スル虞アリト認ムルトキ

四 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

第四百二十五條 乘員ヲ合セ十人以上ノ人員ヲ搭載シ得ル運送營業用飛行機ニシテ飛行距離百六十キロメートルヲ超ニル無著陸飛行又ハ飛行距離二十五キロメートルヲ超ニル水上飛行ヲ爲サムトスルモノ及一切ノ航空船ハ無線電信ノ施設ナクシテ之ヲ航空ノ用ニ供スルコトヲ得ス但シ特殊ノ事由アル場合ニ於テ選信大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九章 雜則

第四百二十六條 航空ノ用ニ供スル航空機ニハ航空日誌ヲ備附クヘシ

前項ノ航空日誌ノ書式ハ別ニ之ヲ定ム

第四百二十七條 航空機乘員ハ航空機乘員手帖ヲ所持シ所定ノ事項ヲ之ニ記入スヘシ

前項ノ手帖ノ書式ハ別ニ之ヲ定ム

第四百二十八條 本令ニ規定スル地方長官ノ職務ハ東京府ニ在リテハ警視總監之ヲ行フ

附則

第四百二十九條 本令ハ航空法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四百三十條 大正十年陸軍省令第十一號航空機檢査規則及航空機操縦士免許規則ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第四百三十一條 從前ノ規定ニ依リ交付シタル堪航證明書ハ本令施行後ニ於テモ其ノ有効期間滿了スル迄仍効力ヲ有ス

第四百三十二條 從前ノ規定ニ依リ標示シタル機體、發動機又ハ「プロペラ」ノ檢査済記號ハ本令施行後ニ於テモ仍其ノ効力ヲ有ス

第四百三十三條 從前ノ規定ニ依リ飛行機ノ檢査願ヲ提出シ本令施行ノ際尙其ノ檢査ヲ了ラサルモノニ付テハ初度檢査願及特別檢査願ハ之ヲ本令ニ依リ特別檢査申請ト看做シ定期檢査願又ハ臨時檢査願ハ夫々之ヲ本令ニ依リ定期檢査申請又ハ臨時檢査申請ト看做ス

第四百三十四條 從前ノ規定ニ依リ交付シタル一等又ハ二等飛行機操縦士免狀ハ本令施行ノ日ヨリ三月間仍其ノ効力ヲ有ス

前項ノ期間ヲ經過シタルトキハ前項ノ免狀ヲ受有スル者ハ遲滞ナク當該免狀ヲ選信大臣ニ返付スヘシ

第四百三十五條 從前ノ規定ニ依リ交付シタル一等又ハ二等飛行機操縦士免狀ヲ受有スル者本令施行ノ日ヨリ二月以内ニ申請ヲ爲ストキハ考試ヲ行ハスシテ其ノ免狀ニ相當スル技術證明書及航空免狀ヲ交付ス

前項ノ規定ニ依リ技術證明書及航空免狀ノ交付ヲ受ケタル者ハ從前ノ規定ニ依リ受有スル一等又ハ二等飛行機操縦士免狀ヲ遲滞ナク選信大臣ニ依リ受有スル



區ニ返付スヘシ

第三百三十六條 従前ノ規定ニ依リ交付シタル三等飛行機操縦士免狀ハ本令施行後ニ於テモ當分ノ内仍其ノ效力ヲ有ス

逓信大臣ハ本令第五章ニ定ムル航空免狀ノ外當分ノ内三等飛行機操縦士免狀ヲ交付スルコトアルヘシ

第三百三十七條 本令施行前地方長官ノ許可ヲ受ケ設置シタル飛行機離着陸場ニシテ本令施行後存續スルモノニ付テハ其ノ許可期間内仍従前ノ例ニ依ル

第三百三十八條 本令施行ノ際現ニ航空運送業ヲ營ム者ハ本令施行後六月以内ニ限リ仍従前ノ例ニ依リ運送業ヲ營ムコトヲ得

第三百三十九條 本令施行ノ際現ニ航空運送業ヲ營ム者前條ノ期間ヲ超エテ運送業ヲ營ムトスルトキハ本令施行後四月以内ニ本令ニ依リ許可ヲ申請スヘシ

第四百十條 本令施行ノ際現ニ逓信大臣ノ命令ニ依リ航空運送業ヲ營ム者ハ前二條ノ規定ニ拘ラス其ノ命令期間内本令ニ依リ運送業ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

### 第三章 電氣、瓦斯

#### 第一節 電 氣

##### 電氣事業法 (明治四十四年三月三十日法律第五十五號)

【沿革】 大正五年二月法律第五號即二年三月四號第三八號改正

第一條 本法ニ於テ電氣事業ト稱スルハ左ニ掲グルモノヲ謂フ

一 一般ノ需用ニ應ジ電氣ヲ供給スル事業

二 一般運送ノ用ニ供スル鐵道又ハ軌道ノ動力ニ電氣ヲ使用スル事業

第三條 本法ニ於テ電氣工作物ト稱スルハ電氣ノ供給又ハ使用ノ爲施設スル水路、貯水池、器具機械、電線路及其ノ他ノ工作物ニシテ電氣事業ノ用ニ供スルモノヲ謂フ

第四條 前項ニ於テ電線路ト稱スルハ電氣ノ傳送ニ用キル電氣導體及之ヲ支持シ又ハ保護スル工作物ヲ謂フ

第五條 電氣事業ヲ營ムトスル者ハ前令ニ規定アル場合ヲ除キ外主務大臣ノ許可ヲ受ケルヘシ

第六條 電氣事業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル後ニ事業ヲハ工事ニ着手シ又ハ電氣工作物ノ使用ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 電氣事業者ハ主務大臣ノ指定スル期間内ニ其ノ事業ヲ開始スヘシ

第八條 主務大臣ハ正當ノ事由アリト認ムル場合ニ限り前項期間ノ伸長ヲ許可スルコトヲ得

第五編 通信、交通、電氣 第三章 電氣、瓦斯

電氣事業者指定ノ期間内ニ事業ヲ開始セザルトキハ電氣事業ノ許可ハ其ノ効力ヲ失フ

第六條 主務大臣ハ公益上必要ナリト認メタルトキハ電氣事業者ニ對シ料金ノ制限其ノ他電氣供給ノ條件ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第七條 電氣事業者ハ電氣工作物ノ施設ニ關スル測量又ハ工事ノ爲必要ナルトキハ他人ノ土地ニ立入ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ該土地ノ行政官廳ノ許可ヲ受ケ且歩タトモ五日前ニ市町村長ニ通知シ市長村長ハ之ヲ告示シ又ハ其ノ旨土地ノ占有者ニ通知スヘシ

第八條 電氣事業者ハ電氣工作物ノ修理又ハ運搬ノ爲必要ナルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ工作物ヲ施設セル他人ノ土地又ハ建造物ニ立入ルコトヲ得但シ日没ヨリ日出迄ノ間ニ於テハ危險急迫ノ場合ニ非ズレハ占有者ノ同意ヲ得宅其ノ他建造物ニ立入ルコトヲ得ス

第九條 電氣事業者ハ電線路ノ施設及保守ニ關係スルヘキ竹木其ノ他ノ植物ヲ伐除又ハ移植スルハ必要ナル場合ニ於テ其ノ所有者ト協議シハス又ハ協議ヲ爲スコト不能ナルトキハ行政官廳ノ許可ヲ受ケテ伐除シ又ハ移植スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ該竹木其ノ他ノ植物ノ所有者ニ通知スヘシ

第十條 危險急迫ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ前項ノ規定ニ拘ラス直ニ竹木其ノ他ノ植物ヲ伐除又ハ移植スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ運搬ナク其ノ旨行政官廳ニ届出テ且其ノ所有者ニ之ヲ通知スヘシ

第十一條 電氣事業者ハ河川、橋梁、溝渠、道路、堤防其ノ他公共ノ用ニ供セザル土地ノ地上又ハ地中ニ電線路ヲ施設スル必要ナルトキハ其ノ效用ヲ妨ケザル限度ニ於テ管理者ノ許可ヲ受ケテ之ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ管理者ノ定ムル所ニ依リ使用料ヲ納ムヘシ

管理者タル地方行政廳ニ於テ所當ノ事由ナクシテ第一項ノ許可ヲ拒ミタルトキ又ハ管理者ノ定ムル使用料ノ額ヲ不相當ナリトスルトキハ主務大臣ハ電氣事業者ノ申請ニ依リ使用ヲ許可シ又ハ使用料ノ額ヲ定ムルコトヲ得

第十條 電氣事業者ハ必要アルトキハ現在ノ使用方法ヲ妨ケサル限度ニ於テ他人ノ地上ノ空間若ハ地中ニ電線路ヲ施設シ又ハ建造物ノ存存セサル他人ノ土地ニ電線ノ支持物ヲ建設スルコトヲ得

電氣事業者前項ノ規定ニ依リ他人ノ土地ヲ使用セムトスル場合ニ於テ其ノ所有者及占有者ト協議調ハス又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ使用ノ範圍ヲ定メ豫メ地方長官ノ許可ヲ受ケテ其ノ工事ニ著手スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ少クとも五日前ニ其ノ旨土地ノ所有者及占有者ニ通知スヘシ

第十一條 電線路ヲ施設シタル土地ノ近接地又ハ前條ニ依リ電線路ヲ施設シタル土地ノ所有者又ハ占有者ハ土地ノ使用方法ヲ變更スル爲ニ必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ電氣事業者ニ對シ豫防又ハ除却ニ必要ナル方法ヲ施スコトヲ請求スルコトヲ得

前項ノ工事ニ要スル費用ハ電氣事業者ノ負擔トス但シ其ノ工事ヲ爲シタル後正當ノ事由ナクシテ豫定ノ變更ヲ爲ササルトキハ請求者ノ負擔トス

第十二條 第七條、第八條及第十條ノ場合ニ於テ現ニ生シタル損失ハ電氣事業者ノ補償スヘシ

前項ノ補償金額ハ許可ヲ爲シタル行政官廳ニ於テ之ヲ裁定ス裁定ニ不

服スル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日より三月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

行政官廳ハ必要ト認ルトキハ電氣事業者ナシテ損失ノ補償ニ充ツヘキ金額ヲ供託セシムルコトヲ得

第十三條 電氣事業者ハ地中電氣工作物ヲ施設スル場合ニ於テ他人ニ屬スル地中電氣工作物ノ位置ヲ變更スル必要アルトキハ當該工作物ノ效用ヲ妨ケサル限度ニ於テ其ノ位置ヲ變更シ又ハ其ノ工作物ノ所有者ヲシテ其ノ變更ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ノ許可ヲ受ケヘシ

第十四條 主務大臣ハ工事上已ムヲ得スト認メタル箇所ニ限リ電氣事業者ニ對シ電線路ノ共用ヲ命スルコトヲ得

第十五條 主務大臣ハ天災其ノ他ノ臨時事故ニ因リ電氣工作物ノ障害ヨリ生スヘキ電氣ノ供給又ハ使用ノ停止ヲ豫防セシムル爲ニ公益上必要アリト認ムル場合ニ於テハ電氣事業者ニ對シ電氣ノ流用ヲ命スルコトヲ得

第十六條 電氣工作物相互間及電氣工作物ト其ノ他ノ工作物トノ間ニ於ケル障害ヲ防止スル爲ニ必要ナル施設ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 前四條ニ依リ工事ニ關スル費用ノ負擔其ノ他ノ條件ハ命令ヲ以テ定ムルモノノ外當事者間ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ主務大臣ニ之ヲ裁定ス

第十八條 電氣事業者ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ第一條第一號ノ事業ニ屬スル電氣工作物ノ施設ノ費用ニ充ツル爲ニ本法第二百條ノ規定ニ依リ制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得但シ社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ノ二倍ヲ超ユルコトヲ得ス

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現在スル財産カ拂込ミタル株金額ニ滿タサルトキハ前項ノ規定ニ依リ社債ヲ募集スルコトヲ得

第十九條 第一項ノ規定ニ依リ募集スル社債ニ付テハ工場抵當法ニ依リ會社ノ事業ニ關スルモノヲ抵當ト爲スコトヲ要ス

第二十條 行政官廳ハ電氣事業者ニ對シ業務及財産ノ狀況ニ關シ検査ヲ爲シ、報告ヲ爲サシメ其ノ他監督上必要ナル事項ヲ命スルコトヲ得

第二十一條 第一條ニ掲グルモノノ外電氣ヲ供給又ハ使用スル事業ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第二十二條 電氣工作物ヲ損壞シ之ニ物品ヲ接觸シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ電氣ノ供給又ハ使用ヲ妨害シタル者ハ四年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二十三條 電氣事業者ノ承諾ヲ得シテ濫ニ電氣工作物ノ施設ヲ變更シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十四條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケ

テ爲スヘキ行爲ヲ許可又ハ認可ヲ受ケスシテ爲シタル者又ハ第六條若  
ハ第十四條ノ二ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス  
第二十條ノ二 正當ノ事由ナクシテ第十六條ノ三ノ規定ニ依ル検査ヲ拒  
ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ報告ヲ爲サス若ハ虚偽ノ報告ヲ爲シ其ノ他行  
政官廳ノ命シタル事項ヲ爲ササル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス  
第二十一條 電氣事業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人、其ノ他ノ従業者  
ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル  
トキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス  
第二十二條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發ス  
ル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附則  
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治四十四年八月勅令第二三五  
號)ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行  
本法施行ノ際現ニ電氣事業ヲ營ム者又ハ本法施行前ニ於テ電氣事業經營  
ノ許可ヲ受ケタル者ハ第三條ニ依リ許可ヲ受ケタル者ト看做ス  
附則 (和和二年三月法律第三八號)  
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和二年八月勅令第二七四號)ヲ  
以テ同年九月一日ヨリ施行)

電氣事業法施行規則 (明治四十四年九月五日 逓信省令 第二十五號)

【沿革】 大正二年六月省令第五八號、同年十月同第九二號、同四年二月同第一二號、同五年二月同第  
六號、同年十月同第五五號、同十年五月同第二五號、同十四年五月同第三一號、同十五年大  
正二年八月同第三三號、昭和二年八月同第三三號、昭和四年十二月同第五九號

目次

第一章 事業ノ創設及變更
第二章 工事施行
第五編 通信、交通、電氣
第三章 電氣、瓦斯

第三章 土地立入、植物ノ伐除移植、土地立入、地中電氣工作  
物位置變更、電氣ノ流用並裁定

第四章 主任技術者
第五章 落成検査
第六章 業務
第七章 検査
第八章 罰則

附則

第一章 事業ノ創設及變更

- 第一條 電氣事業經營ノ許可申請ニハ左ノ書類ヲ具備スヘシ
- 一 起業目論見書
  - 二 工事設計書
  - 三 工事費概算書 第一號様式ニ依
  - 四 事業上ノ收支概算書 第二號様式ニ依
- 前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ
- 一 水力ヲ原動力ニ使用セムトスルモノハ發電水力ノ使用ニ關スル當  
該官廳ノ許可書並命令書ノ謄本、未タ其ノ許可ヲ得サルモノハ其  
ノ願書ヲ當該官廳ニ提出シタルコトヲ記載セル書面
  - 二 他ヨリ受電スル電力ニ依ル電氣事業ヲ經營セムトスルモノハ其ノ  
供給者トノ契約書、受電地點、送電ノ責任分界、受電電力、受電時  
ノ他受電條件ヲ具、電氣方式、周波數、受電電壓、契約期間其  
備スルコトヲ要スノ謄本

- 三 會社ヲ設立セムトスルモノニ在リテハ定款ノ際本、組合事業ニ在リテハ其ノ契約書ノ際本
  - 四 既設會社ノ事業ニ在リテハ定款及會社登記簿ノ際本並株主總會若ハ社員ノ電氣事業經營ニ關スル議事及決議錄ノ際本現ニ電氣事業トスルモノニ在リテハ定款及會社登記簿ノ際本ヲ除ク
  - 五 公共團體ノ事業ニ在リテハ其ノ團體ノ電氣事業經營ニ關スル決議書ノ際本
  - 六 電氣鐵道(電氣事業法第一條第二號ノ鐵道及軌道ヲ謂フ以下之ニ同シ)事業ニ在リテハ地方鐵道免狀ノ際本、軌道敷設特許狀ノ際本、但シ命令書アルモノハ各其ノ際本、未タ其ノ免狀ハ特許ヲ得サルモノハ其ノ願書ヲ當該官廳ニ提出シタルコトヲ記載セル書面
- 第二條 電氣供給事業ノ起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ**
- 一 商號又ハ名稱及主タル事務所ノ設置地
  - 二 目的電燈又ハ電
  - 三 電氣供給事業以外ノ事業ヲ兼營セムトスルモノハ其ノ事業ノ大要ヲ附記スヘシ
  - 四 供給區域(特許ノ事由アル場合ヲ除ク)ノ外市町村ノ行政區域ニ依リテ之ヲ設定スヘシ
  - 五 平面圖(供給區域ノ境界、郡市町村又ハ大字界及其ノ名稱、主要ナル市街、村落、道路、鐵道、軌道、山川、港灣要塞地等)ヲ記載スヘシ

- 第四條 工事設計書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ**
- 一 發電所、變電所、蓄電所ノ名稱及位置(道府縣郡市町村名及受電ニ依リ電氣事業ヲ營セムトスルモノニ在リテハ其ノ供給者及受電地點)道府縣郡市町村名及地番ヲ記載スヘシ若シ其ノ地點力發電所、變電所又ハ蓄電所内ナルトキハ其ノ旨ヲ附記スヘシ
  - 二 送電線路ノ名稱、區間(各送電線路ニ別シ其ノ連絡スル發電所、變電所、蓄電所、受電地點等)ノ名稱ヲ記載スヘシ(經過地、各送電線路毎ニ區別シ道府縣郡市町村名ヲ記載スヘシ及其ノ互長)
  - 三 配電線路又ハ饋電線路中發電所、變電所、蓄電所、受電地點ヨリ供給區域又ハ電氣鐵道線路ニ達スル部分ノ經過地、配電線路及饋電線路ヲ記載スヘシ
  - 四 平面圖(縮尺五萬分ノ一以上トシ發電所、變電所、蓄電所、受電地點ノ位置及電線路ノ中心線並其ノ經過スル道府縣郡市町村ノ境界及名稱、地勢、主要ナル市街、ヲ添附スヘシ但シ第二條又ハ第八條ノ軌道ノ關係ヲ記載スヘシ)ヲ添附スヘシ但シ第二條又ハ第八條ノ平面圖中ニ記載スルトキハ本圖面ヲ省略スルコトヲ得
  - 五 送電系統圖(第六條式ニ依ル)ヲ添附スヘシ
  - 六 電氣方式(各發電所、變電所、蓄電所、受電地點、送電線路毎ニ區別シ特別高壓、高壓、低壓、直流、交流、相、路線式、三線式其他ノ方式)ヲ周波數、送電線ノ最大電壓、別シ記載スヘシ
  - 七 配電線ノ最大電壓(特別高壓、高壓、低壓)及需用者ノ端子電壓(電燈、電動機、他電力裝置ノ端子電壓)ヲ記載スヘシ
  - 八 發電所及受電地點ノ出力(キロワット)數(各發電所及受電地點ノ出力ノ合計)ヲ常時(一年ノ内)ノ一定時期ヲ限リ使用シ得ルモノニシテ特殊(一年ノ内)ノ一定時期ヲ限リ使用シ得ルモノニシテ
- 第五編 通信、交通、電氣 第三章 電氣、瓦斯**

- 四 事業資金ノ總額及其ノ出資ノ方法(電氣事業以外ノ事業ヲ兼營セムトスルモノハ各其ノ資金ノ區分)ヲ記載スヘシ
  - 三 電氣鐵道ノ起點、終點(起點、終點トモ道府縣郡市經過地、市町村名ヲ記載スヘシ)及其ノ互長
  - 二 電氣鐵道ノ種類(地方鐵道、軌道等)ノ區別ヲ記載スヘシ
  - 一 商號又ハ名稱及主タル事務所ノ設置地
- 第三條 電氣鐵道事業ノ起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ**
- 一 商號又ハ名稱及主タル事務所ノ設置地
  - 二 電氣鐵道ノ種類(地方鐵道、軌道等)ノ區別ヲ記載スヘシ
  - 三 電氣事業以外ノ事業ヲ兼營セムトスルモノハ其ノ事業ノ大要ヲ附記スヘシ
  - 四 電氣鐵道ノ起點、終點(起點、終點トモ道府縣郡市經過地、市町村名ヲ記載スヘシ)及其ノ互長
  - 五 平面圖(縮尺二萬五千分ノ一以上(市街地ノ部分ハ別ニ縮尺二千五百分ノ一以上)ノモノヲ添附スヘシ)トシ電氣鐵道ノ位置(單軌道、雙軌道ノ別)、其ノ經過スル道府縣郡市町村ノ境界及名稱、地勢、停車場ノ位置及名稱、主要ナル市街、村落、電氣鐵道ノ位置ヨリ二百メートル以内ニ在ル他ノ鐵道又ハ軌道ノ位置、電氣鐵道ノ位置ヨリ五百メートル以内ニ在ル架空電線電線路ノ位置、電氣鐵道ノ位置ヨリ五百メートル以内ニ在ル架空電線電線路ノ位置、電氣鐵道ノ位置ヨリ五百メートル以内ニ在ル地下使用スル方式ノ電氣鐵道ニ在リテハ電氣鐵道ノ位置ヨリ凡一キロメートル以内ニ在ル水道管、瓦斯管、地中電線其ノ他地中施設金屬管ノ位置並電氣鐵道ノ距離ヲ一キロメートルヲ添附スヘシ
  - 六 事業資金ノ總額及其ノ出資ノ方法(電氣事業以外ノ事業ヲ兼營セムトスルモノハ各其ノ資金ノ區分)ヲ記載スヘシ

- 七 電氣鐵道方式(各電氣鐵道路線毎ニ區別シ直流、交流、相、架空單線式、表面接觸式其他方及電車線ノ電壓、各電氣鐵道路線毎ニ區別シ記載スヘシ)及電力(汽力、水力、內燃力、其他原動力)ノ別、原動力各發電所毎ニ區別シ水力、汽力、內燃力、其他原動力ノ別、使用水量(發電所出力ノ區別ニ依ル)、有效落差、理論「キロワット」數、汽力、內燃力等ニ在リテハ其ノ「キロワット」數ヲ記載スヘシ
  - 八 電氣事業經營許可申請書ニハ左ノ事項ヲ提出シ同時ニ其ノ副本ヲ事業地ニ管轄スル地方官及通信局長ニ提出スヘシ但シ事業地力二以上ノ管内ニ跨ル場合ニハ副本ヲ添附スヘキ圖面ハ各管内ノ關係部分ノミヲ具シテ提出スルコトヲ得
  - 九 第六條 電氣事業經營ノ許可ヲ得タル後起業目論見書又ハ工事設計書中左ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ關係ノ書類、圖面ヲ具シ通信大臣ニ許可ヲ申請スヘシ
- 第六條 電氣事業經營ノ許可ヲ得タル後起業目論見書又ハ工事設計書中左ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ關係ノ書類、圖面ヲ具シ通信大臣ニ許可ヲ申請スヘシ**
- 一 目的
  - 二 供給區域

- 三 電氣鐵道ノ起點、終點及經過地ニ起點、終點及經過地トモ市街地ニ在リテハ道府縣郡市町村
- 四 發電所、變電所、蓄電所ノ位置、受電地點及供給者
- 五 送電線路ノ區間及經過地、配電線路又ハ饋電線路ノ經過地電線路ニ在リテハ之ヲ制除スル場合ヲ除ク
- 六 電氣方式、周波數、送電線ノ最大電壓及需用者ノ端子電壓ノ電壓ノ端
- 七 發電所及受電地點ノ出力
- 八 電線路ノ種類架線ノ地中線ニ變電氣鐵道方式及電線ノ電壓
- 九 電氣鐵道方式及電線ノ電壓
- 十 電氣鐵道方式及電線ノ電壓
- 十一 電氣鐵道方式及電線ノ電壓
- 十二 電氣鐵道方式及電線ノ電壓
- 十三 電氣鐵道方式及電線ノ電壓
- 十四 電氣鐵道方式及電線ノ電壓
- 十五 電氣鐵道方式及電線ノ電壓
- 十六 電氣鐵道方式及電線ノ電壓
- 十七 電氣鐵道方式及電線ノ電壓
- 十八 電氣鐵道方式及電線ノ電壓
- 十九 電氣鐵道方式及電線ノ電壓
- 二十 電氣鐵道方式及電線ノ電壓

- 三 電氣鐵道ノ起點、終點及經過地ニ起點、終點及經過地トモ市街地ニ在リテハ道府縣郡市町村
- 四 發電所、變電所、蓄電所ノ位置、受電地點及供給者
- 五 送電線路ノ區間及經過地、配電線路又ハ饋電線路ノ經過地電線路ニ在リテハ之ヲ制除スル場合ヲ除ク
- 六 電氣方式、周波數、送電線ノ最大電壓及需用者ノ端子電壓ノ電壓ノ端
- 七 發電所及受電地點ノ出力
- 八 電線路ノ種類架線ノ地中線ニ變電氣鐵道方式及電線ノ電壓
- 九 電氣鐵道方式及電線ノ電壓
- 十 電氣鐵道方式及電線ノ電壓
- 十一 電氣鐵道方式及電線ノ電壓
- 十二 電氣鐵道方式及電線ノ電壓
- 十三 電氣鐵道方式及電線ノ電壓
- 十四 電氣鐵道方式及電線ノ電壓
- 十五 電氣鐵道方式及電線ノ電壓
- 十六 電氣鐵道方式及電線ノ電壓
- 十七 電氣鐵道方式及電線ノ電壓
- 十八 電氣鐵道方式及電線ノ電壓
- 十九 電氣鐵道方式及電線ノ電壓
- 二十 電氣鐵道方式及電線ノ電壓

肥後ノ際本、合併ニ因リ新ニ會社ヲ設立セムトスルモノニ在リテハ  
定款ノ際本

四 合併後ニ於ケル事業上ノ收支概算書ヲ製スルニ依リ及兼營事業計  
畫說明書

第九條 前二條ノ規定ニ依ル應渡又ハ合併ヲ終了シタルトキハ遲滞ナク  
當事者ヨリ通信大臣ニ届出ツヘシ

電氣事業ヲ相續シタル者ハ戶籍簿本ヲ添ヘ前項ノ規定ニ準シ届出ツヘ  
シ

第十條 (刪除)

第十條ノ二 電氣事業法第一條第一號ノ電氣事業者カ工場抵富法ニ依リ  
其ノ事業ノ全部ニ屬スルモノヲ以テ工場財團ヲ設定シタル場合ニ於テ

其ノ發行人カ左記各號ノ一ニ該當スルモノナルトキハ第八條ノ規定ニ  
依ラズシテ其ノ電氣事業ヲ讓受ケルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第九條

第一項ノ規定ヲ準用ス

一 電氣事業法第一條第一號又ハ第二號ノ電氣事業者タル株式會社  
讓受ケムトスル電氣事業ノ經營ヲ目的トスル株式會社ノ發行人ト

シテ七人以上合同シ連帶責任ヲ以テ讓買若ハ入札ノ申込ヲ爲シタル  
者

第十條ノ三 發行人カ前條第二號ニ該當スル者ナルトキハ遲滞ナク會社  
ヲ成立セシメ其ノ旨届出ツヘシ

第十一條 第五條ノ規定ハ電氣事業開始期間伸長ノ申請及第六條乃至第  
十條ノ三ノ規定ニ依ル申請並届出ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二章 工事施行

第五編 通信、交通、電氣 第三章 電氣、瓦斯

第十二條 電氣事業經營ノ許可ヲ得タル者ハ指定ノ期間内ニ通信大臣ニ  
工事施行ノ認可ヲ申請スヘシ但シ電氣供給用ニシテ使用電壓一萬五千

「ヴォルト」以下ノモノニ屬シテハ電氣新ヲ設置セサル場合ニ限り所轄  
通信局長ニ認可ヲ申請スヘシ

前項但書ノ場合ニ於テ電壓又ハ電壓ノ電工率トスル供給區域ニ對ス  
ルモノニシテ關係ノ發電所、變電所、蓄電所、受電地點等ニ付工事施

行ノ認可ヲ得タルモノナルトキハ第十八條第一項ニ屬スル事項ノ變更  
ヲ伴ハサル限リ前項但書ノ規定ヲ適用セズ此ノ場合ニ於テハ其ノ工事

ヲ伴ハサル限リ前項但書ノ規定ヲ適用セズ此ノ場合ニ於テハ其ノ工事  
方法ヲ具シ工事着手前指定ノ工事施行認可申請期間内ニ所轄通信局長

ニ届出ツヘシ

前二項ノ規定ハ第六條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ得タル場合ニ之ヲ準  
用ス

第一項及第三項ノ規定ニ依ル申請書ハ電氣事業經營許可申請書又ハ起  
業目録見書若ハ工事設計書中ノ事項變更ノ許可申請書ト同時ニ之ヲ提

出スルコトヲ得

第一項及第三項ノ規定ニ依リ通信大臣ニ認可ヲ申請スル場合ハ同時ニ  
其ノ副本ヲ所轄通信局長ニ提出スヘシ

第十二條ノ二 電氣事業者指定ノ期間内ニ工事施行ヲ認可申請又ハ其ノ  
届出ヲ爲シ得タルトキハ理由ヲ具シ前條ノ區別ニ依リ通信大臣又ハ選

信局長ニ期間伸長ノ認可ヲ申請スヘシ

前項ノ規定ニ依リ通信大臣ニ認可ヲ申請スル場合ハ同時ニ其ノ副本ヲ  
所轄通信局長ニ提出スヘシ

一三七

第十三條 第十二條ノ規定ニ依ル申請又ハ届出ニハ左ノ書類及圖面ヲ具  
備スヘシ

- 一 工事設計明細書
- 二 實測圖
- 三 工事落成期限書ノ工事毎ニ落成期限ヲ記載スヘシ
- 四 工事豫算書 第三號様式ニ依

第十四條 電氣供給事業ノ工事設計明細書ニハ各送電系統ニ從ヒ左ノ事  
項ヲ記載スヘシ

- 一 總出力ノ發電所及受電地點アル場合ハ其ノ出力ト合成セルモノヲ  
落成ト未落成トニ  
區別記載スヘシ
- 二 發電設備ノ發電所ノ名稱及位置(道府縣郡市町村名及地番  
ヲ記載スヘシ)ヲ掲ケ一發電所毎ニ記載スヘシ
- 三 發電所ノ出力 第四條第五  
項ニ準ス
- (一) 原動力設備
- (二) 水力設備

- (イ) 河川又ハ湖沼名並取水口及放水口ノ位置  
使用水量 單位毎秒立方「メートル」トシ發電  
所出力ノ區別ニ從ヒ記載スヘシ  
有效落差 單位「メートル」トシ  
計算書ヲ添付スヘシ
- (ロ) 理論「キロワット」數 左ノ算式ニ依リ計算スヘシ  

$$\frac{\text{落差} \times \text{流量}}{1000} \times 9.8$$
- (ハ) 引水方法 取水口ヨリ放水口ニ至ル水路ノ互長ヲ附記スヘシ
- (ニ) 引水方法 取水口ヨリ放水口ニ至ル水路ノ互長ヲ附記スヘシ

(ハ) 水路工作物 堰堤、取水口、制水門、隧道、閉塞、養菜、木橋、水  
出管等ヲモ含ム、沈砂池、土砂吐、餘水路等ノ構造、材料及  
施工方法但シ簡單ナル工事ニシテ圖面ノミヲ以テ説明シ得  
ルモノハ適宜之ヲ省略スルコトヲ得算式  
ヲ以テ計算シタルモノハ之ヲ附記スヘシ

(チ) 貯水池、調整池 全容量、有效容量、使用方法、構  
造、材料、施行方法、地形、地質等  
水車 種類、容量、回轉數、常用ト豫備トノ別  
水路、貯水池及調整池ノ局部構造並機械器具ノ裝置ハ別ニ圖面  
ヲ以テ之ヲ表示スヘシ

(イ) 汽力設備  
汽機 種類、「キロワット」數、汽壓、汽温、真空度、蒸氣消費  
量、回轉數、調速機ノ種類及箇數(常用ト豫備トノ別)  
汽罐 種類、汽壓、汽温、蒸發容量、加熱面積、火床面積、有效火  
汽罐容量、過熱面積(獨立過熱器ニ在リテハ其ノ火床面積  
ヲモ記載スヘシ)及箇  
數(常用ト豫備トノ別)

(ロ) 蒸氣全消費量ニ對スル計算書ヲ添付スヘシ  
給水設備 種類、給水量及箇數(常用ト豫備トノ別)  
原動力機ノ種類「キロワット」數、及箇數、  
蒸氣機ノ種類、冷汽面積及箇數並其ノ附屬機器  
ノ種類、容量「キロワット」數及箇數  
給炭機 種類、火床ノ中及長サ汽罐一箇ニ  
對スル振付箇數及設計燃燒容量

(ハ) 節炭器、空氣豫熱器 種類、加熱  
面積及箇數  
通風機 種類、容量、風壓及箇數  
原動力機ノ種類及キロワット數

(ロ) 變壓器「キロヴォルトアムペア」數、一次電壓、二次電壓、相  
間波數、結線法、冷却法及箇數(常用ト豫備トノ別)  
(ハ) 電動發電機、回轉變流機、周波數變換機、整流器 種類、直  
流ノ別、「キロワット」數、電壓(交流ニ在リテハ電流ヲモ記  
載スヘシ)、相、周波數、回轉數及箇數(常用ト豫備トノ別)  
(ニ) 同期進相機「キロヴォルトアムペア」數、電壓、周波數、箇數  
送電容量ヲ增加スル目的ヲ以テ設  
置スルモノニ在リテハ其ノ計算

(ハ) 蓄電池 種類、放電時間、  
放電容量及箇數  
(ニ) 保安裝置 種類及構造ノ大要(發電機、母線、  
變壓器、送電線等ノ保安裝置)  
(ハ) 機械器具ノ裝置及電線ノ接續ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スヘシ

三 送電線路 送電線路ノ名稱、區間及互長(架空線、地中線、  
海底線)ヲ掲ケ一電線路毎ニ記載スヘシ  
(イ) 電氣方式 直流、交流、及最大電壓  
(ロ) 架空電線路ノ構造  
電線 條數、太サ、電線及被覆絶緣物ノ種類、電線地表  
支持物 標準柱間距離、最大柱間距離、木柱(木材ノ種類別)、鐵  
塔、鐵筋混凝土柱ヲ使用スル場合  
ハ其ノ強サニ關スル計算及重量  
塔、鐵筋混凝土柱ヲ使用スル場合  
碍子 種類、大サ(懸垂型ノモノニ在リテハ一連ノ  
碍子 箇數ヲモ記載スヘシ)、試驗電壓及試驗時間

第五編 通信、交通、電氣 第三章 電氣、瓦斯

(チ) 溫水器、淨水器 種類、容  
量及箇數

(イ) 機器 種類「キロワット」數、回轉數、點火裝置ノ種  
類、調速機ノ種類及箇數(常用ト豫備トノ別)  
(ロ) 瓦斯發生器 種類、燃料ノ種類、發生容量  
及箇數(常用ト豫備トノ別)  
(ハ) 瓦斯洗滌器 種類及瓦斯溜及貯油槽 容量及  
其ノ他附屬設備

(ニ) 機械器具ノ裝置ハ別ニ圖面、側面圖等  
ヲ以テ之ヲ表示スヘシ  
(三) 電氣設備  
(イ) 發電機 直流、交流ノ別、「キロワット」數又ハ「キロヴォルト  
アムペア」數(交流ニ在リテハ力率ヲ記載スヘシ)、電  
壓、相、周波數、回轉數、結線法、勵磁法、箇數、(常用ト豫備ト  
ノ別)及原動力機トノ連結方法、勵磁機ニ關シテハ「キロワット  
ト」數、電壓、回轉數、勵磁法、箇數(常用ト豫備トノ別)  
別)原動力機トノ連結方法、原動力機ノ種類及馬力數

第五編 通信、交通、電氣 第三章 電氣、瓦斯

第五編 通信、交通、電氣 第三章 電氣、瓦斯

其ノ他構造ノ大要 閉閉所ノ工事並他ノ工作物トノ關係上施設ス  
海峽等ヲ横斷スル場  
合ノ工事ノ構造等

六萬「ヴォルト」以上ノ送電線路ニ在リテハ別ニ電氣工作物規程  
本則第四十二條ノ規定ニ依ル誘導電流ニ關スル計算書ヲ添付ス  
ヘシ

(ハ) 地中電線路及水底電線路ノ構造電線種類、種類、構造、被覆  
敷及  
太サ

布設方法 踏架、線架、直接埋設等ノ  
別ニ依ル布設方法ノ大要  
其ノ他構造ノ大要 地中函、接續函等ノ構造並他ノ工作物  
トノ關係上施設スヘキ工事ノ構造等

(ニ) 保安裝置 (イ) 地線、避雷器等ノ構造ノ大要  
(ロ) 保安上必要ナル電話設備

(イ) 同線ノ方式、回線圖及設置場所、送電線路ニ添架  
セサルモノハ其ノ經過地名、電線ノ種類及太サ

四 變電所内設備 變電所ノ名稱及位置、道府縣都市町村名及地番  
ヲ記載スヘシ)ヲ掲ケ一變電所毎ニ記載スヘシ

(イ) 變電所ノ出力 第四條第五  
項ニ準ス  
(ロ) 變電設備ノ(三)  
變壓器ノ(ロ)ニ準ス

(イ) 受電地點ノ出力 第四條第五  
項ニ準ス

(ロ) 電氣方式 直流、交流、周波數及受電電壓

(ハ) 送電上ノ責任分界トナルヘキ閉閉器 屋内ニ於ケル閉閉器又ハ  
開閉器ニシテ軌レモ常ニ監視檢漏器及其ノ他ノ設備  
視人ヲ附スルモノナルコト

(ニ) 保安裝置 種類及構  
造ノ大要

電線ノ接續及責任ノ分界ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スヘシ

七 配電設備

(イ) 電氣方式 直流、交流、配電電壓及需用者ノ端子電壓 電燈、電動  
機其ノ他電  
力裝置ノ  
端子電壓

(ロ) 架空電線路ノ構造

電線 電線及被覆絶緣物ノ種類(高壓、低壓ノ別)、特別高壓ノモノ  
ニ在リテハ線條數、太サ、電線相互ノ間隔及熱線ノ方法  
支持物 送電線路ノ(ロ)ノ支  
持物ノ項ニ準ス

碍子(特別高壓ノモノニ限ル) 送電線路ノ(ロ)ノ碍  
子ノ項ニ準ス

其ノ他構造ノ大要 送電線路ノ(ロ)ノ其ノ他  
構造ノ大要ノ項ニ準ス

電線路ノ互長ヲ附記スヘシ  
第五編 通信、交通、電氣 第三章 電氣、瓦斯

(ハ) 電動發電機、轉流機、周波數變換機、整流器 發電設備ノ(三)  
ノ(ハ)ニ準ス

(ニ) 同機進相機 發電設備ノ(三)  
ノ(ニ)ニ準ス

(ホ) 蓄電池 發電設備ノ(三)  
ノ(ホ)ニ準ス

(イ) 保安裝置 種類及構  
造ノ大要

一 機械器具ノ構造及電線ノ接續ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スヘシ  
五 蓄電所内設備 蓄電所ノ名稱及位置(道府縣都市町村名及地番  
ヲ記載スヘシ)ヲ掲ケ一蓄電所毎ニ記載スヘシ

(イ) 發電設備ノ(三)  
電池ノ(ホ)ニ準ス

(ロ) 昇壓機、回線圖及電  
壓、電及其ノ附屬機器

(ハ) 保安裝置 種類及構  
造ノ大要

六 受電設備 受電地點ノ位置(道府縣都市町村名及地番ヲ記載スヘシ)  
及電力供給者ヲ掲ケ一地點毎ニ記載スヘシ若シ其ノ地點  
變電所内設備又ハ蓄電所内設備ノ項ニ併記スヘシ

(ハ) 地中電線路及水底電線路ノ構造

電線種類、心線及被覆絶緣物ノ種類(特別高壓、低壓ノ別)、  
特別高壓ノモノニ在リテハ線條數、心線ノ數及太サ

布設方法 送電線路ノ(ハ)ノ布  
設方法ノ項ニ準ス

其ノ他ノ構造ノ大要 送電線路ノ(ハ)ノ其ノ他  
構造ノ大要ノ項ニ準ス

電線路ノ互長ヲ附記スヘシ

(ニ) 變壓器 高壓又ハ低壓ノモノニ在リテハ一次電壓、二次電壓、相  
變壓器 特別高壓ノモノニ在リテハ其ノ位置(道府縣都市町村名  
及地番ヲ記載スヘシ)

及發電設備ノ(三)ノ(ロ)ノ事項

(ホ) 電動發電機、轉流機、周波數變換機、整流器 特別高壓ノ  
其ノ位置(道府縣都市町村名及地番ヲ記  
載スヘシ)及發電設備ノ(三)ノ(ホ)ノ事項

(イ) 同期進相機 特別高壓ノモノニ限リ其ノ位置(道府縣都市町村  
名及地番ヲ記載スヘシ)及發電設備ノ(三)ノ(イ)ノ事  
項

(ロ) 保安裝置 (イ) 種類及構造ノ大要  
(ロ) 送電線路ノ(二)ノ(ロ)ニ準ス

電線路ノ構造並特別高壓用機械器具ノ裝置及電線ノ接續ハ別ニ

工事設計明細書ニハ送電關係一覽圖第七號様式ニ依テ添付スヘシ  
水路、貯水池、調整池及之ニ沿ヒ設置スル監視人詰所、發電所、變電所、  
蓄電所並閉所構内及受電地點等ニ於テ電燈又ハ電力ヲ使用セムトス  
ルモノハ第一項各號ノ事項中ニ其ノ設備ヲ明記スヘシ  
電氣ノ工作物規程ニ依ル特殊ノ設計又ハ制限外施設ニ關シテハ第一項  
各號ノ事項中ニ其ノ工事方法ヲ詳記スヘシ  
第十五條 電氣鐵道事業ノ工事設計明細書ニハ各送電系統ニ從ヒ左ノ事  
項ヲ記載スヘシ

- 一 總出力 前條第一項第一號ニ準ス
- 二 發電設備 前條第一項第一號ニ準ス
- 三 送電線路 前條第一項第一號ニ準ス
- 四 變電所内設備 前條第一項第一號ニ準ス
- 五 蓄電所内設備 前條第一項第一號ニ準ス
- 六 受電設備 前條第一項第一號ニ準ス
- 七 饋電線路
  - (イ) 電氣方式 直流、交流、及電壓 相及線式、及電壓
  - (ロ) 架空饋電線路ノ構造 前條第一項第一號ニ準ス
  - (ハ) 地中饋電線路ノ構造 前條第一項第一號ニ準ス

饋電線路ノ構造ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スヘシ  
八 軌車線路及軌道 電氣鐵道ノ名稱、區間及互長(單軌道、  
複軌道別)ヲ掲ケ一線路毎ニ記載スヘシ  
(イ) 電氣鐵道方式 第四條第七號ニ準ス  
(ロ) 電氣線路及軌道ノ構造

- 電氣鐵道ノ種類、形狀、太サ、線間距離、  
電氣線路ノ種類、電氣線路ノ架設方法及區別法  
支持物(架空式ノ場合) 鐵柱、木柱、木柱ノ種類別、  
鐵柱、木柱等ノ別及側柱、中央柱ノ別  
電氣線路ノ種類、軌道ノ別、軌間、最大勾配、最小半徑、軌條ノ重量、  
第三軌條式、踏車式、表面接觸式等ニ在リテハ其ノ施設方法  
電氣信號裝置 電氣信號ノ種類、電氣信號ノ架設方法及區別法  
電氣線路及車道ノ構造ハ別ニ局部圖面及橫斷面圖ヲ以テ之ヲ表示  
スヘシ  
工事設計明細書ニハ送電關係一覽圖第七號様式ニ依  
テ添付スヘシ  
一 電氣機關車 重量、電動機ノ「キロワット」數、  
二 電車 重量、乘車人員、電動機ノ「キロワット」數、  
(イ) 客車 重量、乘車人員、電動機ノ「キロワット」數、  
(ロ) 貨車 重量、積載量、電動機ノ「キロワット」數、  
三 附隨車 重量、乘車人員(貨車ナルトキハ積載量)及車輛數  
車輛内電線ノ接続及車輛ノ構造ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スヘシ

前條第三項ニ規定セル場所、車庫構内、軌道ニ沿ヒ建設スル電柱及軌  
道ニ沿ヒ設置スル保線又ハ運輸係員詰所等ニ於テ電燈又ハ電力ヲ使用  
セムトスルモノニ在リテハ第一項各號ノ事項中ニ其ノ設備ヲ明記設備  
事項ヲ記載シタル書面ヲ添付スヘシ  
電氣工作物規程ニ依ル特殊ノ設計又ハ制限外施設ニ關シテハ第一項各  
號ノ事項中ニ其ノ工事方法ヲ詳記スヘシ  
第十六條 實測圖ハ左ノ區別ニ依リ調製スヘシ

- 一 水路、貯水池及調整池實測平面圖 縮尺六十分ノ一以上トシ埋堤、開  
渠、暗渠、木樋、水路橋、水路管、貯水池、調整池、水槽、餘水路、水壓管、  
發電所、放水路ノ位置並其ノ經過スル道府縣郡市町村及附近町村ノ  
境界及名稱、地勢  
等ヲ記載スヘシ
- 二 水路、貯水池及調整池實測縱斷面圖 縮尺長サ平面圖ト同一ニシテ  
高サハ二百分ノ一以上トシ埋堤、開渠、暗渠、木樋、水路橋、水路管、  
貯水池、調整池、水槽、餘水路、水壓管、發電所、放水路ノ位置、基準線  
(高サ)可成陸地測量部水準ニ準據スヘシ、距離、避加距離、地盤高、  
切取盛土ノ高、水路、貯水池、調整池ノ底面ノ高サ、計畫水位(水面勾  
配)ヲ記入スヘシ、取水口及放水口ノ最  
高水位、平水位、最低水位ヲ記載スヘシ
- 三 水路、貯水池及調整池實測橫斷面圖 縮尺二百分ノ一以上トシ計畫  
等ヲ適當ノ斷面ニ  
依リ記載スヘシ
- 四 送電線路實測平面圖 市街地及其ノ附近部分ハ縮尺二千分ノ一以上  
其ノ他ノ部分ハ縮尺五千分ノ一以上トシ發電

- 所、變電所、蓄電所、受電地點、閉所ノ位置及電線路ノ中心線(變  
電所、地中線、水底線ノ別)並其ノ經過スル道府縣郡市町村及附近町  
村ノ境界及名稱、地勢、電線路ノ位置ヨリ凡一町以内ニ在ル電氣鐵  
道ノ位置、電柱地表上ノ高サノ一倍以内ニ在ル他ノ電線路及鐵道軌道  
道路、要塞此トノ關  
係ヲ記載スヘシ
- 五 配電線路實測平面圖 第四號 縮尺二萬五千分ノ一以上ト  
シ(市街地及其ノ附近部分  
ハ別ニ二千五百分ノ一以上トシ)添付スヘシ(饋電線、電氣線及電  
氣鐵道ノ位置)單軌道、複軌道ニ區別シ涉リ線、待避線、側線ヲモ記載  
スヘシ、軌道ノ近傍並其ノ經過スル道府縣郡市町村ノ境界及名稱、  
地勢、停車場ノ位置及名稱、道路ノ幅員、其ノ鐵道若ハ軌道ト交叉ス  
ル箇所アルトキハ其ノ位置、他ノ電線路ノ位置、電氣鐵道ノ位置ヨ  
リ凡二百「メートル」以内ニ在ル他ノ鐵道又ハ軌道ノ位置、電氣鐵道  
ノ位置ヨリ凡百「メートル」以内ニ在ル架空電氣鐵道ノ位置、單  
軌式其ノ他電線ノ一部トシテ大地ヲ使用スル方式ノ電氣鐵道ニ在リ  
テハ電氣鐵道ノ位置ヨリ凡一「キロメートル」電氣工作物規程本則第  
百二十四條ノ規定ニ依リ施設スル場合ハ百「メートル」以内ニ在ル水  
道管、瓦斯管、地中電線其ノ他地中施設金屬管ノ位置、發電機、變  
壓器又ハ廻轉變流機ノ一種ヲ接地シタル點ノ位置ヲ詳細ニ記載シ且  
電氣鐵道ノ距離ヲ一「キロ  
メートル」毎ニ記載スヘシ
- 七 軌道實測縱斷面圖 縮尺長サ平面圖ト同一ニシテ高サハ千分ノ一以  
上トシ中心線、地曲ノ高低、築堤、切取、隧道、橋  
梁ノ位置、道路、他ノ鐵道若ハ軌道ト交叉スル場合ニ在  
リテハ其ノ位置、軌道ノ勾配及經過地名等ヲ記載スヘシ  
前項第四號及第五號ノ圖面ニハ別ニ路線位置ノ概要ヲ示セル平面圖  
縮尺五萬分ノ一以上トシ添付スヘシ



第十四條 第三項及前條第三項ノ場合ニ於テハ關係電線路ノ位置ヲ第一項第一號及第四號乃至第六號ノ圖面中ニ記載スヘシ  
第一項各號ノ圖面ハ地況及電氣工作物ノ位置、構造其ノ他必要事項ノ判別ニ妨ナキ限リ縮尺ヲ適宜變更シ又ハ之ヲ分離シ若ハ併合シテ記載スルコトヲ得

第十七條 許可ヲ得タル事業ノ全部ニ對シ其ノ工事施行ノ認可ヲ一時ニ申請シ得サルトキハ理由ヲ具シ分割シテ認可ヲ申請スルコトヲ得  
水力設備、鐵柱、鐵塔、鐵筋混凝土柱ニ依ル電線路又ハ電氣工作物規程ニ依ル特殊ノ設計若ハ制限外施設ヲ含ム電氣工作物ニシテ之カ設計、施工又ハ計算等ニ時日ヲ要スルモノハ適宜之ヲ分離シテ認可ヲ申請スルコトヲ得

第十八條 電氣事業者第十二條ノ規定ニ依リ工事施行ノ認可ヲ得又ハ其ノ届出ヲ爲シタル後工事設計明細書中左ニ掲ケル事項ヲ變更セムトスルトキハ關係ノ書類圖面ヲ具シ通信大臣ニ認可ヲ申請スヘシ但シ電氣供給用ニシテ使用電壓一萬五千「ヴォルト」以下ノモノノ變更ニ關シテハ發電設備、受電地點ノ出力、周波數又ハ需要者ノ端子電壓ヲ變更セサル場合ニ限リ所轄通信局長ニ認可ヲ申請スヘシ

- 一 總出力
- 二 發電設備
- (一) 發電所ノ出力
- (二) 原動力設備
- (甲) 水力設備

(イ) 水路工作物 堰堤、取水口、制水門、水槽、沈砂池及水壓管、餘水路及放水路ノ勾配中  
心線位置、定規及材料

(ロ) 貯水池、調整池有效容量、構  
造及材料  
水車種類、「キロワット」數及箇數  
(常用ト豫備トノ別)

(イ) 汽機種類、「キロワット」數及箇數  
(常用ト豫備トノ別)  
(ロ) 汽機種類、加熱面積及箇數  
(常用ト豫備トノ別)

(イ) 機關種類、「キロワット」數及箇數  
(常用ト豫備トノ別)  
(ロ) 瓦斯發生器種類、發生容量及箇數  
(常用ト豫備トノ別)

(イ) 發電機箇數(常用ト豫備トノ別) 直流、交流ノ別、直流ニア  
リテハ「キロワット」數(二割以上ノ變更ニ限ル) 交流ニ在  
リテハ「キロワットアンペア」數  
(二割以上ノ變更ニ限ル)

(ロ) 變壓器「キロワットアンペア」數(二割以上ノ變更ニ限ル) 電  
法、相及  
周波數  
(二割以上ノ變更ニ限ル) 箇數(常用ト豫備トノ別) 結  
核

(ハ) 電動發電機、迴轉變流機、周波數變換機、整流器種類、直流、交  
「キロワット」數、箇數(常用  
ト豫備トノ別) 及周波數

(ニ) 同期進相機 箇數(常用ト豫備トノ別)、送電容量ヲ增加スル「目  
數及其ノ計算、周波數、箇數(常用ト豫備トノ別) 送電容量ヲ増  
加スル目的ヲ以テ設置スルモノニ在リテハ「キロヴォルトアム  
ペア」數及  
其ノ計算

(ホ) 保安裝置ノ種類  
送電線路  
(イ) 電氣方式相及最大電壓及電線路ノ種類  
(ロ) 架空電線路ノ構造

電線 條數、電線ノ種類及太サ  
(一) 割以上ノ變更ニ限ル  
支持物 標準柱間距離、木柱、鐵柱、鐵塔、鐵筋混凝土柱ノ別及  
其ノ構造、鐵柱、鐵塔、鐵筋混凝土柱ヲ使用スル場合ハ其  
ノ強サニ關  
スル計算

碍子 「ピン」型、繩  
垂型ノ別  
地中電線路、水底電線路ノ構造

電線 條數、心線  
敷設方法 踏架、線架、直  
接埋設等ノ別  
保安裝置 地線及  
避雷器

變電所内設備  
(イ) 變電所ノ出力 モノニ限ル  
(ロ) 變電設備ノ(三)ニ準ス

第五編 通信、交通、電氣 第三章 電氣、瓦斯

(イ) 電動發電機、迴轉變流機、周波數變換機、整流器種類、直流、交  
「キロワット」數、箇數(常用  
ト豫備トノ別) 及周波數

(ロ) 變壓器「キロワットアンペア」數(二割以上ノ變更ニ限ル) 電  
法、相及  
周波數  
(二割以上ノ變更ニ限ル) 箇數(常用ト豫備トノ別) 結  
核

(ハ) 電動發電機、迴轉變流機、周波數變換機、整流器種類、直流、交  
「キロワット」數、箇數(常用  
ト豫備トノ別) 及周波數

(イ) 電氣方式相及配電電壓及需用者ノ端子電壓 電燈ノ  
電壓  
(ロ) 架空電線路、地中電線路、水底電線路ノ別及其ノ構造路ニ在  
リテハ電線ノ種類、木柱、鐵柱、鐵塔、鐵筋混凝土柱ノ別、鐵柱、鐵  
塔、鐵筋混凝土柱ヲ使用スル場合ハ其ノ強サニ關スル計算、地  
中電線路及水底電線路ニ在リテ  
ハ踏架、線架、直接埋設等ノ別

變壓器(特別高壓ノモノニ限リ其ノ位置  
及發電設備ノ(三)ノ(ロ)ノ事項  
保安裝置ノ種類

七 電氣鐵道用饋電線路

(イ) 電氣方式直流、交

(ロ) 架空電線路、地中電線路ノ別及其ノ構造(ロ)ニ準ス

八 電車線路及軌道

(イ) 電氣鐵道方式及電車線ノ電壓

(ロ) 電車線路及軌道ノ構造

電車線種類、形狀、太サ、(一割以上ノ變更ニ限ル)及電線吊架法

支持物及側柱、中央柱ノ別

軌道「ボンド」並補助線ノ種類、太サ及施設方法、

第三軌條式、暗渠式、表面接觸式等ノ施設方法

工事落成期限ヲ變更シタルトキハ遅滞ナク工事施行ノ認可ヲ得又ハ其ノ届出ヲ爲シタル官廳ニ届出ツヘシ

前各項ノ規定ニ依リ選信大臣ニ認可ヲ申請シ又ハ届出ヲ爲ス場合ハ同時ニ其ノ副本ノ所轄選信局長ニ提出スヘシ

第十八條ノ二 電氣事業者第四十六條ノ規定ニ依リ使用ノ認可ヲ得タル

電氣工作物中左ニ掲クルモノノ取換ヲ爲サムトスル場合ニ於テ前條第一項ノ事項ニ變更ヲ及ボササルトキハ關係ノ書類、圖面ヲ具シ工事著

手前前條第一項但書ノ區別ニ依リ選信大臣又ハ選信局長ニ届出ツヘシ

一 水車

二 汽鐘及汽機

三 内燃機關

四 發電機

五 變壓器 發電所又ハ變電所ニ設置スル主要變壓器及前條第一項第六號(ハ)ノ變壓器

六 電動發電機、廻轉變流機、周波數變換機、整流器

七 地中電纜及水底電纜ト「ヲ超過スルモノ」ニ限ル

第十九條 電氣事業者第十二條ノ規定ニ依リ工事施行ノ認可ヲ得又ハ届出ヲ爲シタル後電線路又ハ軌道ヲ延長、増設若ハ短縮シ又ハ其ノ位置ヲ變更セムトスルトキハ第十八條第一項ノ規定ヲ準用ス但シ高壓若ハ低壓ノ配電線路電力供給ノミヲ目的トスル未開業饋電線路、電車線路及渉り線、待避線、側線タル軌道ノ延長、増設、短縮、位置變更並左右各二十「メートル」ヲ超エサル軌道ノ位置變更ニシテ第十八條第一項ニ掲クル事項ヲ變更セサルモノナルトキハ實測圖ニ準ス

路ニ關シテハ所轄選信局長ニ事業ヲ開始セル地域内ノモノニ關シテハ六箇月毎ニ取纏ムルコトヲ規定ス

路、電車線路及軌道ニ關シテハ選信大臣ニ遅滞ナク届出ツヘシ

架空引込線、架空連接引込線、地中引込線、發電所、變電所、蓄電所、開閉所及需用者ノ構内ニ施設スル電線路、第十四條第三項及第十五條

第三項ノ規定ニ依リ電線路、車庫線及車庫引込線タル軌道並之ニ附隨

スル電線路ニ關シテハ前項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲スコトヲ要セス

第一項ノ規定ニ依リ選信大臣ニ認可ヲ申請シ又ハ届出ヲ爲ス場合ハ同時ニ其ノ副本ヲ所轄選信局長ニ提出スヘシ

第二十條 認可ヲ得テ施設シタル電氣工作物ヲ滅失又ハ損壞シタルトキ

ハ其ノ復舊工事ハ認可ヲ得シテ著手スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ發電所、變電所又ハ蓄電所内ニ於ケル復舊工事ニ關

スルトキハ第十八條第一項ニ掲クル事項ヲ變更スル場合ト雖認可ヲ得

スシテ其ノ工事ニ著手スルコトヲ得

第二十條ノ二 左ノ場合ニ於テハ工事方法ヲ具シ所轄選信局長ニ認可ヲ

申請スヘシ其ノ工作物カ第十八條第一項ニ掲クル事項ニ變更ヲ及ボス

場合ト雖亦同シ

一 前條ノ場合又漏水其ノ他事故ノ場合ニ於テ電力ノ不足ヲ補給スル

爲三箇月以内ヲ限リ他ヨリ受電セムトスルトキ

二 自家用電氣工作物施設規則第七條ノ二、官廳施設電氣事業規則第

七條ノ二及前號ノ場合ニ於テ他ヨリ受電セムトスル者ニ供給區域外

ノ地點ニ於テ供給セムトスルトキ

第二十一條 電氣事業者第十二條ノ規定ニ依リ認可ヲ得若ハ届出ヲ爲シタル工事又ハ第十八條第一項、第十九條第一項及前條ノ規定ニ依リ認可ヲ得タル工事ニ著手シタルトキハ運滞ナク其ノ認可ヲ得又ハ届出ヲ爲シタル官廳ニ届出ツヘシ

第十八條ノ二及第二十條ノ場合ニ於ケル工事ニ著手シタルトキハ第二十條第一項ノ區別ニ依リ選信大臣又ハ選信局長ニ届出ツヘシ但シ第二十條第二項ノ場合ニ於テハ同時ニ第十八條第一項ノ規定ニ依リ認可ノ申請ヲ爲スヘシ

前二項ノ規定ニ依リ選信大臣ニ届出ヲ爲ス場合ハ同時ニ其ノ副本ヲ所轄選信局長ニ提出スヘシ

第二十二條 (削除)

第三章 土地立入、植物ノ伐除移植、土地使用、地中電氣

工作物位置變更、電氣ノ流用並裁定

第二十三條 通氣事業法第七條第一項及第八條ノ規定ニシタル行政官廳ノ職權ハ府縣支廳及北海道支廳ノ管轄區域ニ在リテハ支廳長其ノ他ノ地ニ在リテハ地方長官之ヲ行フ

市町村長ノ職務ハ市制又ハ町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ市町村長ニ準スヘキ吏員之ヲ行フ

第二十四條 電氣事業法第七條第一項ニ依リ電氣工作物ノ施設ニ關シ測量又ハ工事ノ爲土地立入ノ許可ヲ受ケムトスル電氣事業者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スヘシ

- 一 立入ノ目的
- 二 電氣事業及電氣工作物ノ種類

第五編 通信、交通、氣氣 第三章 電氣、瓦斯

三 立入ルヘキ土地ノ區域

四 立入ルヘキ豫定期間及期間

許可ヲ得タル電氣事業者ハ左ノ事項ヲ市町村長ニ書面ヲ以テ通知スヘシ

一 前項各號ノ事項

二 許可ヲ與ヘタル行政官廳名及許可ノ年月日

第二十五條 電氣事業法第七條第一項ニ依ル市町村長ノ告示ハ左ノ事項ヲ具備スルコトヲ要ス

一 電氣事業者名

二 前條第一項各號ノ事項

三 許可ヲ與ヘタル行政官廳名並許可年月日

告示ハ市町村役場ノ揭示場ニ揭示シ又ハ其ノ地ニ於テ發行スル新聞紙ヲ以テ公告スヘシ

土地ノ占有者ニ通知スル場合ニハ第一項ノ規定ヲ準用ス其ノ通知ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十六條 電氣事業法第八條第一項ニ依リ竹木其ノ他ノ植物ヲ伐除又ハ移植スルカ爲許可ヲ受ケムトスル電氣事業者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スヘシ

一 電氣事業ノ種類

二 關係電線路ノ種類及電壓

三 障害ノ原因及程度、障害除却ノ方法及其ノ範圍並其ノ實行ノ時期

四 植物ノ存在地及其ノ所有者ノ氏名並住所

五 損失補償ノ見積金額及内譯

六 所有者ト協議訓ハス又ハ協議ヲ爲スコト能ハサル事由

前項ノ申請書ニハ植物ノ存在地及附近ノ概況等ヲ記載シタル圖面ヲ添付スヘシ

電氣事業者ヨリ所有者ニ對スル通知ハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

一 第一項第三號及第五號ノ事項

二 許可ヲ與ヘタル行政官廳名及其ノ許可年月日

第二十七條 電氣事業法第八條第二項ニ依リ提出スル竹木其ノ他ノ植物ニ伐除又ハ移植ニ關スル届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 前項第一號乃至第五號ノ事項

二 危險急迫ノ事實

電氣事業者ヨリ所有者ニ對スル通知ニハ前項ノ規定ヲ準用ス

第二十八條 電氣事業法第七條、第八條又ハ第十條ニ依リ土地又ハ建造物ニ立入り又ハ竹木其ノ他ノ植物ヲ伐除若ハ移植セムトスル者ハ電氣事業者タル證票ヲ携帯スヘシ但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケヘキモノナルトキハ其ノ許可書ノ謄本ヲモ携帯スヘシ

前項ニ依リ携帯スル證票ハ土地若ハ建造物又ハ植物ノ管理者ニ對シ之ヲ呈示スヘシ其ノ管理者ヨリ許可書謄本ノ呈示ヲ請求セラレタルトキ亦同シ

電氣事業者ハ第一項ニ依リ携帯スヘキ證票ノ見本ヲ作業ノ日ヨリ少クトモ二日前ニ作業地所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第二十九條 電氣事業法第十條第二項ニ依リ土地使用ニ關スル許可ヲ受ケムトスル電氣事業者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スヘシ

一 電氣事業ノ種類、電線路ノ構造大要及電壓

二 電線路施設ノ爲當該地點ノ選定ヲ必要トスル事由

位置變更ニ關シ許可ヲ受ケムトスル電氣事業者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ電氣工作物施設地ヲ管轄スル通信局長ヲ經由シテ通信大臣ニ提出スヘシ

一 變更ヲ必要トスル事由

二 現存工作物ノ施設場所、種類及構造並所屬電氣事業者名

三 施設セムトスル工作物ノ施設場所、種類及構造

四 工作物相互ノ位置並其ノ附近ニ於ケル他ノ地中工作物トノ關係狀

五 現存工作物ノ變更方法

六 變更工事ノ著手及落成期限

七 變更工事費見積金額及内譯

前項ノ申請書ニハ圖面ヲ添付スヘシ

電氣事業者前項ノ許可ヲ得タルトキハ許可書ノ謄本ヲ添ヘ第一項各號ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ以テ相手方ニ通知スヘシ

第三十六條 電氣事業法第十四條ノ二ニ依リ電氣ノ流用ヲ命セラレタル者ハ指定ノ期間内ニ工事費負擔方法、電氣供給料金其ノ他第一條ニ依リ起業目論見書又ハ工事設計書中ノ事項變更ニ關スル申請ヲ爲スヘシ但シ起業目論見書又ハ工事設計書中ノ事項ニ變更ヲ生セサルモノニ在リテハ該契約書ノ謄本ヲ添付シ其ノ工事方法ヲ通信大臣ニ届出ツヘシ

流用ノ命令ヲ受ケタル者協議調ハサル場合ニ於テハ指定ノ期間内ニ第三十七條ニ依リ裁定ノ申請ヲ爲スヘシ

第三十七條 電氣事業法第十六條ニ依リ裁定ヲ受ムトスル者ハ左ノ事項

一 申請人及相手方ノ氏名又ニ商號及住所

二 裁定事件ノ表示

三 申請ノ目的及理由

前項ノ申請書ヲ受理シタル行政官廳ハ其ノ副本ヲ相手方ニ送付シ一定ノ期間内ニ答辯書ヲ差出サシムヘシ必要ト認ムルトキハ申請人又ハ相手方ヨリ更ニ辯駁書、答辯書ヲ提出シ命スルコトアルヘシ

指定ノ期限内ニ答辯書ヲ差出ササルトキハ行政官廳ハ申請書ノミニ依リテ裁定スルコトヲ得副本ノ交付ヲ爲スコト能ハサルトキ亦同シ

第三十五條 裁定ヲ爲シタル行政官廳ハ理由ヲ付シタル書面ヲ以テ當事者雙方ニ之ヲ通知スヘシ

第三十六條 電氣事業法第十三條ニ依リ他人ニ屬スル地中電氣工作物ノ

第五編 通信、交通、電氣 第三章 電氣、瓦斯

第五編 通信、交通、電氣 第三章 電氣、瓦斯

第五編 通信、交通、電氣 第三章 電氣、瓦斯

第五編 通信、交通、電氣 第三章 電氣、瓦斯

第五編 通信、交通、電氣 第三章 電氣、瓦斯

第五編 通信、交通、電氣 第三章 電氣、瓦斯

第五編 通信、交通、電氣 第三章 電氣、瓦斯

第五編 通信、交通、電氣 第三章 電氣、瓦斯

第五編 通信、交通、電氣 第三章 電氣、瓦斯

第五編 通信、交通、電氣 第三章 電氣、瓦斯

第五編 通信、交通、電氣 第三章 電氣、瓦斯

第五編 通信、交通、電氣 第三章 電氣、瓦斯

第五編 通信、交通、電氣 第三章 電氣、瓦斯

第五編 通信、交通、電氣 第三章 電氣、瓦斯

第五編 通信、交通、電氣 第三章 電氣、瓦斯

第五編 通信、交通、電氣 第三章 電氣、瓦斯

第五編 通信、交通、電氣 第三章 電氣、瓦斯

第五編 通信、交通、電氣 第三章 電氣、瓦斯

第五編 通信、交通、電氣 第三章 電氣、瓦斯

第五編 通信、交通、電氣 第三章 電氣、瓦斯

第五編 通信、交通、電氣 第三章 電氣、瓦斯

第五編 通信、交通、電氣 第三章 電氣、瓦斯

第五編 通信、交通、電氣 第三章 電氣、瓦斯

ヲ記載シタル正副二通ノ申請書ヲ作成シ電氣工作物施設地ヲ管轄スル  
通信局長ヲ經由シテ通信大臣ニ提出スヘシ

- 一 申請人ノ商號又ハ氏名及住所
- 二 裁定事件ノ表示
- 三 申請ノ目的及理由
- 四 協議調ハサル願末

裁定ニ關シテハ第三十四條ノ規定ヲ準用ス

第四章 主任技術者

第三十八條 電氣事業者ハ工事着手前ニ主任技術者ヲ選任シ技術ニ關ス  
ル事項ヲ擔任セシムヘシ  
主任技術者ノ缺位ヲ生シタルトキハ電氣事業者ハ選滞ナク其ノ後任者  
ヲ選任スヘシ

第三十九條 主任技術者ハ左ノ區別ニ從ヒ電氣事業主任技術者資格檢定  
規則ニ依ル相當ノ資格ヲ有スル者及電氣技術ノ經驗ヲ有スル者ナルコ  
トヲ要ス

電氣事業ノ種類

電氣供給事業及電氣鐵道  
事業

三萬五千「ヴォルト」以下  
ノ電氣供給事業及電氣鐵  
道事業  
一萬五千「ヴォルト」以下  
ノ電氣供給事業及電氣鐵  
道事業  
低壓又ハ 歴ノ電氣供給  
事業

電氣事業主任技術者

- 第一種ノ資格ヲ有スル者
- 第二種ノ資格ヲ得タル後二年以上電  
氣技術ノ經驗ヲ有スル者又ハ從前ノ  
規定ニ依リ第二級ノ資格ヲ有スル者
- 第三種ノ資格ヲ得タル後二年以上電  
氣技術ノ經驗ヲ有スル者又ハ從前ノ  
規定ニ依リ第四級ノ資格ヲ有スル者

低壓又ハ百「キロワット」  
以上ノ高壓電氣供給事業

二十「キロワット」以下ノ  
低壓又ハ高壓電氣供給事  
業

第三種ノ資格ヲ有スル者  
電氣技術ニ關シ相當ノ學術經驗ヲ有  
スト認定セラレタル者又ハ從前ノ規  
定ニ依リ第六級ノ資格ヲ有スル者

前項ノ主任技術者ハ特殊ノ事由アル場合ニ限り選滞大臣ノ認可ヲ得テ  
二箇以上ノ電氣事業ニ兼務スルコトヲ得

第四十條 電氣事業者主任技術者ヲ選任シタルトキハ履歷書ヲ添へ通信  
大臣ニ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ  
主任技術者ニ缺位ヲ生シタルトキハ其ノ旨選滞大臣ニ届出ツヘシ  
本條ノ履歷書ハ所轄通信局長ヲ經由スヘシ

第四十一條 通信大臣ハ主任技術者カ其ノ職務ヲ怠リ又ハ其ノ職務ヲ行  
フニ不適當ナル行爲アリト認ムルトキハ其ノ解任ヲ命スルコトアルヘ  
シ

第四十二條 主任技術者疾病、旅行其ノ他ノ事由ニ因リ一月以上ニ互リ  
其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ電氣事業者ハ其ノ代表者ヲ選任シ  
履歷書ヲ添へ其ノ旨所轄通信局長ニ届出ツヘシ

第四十三條 本令ニ依リ官廳ニ提出スル書類圖面中技術ニ關スルモノハ  
主任技術者又ハ其ノ代表者之ニ署名捺印スヘシ但シ第三十八條ニ依ル  
主任技術者ノ選任前ニ在リテハ其ノ設計ヲ擔當シタル技術者之ニ署名  
捺印スヘシ

第五章 検査

第四十四條 電氣事業者第十二條、第十八條第一項、第十九條第一項ノ

規定又ハ電氣工作物規程ニ依リ認可ヲ得又ハ第十二條ノ規定ニ依リ届  
出ヲ爲シタル工事落成シタルトキハ選滞ナク其ノ認可ヲ得又ハ届出ヲ  
爲シタル官廳ニ届出ツヘシ

第二十條第一項及第二十條ノ二ノ場合ニ於ケル工事落成シタルトキハ  
所轄通信局長ニ、第二十條第二項ノ場合ニ於ケル工事落成シタルトキ  
ハ第十八條第一項ノ區別ニ依リ通信大臣又ハ通信局長ニ届出ツヘシ  
前二項ノ規定ニ依リ届出ハ電報、電話又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ  
得

第一項及第二項ノ規定ニ依リ通信大臣ニ届出ツヘキ場合ニ於テハ同時  
ニ所轄通信局長ニ其ノ副本ヲ提出シ又ハ電話若ハ口頭ヲ以テ其ノ旨通  
知スヘシ

第四十五條 電氣事業者ハ火藥其ノ他爆發性ノ物質ヲ製造又ハ設置スル  
場所ニ電氣工作物ヲ施設シタルトキハ選滞ナク其ノ工事方法ヲ具シ工作物  
施設地ヲ管轄スル通信局長ニ届出ツヘシ

第四十六條 第四十四條第一項、第二項又ハ前條ニ依リ届出アリタルト  
キハ當該官廳ハ検査吏員ヲ派遣シ其ノ落成シタル電氣工作物ヲ検査セ  
シメタル上使用認可證ヲ交付ス但シ特ニ検査ノ必要ナシト認ムルトキ  
ハ直ニ使用認可證ヲ交付スルコトアルヘシ

電氣工作物規程ニ依リ認可ヲ得タル工事ニ在リテハ前項ノ規定ヲ適用  
セス

検査ノ結果改修ヲ命シタル場合ニ於テ其ノ改修工事落成シタルトキハ  
前二條ニ準シ届出ツヘシ

第四十七條 検査吏員ニ於テ危険ナシト認メタルトキハ直ニ假使用許可  
證ヲ交付スルコトアルヘシ

第五編 通信、交通、電氣 第三章 電氣、瓦斯

假使用許可證ノ有效期間ハ六十日トス

第四十八條 第二十條ノ復舊工事落成シタルトキハ第十八條ニ掲タル事  
項ニ變更ヲ生セサル場合ニ限り使用許可證ヲ受ケスシテ其ノ落成電氣  
工作物ヲ使用スルコトヲ得

第四十九條 第十二條ノ規定ニ依リ許可ヲ得又ハ届出ヲ爲シタル工事落  
成シタルトキハ電氣事業者ハ電氣工作物竣工明細書別記第五ヲ調製シ  
該工作物検査ノ爲派遣セラレタル検査吏員ヲ經由シテ其ノ許可ヲ得又  
ハ届出ヲ爲シタル官廳ニ届出ツヘシ但シ検査ヲ受ケスシテ使用認可證  
ヲ交付セラレタルトキハ直ニ當該官廳ニ届出ツヘシ

増設又ハ變更工事ノ落成ニ因リ電氣工作物竣工明細書中ノ事項ニ變更  
ヲ生シタルトキ亦同シ但シ其ノ落成電氣工作物力使用許可證ヲ受ケス  
シテ使用シ得ルモノナルトキハ直ニ當初届出ヲ爲シタル官廳ニ届出ツ  
ヘシ

前二項ノ規定ニ依リ通信大臣ニ届出ヲ爲ス場合ハ同時ニ其ノ副本ヲ所  
轄通信局長ニ提出スヘシ

第四十九條ノ二 通信大臣ハ左ノ場合ニ於テ検査吏員ヲ派遣シ電氣工作  
物ヲ臨時検査セシム

一 天災事變其ノ他ノ事故ニ因リ電氣工作物ニ著シキ障害アリト認メ  
タルトキ

二 電氣工作物カ他ノ工作物ニ著ツキ障害ヲ及ボシタリト認メタルト  
キ

三 電氣工作物ノ變更ニ因ラスシテ發電所出力増加ノ認可申請アリ  
ルトキ

第六章 業務

第五十條 電氣供給事業者ハ需用者ニ對シ正當ノ理由ナクシテ電氣ノ供給ヲ拒絕スルコトヲ得ス

第五十一條 電氣事業者ハ供給點ニ於テ保持スヘキ一定電壓又ハ一定電流ヲシテ百分ノ四以上ノ變動ヲ起サシメサルコトヲ要ス且電燈供給ノ場合ニ在リテハ技術上已ムチ得サルモノヲ除クノ外光力ニ不定ヲ生セシメサルコトヲ要ス但シ特殊ノ事由アル場合ニ於テ逡信大臣ノ認可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條 電燈ノ電力ヲ表示スルニハ燭光ヲ以テ單位トス  
一 燭光ハ電壓七百六十「ミリメートル」ノ時一立方「メートル」ニ付八「リットル」ノ水蒸氣ヲ含有スル空氣中ニ於テ燃燒スル「ハーコート」氏十燭光「ベントーン」燈ノ光力ノ十分ノ一トス

第五十三條 電燈供給ニ使用スル白熱電球ニハ電壓及大サノ「ワット」數又ハ電壓及燭光「真空」タンクス「真空」電球ニ在リテハ平均水平、光、瓦斯填充「タンクス」電球ニアリテハ平均球面燭光ヲ指示スヘシ  
前項ノ大サ及燭光ニ關スル指示數ノ誤差ハ左記ノ値ヲ超過セサルコトヲ要ス

電球ノ種類	電球ノ大サ	全電力消費量	平均球面燭光	平均水平燭光
真空「タンクス」電球	七・五ワット 乃至一〇ワット	百分ノ十		〇・八燭光
	一・二・五ワット以上	百分ノ七・五		百分ノ十

第六十一條 電氣事業者ハ送電中出火、暴風其ノ他非常ノ場合ニ際シ危險ナリト認ムル區域内ノ架空電線ニ對シ速ニ其ノ送電ヲ遮斷スヘシ  
前項ニ依リ送電ヲ中止シタル區域内電路ノ各要所ニ晝間ハ標旗夜間ハ標燈ヲ掲グヘシ

第六十二條 電氣事業者ハ送電中ノ架空電線ノ近傍ニ出火アルトキハ直ニ現場ニ技術員ヲ派遣シ危險豫防ノ手續ヲ施シ其ノ旨出張ノ警察官ニ届出シムヘシ其ノ技術員ハ警察官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ退場スルコトヲ得ス  
出火ノ場所ニ派遣ノ技術員ニハ晝間ハ標旗夜間ハ標燈ヲ携帯セシムヘシ

第六十三條 前二條ニ依リ使用スヘキ標旗及標燈ノ樣式ハ別ニ之ヲ告示ス

第六十四條 電氣事業者ハ毎事業決算期ニ於テ電氣事業報告書ヲ作成シ決算期後二月内ニ逡信大臣ニ届出ツヘシ但シ決算期ノ定メナキモノハ前項ノ事業報告書ニハ營業報告書、財産目錄、貸借對照表、損益計算書及利益處分ニ關スル書面ヲ添付スヘシ  
第六十四條ノ二 電氣事業者ハ毎年十二月末日現在ニ於ケル從事者ノ職務別及兵役關係別數ニ付報告書(第八號樣式ニ依リ調製スヘシ)四通ヲ作成シ翌年二月末日迄ニ所轄逡信局長ヲ經由シ逡信大臣ニ届出ツヘシ  
第六十五條 電氣事業者ハ別ニ定ムル所ニ依リ電氣工作物ノ故障及其ノ運轉使用ニ關スル事故ノ届出ヲ爲スヘシ

第六十六條 左ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ逡信ナク逡信大臣ニ届出テ同時ニ其ノ副本ヲ所轄地方長官及逡信局長ニ提出スヘシ  
一 會社成立シタルトキ  
二 株金ノ拂込アリタルトキ  
三 會社ノ取締役ハ其ノ旨附記スヘシ 監査役ヲ選任若ハ改任シタルトキ、總社員ノ同意ヲ以テ代表社員ヲ定メタルトキ又ハ之ヲ變更シタルトキ

瓦斯填充「タンクス」電球	一〇〇ワット以上	百分ノ十	百分ノ二
	一〇〇ワット以下	百分ノ十	百分ノ十

第五十四條 電氣事業者カ白熱電球ヲ提供シテ電燈ヲ供給スル場合ニ於テ其ノ光力取附後ノ使用ニ依リ指示電壓ニ於テ真空「タンクス」電球ニ在リテハ指示燭光數ノ百分ノ八十以下ニ瓦斯填充「タンクス」電球ニ在リテハ指示燭光數ノ百分ノ七十五以下ニ減少シ且需用者ノ請求アルトキハ電氣事業者ハ新ナル電氣ト取換ヲ爲スヘシ

第五十五條 電氣供給事業者ハ別ニ定ムル所ニ依リ電氣供給規程ノ届出ヲ爲スヘシ

第五十六條 電路ハ常ニ之ヲ検査シ安全ト認ムルニ非サレハ之ニ送電スルコトヲ得ス

第五十七條 發電所、變電所、蓄電所、受電地點及閉閉所ニハ相當ノ技術者ヲ置キ送電中ハ常ニ監視セシムヘシ

第五十八條 電氣供給事業者ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ全部又ハ一部ノ事業ヲ休止スルコトヲ得ス  
第五十九條 修繕其ノ他ノ原因ニ因リ送電ヲ中止スルトキハ急遽ノ場合ヲ除クノ外其ノ旨ヲ關係需用者ニ豫告スヘシ  
第六十條 地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ニ於テ保安上必要アリト認ムルトキハ電氣事業者ニ對シ電線路ノ要所ニ技術員ノ敷宿所ヲ設置セシメ其ノ在勤ヲ命スルコトアルヘシ  
前項ノ敷宿所ニハ公衆ノ踏易キ所ニ其ノ標札ヲ掲グヘシ  
第六十條 電氣事業者ハ保線係員ヲシテ常時電線路ヲ巡視セシムヘシ

四 營業所又ハ事務所ヲ設置シ若ハ變更シタルトキ

五 電氣事業又ハ營業事業ヲ開始、休止、廢止シ若ハ營業事業ヲ讓渡シタルトキ

第六十七條 電氣事業者カ公債若ハ社債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲シタルトキハ其ノ事由、公債、社債又ハ借入金ノ金額及利率、償還期限其ノ他發行又ハ借入ノ條件ヲ具シ逡信大臣ニ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テ工場抵當法ニ依リ電氣供給事業ニ屬スルモノヲ以テ工場財團ヲ設定シタルトキハ其ノ財團ノ目錄ヲ添付スヘシ

第六十七條ノ二 電氣事業法第十六條ノ二ノ規定ニ依リ社債募集ノ認可ヲ申請スル場合ニ於テハ募集ヲ必要トスル事由、金額及利率、償還期限其ノ他發行ノ條件ヲ記載シタル申請書ニ左ノ書類ヲ添付スヘシ  
一 社債ニ依リ施設セムトスル電氣工作物ノ説明書  
二 前號ノ施設ニ伴フ事業上ノ收支計算書(第二號樣式ニ準)及工費計算書(第三號樣式ニ準)  
三 信託證書案  
四 社債募集ニ關スル株主總會ノ決議錄謄本  
五 工場抵當法ニ依リ抵當ニ供スヘキ物件ノ目錄  
六 前號ノ擔保物件ノ帳簿價格ヲ最終ノ財産目錄ノ科目別ニ表示セル書面

七 前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其ノ償還ヲ了ヘサル社債ノ登記抄本  
八 前ニ工場抵當法ニ依リ電氣供給事業ニ屬スルモノヲ以テ抵當ト爲シタルトキハ擔保物件ノ目錄及擔保物件ノ帳簿價格ヲ最終ノ財産目錄ノ科目別ニ表示セル書面並信託證書ノ謄本

九 會社ノ資本及拂込ミタル株金總額ノ登記抄本  
十 最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産ノ額ヲ記載セル書面

十一 最終ノ貸借對照表

第六十七條ノ三 前條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル後擔保物件ノ目錄又

ハ信託證書ニ變更アリタルトキハ還付ナク逕信大臣ニ届出ツヘシ

第六十七條ノ四 電氣事業者公債、社債又ハ借入金ヲ償還シタルトキハ

其都度逕信大臣ニ届出ツヘシ

第六十七條ノ五 第六十四條及前四條ノ規定ニ依リ認可ノ申請又ハ届出

ヲ爲ス場合ハ同時ニ其ノ副本ヲ所轄地方長官及逕信局長ニ提出スヘシ

第七節 監査

第六十八條 逕信大臣ハ吏員ヲ派遣シ電氣工作物若ハ其ノ工事中ノ狀況

ヲ検査セシムルコトアルヘシ

逕信大臣ハ必要ト認ムルトキハ電氣事業者ニ命シ現ニ使用シ若ハ使用

セムトスル機械器具其ノ他物品ノ見本ヲ差出サシメ其ノ試験ヲ爲スコ

トアルヘシ

見本ノ運搬ニ要スル費用並試験ニ因テ生スル損害ハ電氣事業者ノ負擔

トス

第六十九條 逕信大臣ハ既設若ハ工事中ノ電氣工作物カ他ニ障害ヲ及ホ

シ若ハ危険ナリト認ムルトキハ改修、撤去若ハ使用ノ停止ヲ命スルコ

トアルヘシ

第七十條 逕信大臣ハ公益上必要ト認ムルトキハ電氣事業者ニ對シ事業

經營上必要ナル設備ノ變更又ハ増設ヲ命スルコトアルヘシ

第七十條ノ二 地方長官(東京府ニ在リ)ハ公益上必要ト認ムルトキハ電

氣事業ノ實況ヲ検査シ且危險急迫ノ場合ニ在リテハ電氣事業者ニ對シ

保安上必要ナル措置ヲ命スルコトアルヘシ

第七十一條 電氣供給事業者カ供給區域内ノ一部分ニ於ケル事業ヲ開始

シタル後久シキニ互リ其ノ殘餘部分ニ對シ正當ノ理由ナクシテ電線路

其ノ他供給上必要ナル設備ヲ爲ササルトキハ逕信大臣ハ許可ノ一部ヲ

取消スコトアルヘシ

第七十二條 道路又ハ他人ノ土地ニ施設シタル電線路ニシテ其ノ使用ヲ

廢止シタルモノハ電氣事業者之ヲ撤去スヘシ

需用場所ニ施設シタル電氣工作物ニシテ電氣事業者ニ屬スルモノハ需

用者ヨリ撤去ノ請求アリタルトキ亦前項ニ同シ

電氣事業者電氣工作物ヲ施設シタル後久シキニ互リ之カ使用ヲ爲ササ

ルトキハ逕信大臣ハ其ノ撤去ヲ命スルコトアルヘシ

第八節 罰則

第七十三條 本令ニ基キテ爲シタル處分ニ違反シ又ハ故ナク検査ヲ拒ミ

又ハ之ヲ妨ケタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第七十四條 本令ノ規定ニ依ル届出又ハ通知ヲ怠リタル者ハ科料ニ處ス

第七十五條 第二十八條ノ規定ニ依リ證票及許可書ノ謄本ヲ携帯セス又

ハ證票ヲ呈示セスシテ土地又ハ建造物ニ立入り又ハ植物ヲ伐除若ハ移

植シタル者ハ科料ニ處ス

管理者ヨリ請求ヲ受ケタルニ拘ラス許可書ノ謄本ヲ呈示セサル者亦同

附則

第五編 通信、交通、電氣 第三章 電氣、瓦斯

第七十六條 本令ハ電氣事業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

電氣事業取締規則ハ之ヲ廢止ス

第七十七條 本令ニ依リ逕信局長ヲ經由スヘキ書類圖面ニシテ訂正ニ係

ルモノハ逕信大臣ニ於テ指示シタル場合ニ限り直接ニ之ヲ提出スルコ

トヲ得

前項ノ場合ニ於テハ其ノ訂正ニ係ル書類圖面ノ副本ヲ當該逕信局長ニ

提出スヘシ

第七十八條 電氣事業法施行ノ際現ニ電氣事業者ヲ營ム者又ハ同法施行前

ニ於テ電氣事業經營ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シ本令施行前ニ於テ爲シ

タル處分ハ本令ノ規定ニ抵触スルモノヲ除クノ外本令施行後ト雖猶其

ノ效力ヲ有ス

第七十九條 本令施行前ニ於テ電氣事業取締規則ニ依リ提出シタル許可

又ハ認可ノ申請ニシテ本令施行ノ際マテニ處分ヲ受ケサルモノハ本令

施行後ニ於テハ本令ニ依リ提出シタルモノト看做ス但シ本令ノ規定ニ

依リ提出ヲ要スル書類圖面ハ更ニ之ヲ補充セシムルコトアルヘシ

第八十條 本令施行前ニ於テ許可ヲ得タル電氣鐵道事業者ハ軌道條例ニ

依ルモノヲ除クノ外第三條ノ起業目論見書第四條ノ工事設計書 第四號

八號ノ事 第十五條ノ工事設計明細書第十六條ノ實測圖及第一條第二項

項ヲ除ク 第十五條ノ工事設計明細書第十六條ノ實測圖及第一條第二項

中ノ關係書類ヲ調整シ本令施行ノ日ヨリ六月内ニ之ヲ逕信大臣ニ提出

スヘシ

附則 (大正十四年五月逕信省令第三〇號)

第八十一條 從前ノ規定ニ依リ逕信大臣ニ届出テ又ハ其ノ認可ヲ得タル

事項ニシテ本令ニ依リ逕信局長ノ所管ニ移リタルモノニ關スル届出ハ

之ヲ所轄逕信局長ニ提出スヘシ

## 第二節 瓦斯

### 瓦斯事業法

(大正十二年四月九日  
法律第四十六號)

- 第一條 本法ニ於テ瓦斯事業ト稱スルハ一般ノ需用ニ應シ導管ニ依リテ瓦斯ヲ供給スル事業ヲ謂フ
- 第二條 本法ニ於テ瓦斯工作物ト稱スルハ瓦斯發生裝置、瓦斯精製裝置、瓦斯槽、導管其ノ他瓦斯供給ノ爲施設スル工作物ニシテ瓦斯事業ノ用ニ供スルモノヲ謂フ
- 第三條 瓦斯事業ヲ營ムトスル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ
- 第四條 瓦斯事業者ハ主務大臣ノ指定スル期間内ニ工事施行ノ許可ヲ申請シ且其ノ事業ヲ開始スヘシ
- 主務大臣ハ正當ノ事由アリト認ムル場合ニ限り前項ノ期間ノ延長ヲ許可スルコトヲ得
- 瓦斯事業者前二項ノ期間内ニ工事施行ノ許可ヲ申請セス又ハ事業ヲ開始セサルトキハ前條ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ
- 第五條 瓦斯事業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ工事ヲ施行シ又ハ瓦斯工作物ヲ使用スルコトヲ得ス
- 第六條 瓦斯事業者ハ河川、溝渠、道路、橋梁、堤防其ノ他公共ノ用ニ供セラルル土地ニ導管ヲ施設スル必要アルトキハ其ノ效用ヲ妨ケサル限度ニ於テ其ノ管理者ノ許可ヲ受ケテ之ヲ使用スルコトヲ得
- 前項ノ管理者正當ノ事由ナクシテ前項ノ許可ヲ拒ミタルトキハ主務大臣

臣ハ瓦斯事業者ノ申請ニ依リ前項ニ規定スル使用ヲ許可スルコトヲ得  
前二項ノ場合ニ於テハ瓦斯事業者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ使用料ヲ納ムヘシ

前三項ノ規定ハ道路法ニ依ル道路及其ノ附屬物並道路法第七條ノ規定ニ依リ同法ノ規定ヲ準用スル道路及其ノ附屬物ト爲ルヘキモノニ關シテ之ヲ適用セス

第七條 瓦斯事業者ハ必要アルトキハ導管ノ施設ニ關スル調査、測量若ハ工事ノ爲他人ノ土地ニ立入り又ハ現在ノ使用方法ヲ妨ケサル限度ニ於テ他人ノ土地ニ導管ヲ施設スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ瓦斯事業者他人ノ土地ニ立入り又ハ導管ヲ施設セムトスル場合ニ於テ其ノ所有者及占有者ト協議調ハス又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ使用ノ範圍ヲ定メ豫メ行政官廳ノ許可ヲ受クヘシ

瓦斯事業者前項ノ許可ヲ受ケタル後他人ノ土地ニ立入り又ハ導管ヲ施設セムトスルトキハ少クとも五日前ニ其ノ旨土地ノ所有者及占有者ニ通知スヘシ

第八條 前條ノ規定ニ依リ他人ノ土地ニ導管ヲ施設シタル場合ニ於テ其ノ土地ノ所有者又ハ占有者ハ其ノ土地ノ使用方法ヲ變更スル爲必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ瓦斯事業者ニ對シ導管ノ位置ノ變更其ノ他土地ノ使用ニ對スル障害ノ豫防又ハ除却ニ必要ナル施設ヲ爲スコトヲ請求スルコトヲ得

前項ノ施設ニ要スル費用ハ瓦斯事業者ノ負擔トス但シ瓦斯事業者前項ノ施設ヲ爲シタル前項ノ規定ニ依リ請求ノ爲シタル土地ノ所有者又ハ占有者方正當ノ事由ナクシテ其ノ土地ノ使用方法ノ豫定ノ變更ヲ爲



ササルトキハ其ノ者ノ負擔トス

第九條 瓦斯事業者ハ瓦斯工作物ノ修理又ハ検査ノ爲必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ工作物ヲ施設シタル他人ノ土地又ハ建造物ニ立入ルコトヲ得但シ日没ヨリ日出迄ノ間ニ於テハ占有者ノ意ニ反シテ邸宅又ハ建造物ニ立入ルコトヲ得ス

第十條 第七條及前條ノ場合ニ於テ現ニ生シタル損失ハ瓦斯事業者之ヲ補償スヘシ

前項ノ規定ニ依ル補償金額ニ付協議調ハス又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ行政官廳之ヲ裁定ス其ノ裁定ニ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

行政官廳ハ必要アリト認ムルトキハ瓦斯事業者ヲシテ損失ノ補償ニ充ツヘキ金額ヲ供託セシムルコトヲ得

第十一條 瓦斯工作物相互間及瓦斯工作物ト其ノ他ノ工作物トノ間ニ於ケル障害ヲ防止スル爲必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ規定ニ依リ爲ス工事ニ關スル費用ノ負擔其ノ他ノ事項ハ命令ヲ以テ定ムルモノノ外當事者ノ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハス又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ主務大臣之ヲ裁定ス

第十二條 瓦斯料金其ノ他命令ヲ以テ定ムル瓦斯供給條件ノ設定又ハ變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

前項ノ場合ニ於テ主務大臣ハ關係市町村ノ意見ヲ徵スヘシ

主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ瓦斯料金其ノ他瓦斯供給條件ニ關シ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

市町村ト瓦斯事業者トノ間ニ存スル事業經營ニ關スル定ニ基キ瓦斯事業者カ市町村ノ承認ヲ求メタル場合ニ於テ協議調ハサルトキハ主務大臣

區之ヲ裁定ス

第十三條 瓦斯ノ成分、壓力、光力及熱量並瓦斯工作物ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 瓦斯事業者ハ正當ノ事由アルニ非サレハ瓦斯ノ供給ヲ拒ムコトヲ得ス

第十五條 瓦斯事業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ廢止シ又ハ休止スルコトヲ得ス

第十六條 瓦斯事業ノ讓渡ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケヘシ瓦斯事業ヲ營ム會社ノ合併又ハ解散亦同シ

第十七條 市町村カ瓦斯事業ヲ營ムトスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ管轄區域内ノ瓦斯事業ヲ買收スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ買收ノ價格其ノ他買收ノ條件ニ關シ協議調ハス又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ主務大臣之ヲ裁定ス

第十八條 行政官廳ハ瓦斯事業者ニ對シ業務及財産ノ狀況ニ關シ検査ヲ爲シ、報告ヲ爲サシメ其ノ他監督上必要ナル事項ヲ命スルコトヲ得

第十九條 第一條ニ掲ケルモノヲ除クノ外瓦斯ノ供給シ又ハ使用スル事業ニ關シテハ第六條乃至第十條及第十七條ノ規定ヲ除クノ外命令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ全部又ハ一部ヲ準スルコトヲ得

第二十條 瓦斯事業者本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シ、行政官廳ノ命シタル事項ヲ執行セス又ハ公益ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ第三條ノ許可ヲ取消スコトヲ得

者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附則

本法施行ノ期日ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十四年九月勅令第二八九號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行)

本法ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケヘキ事項ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ之ヲ本法ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第十七條ノ規定ハ本法施行ノ際市町村ト瓦斯事業者トノ間ニ瓦斯事業ノ買收ニ關シ期間ノ定アルトキハ其ノ期間之ヲ適用セス

瓦斯事業法施行令(大正十四年九月二十八日勅令第二百九十九號)

第一條 瓦斯事業法第六條第二項ノ主務大臣ハ内務大臣及商工大臣トス

第二條 瓦斯事業法第六條第三項ノ規定ニ依リ瓦斯事業者ノ納付スヘキ使用料ハ同條第一項ノ管理者之ヲ定ム

前項ノ管理者不相當ナル使用料ヲ定メタルトキハ内務大臣及商工大臣ハ瓦斯事業者ノ申請ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

第三條 瓦斯事業法第十七條第一項ノ規定ニ依リ瓦斯事業ノ買收ノ認可又ハ同條第二項ノ規定ニ依リ裁定ハ内務大臣及商工大臣ニ之ヲ申請スヘシ

市町村カ前項ノ買收ヲ爲ス場合ニ於テハ瓦斯事業者ハ當該市町村ノ管轄區域外ニ互ル瓦斯事業ニシテ引置キ經營スルコト能ハサルモノ又ハ瓦斯事業ニ附帶スル設備ヲ併セ買收スヘキコトヲ當該市町村ニ對シ請求スルコトヲ得

第四條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ商工大臣ハ内務大臣ニ協議スヘシ

一 第五編 通信、交通、電氣 第三章 電氣、瓦斯

一五七

一五七

一五七

一五七

一五七

一五七

一五七

一五七

一五七

ササルトキハ其ノ者ノ負擔トス

第九條 瓦斯事業者ハ瓦斯工作物ノ修理又ハ検査ノ爲必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ工作物ヲ施設シタル他人ノ土地又ハ建造物ニ立入ルコトヲ得但シ日没ヨリ日出迄ノ間ニ於テハ占有者ノ意ニ反シテ邸宅又ハ建造物ニ立入ルコトヲ得ス

第十條 第七條及前條ノ場合ニ於テ現ニ生シタル損失ハ瓦斯事業者之ヲ補償スヘシ

前項ノ規定ニ依ル補償金額ニ付協議調ハス又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ行政官廳之ヲ裁定ス其ノ裁定ニ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

行政官廳ハ必要アリト認ムルトキハ瓦斯事業者ヲシテ損失ノ補償ニ充ツヘキ金額ヲ供託セシムルコトヲ得

第十一條 瓦斯工作物相互間及瓦斯工作物ト其ノ他ノ工作物トノ間ニ於ケル障害ヲ防止スル爲必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ規定ニ依リ爲ス工事ニ關スル費用ノ負擔其ノ他ノ事項ハ命令ヲ以テ定ムルモノノ外當事者ノ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハス又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ主務大臣之ヲ裁定ス

第十二條 瓦斯料金其ノ他命令ヲ以テ定ムル瓦斯供給條件ノ設定又ハ變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

前項ノ場合ニ於テ主務大臣ハ關係市町村ノ意見ヲ徵スヘシ

主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ瓦斯料金其ノ他瓦斯供給條件ニ關シ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

市町村ト瓦斯事業者トノ間ニ存スル事業經營ニ關スル定ニ基キ瓦斯事業者カ市町村ノ承認ヲ求メタル場合ニ於テ協議調ハサルトキハ主務大臣

者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附則

本法施行ノ期日ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十四年九月勅令第二八九號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行)

本法ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケヘキ事項ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ之ヲ本法ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第十七條ノ規定ハ本法施行ノ際市町村ト瓦斯事業者トノ間ニ瓦斯事業ノ買收ニ關シ期間ノ定アルトキハ其ノ期間之ヲ適用セス

瓦斯事業法施行令(大正十四年九月二十八日勅令第二百九十九號)

第一條 瓦斯事業法第六條第二項ノ主務大臣ハ内務大臣及商工大臣トス

第二條 瓦斯事業法第六條第三項ノ規定ニ依リ瓦斯事業者ノ納付スヘキ使用料ハ同條第一項ノ管理者之ヲ定ム

前項ノ管理者不相當ナル使用料ヲ定メタルトキハ内務大臣及商工大臣ハ瓦斯事業者ノ申請ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

第三條 瓦斯事業法第十七條第一項ノ規定ニ依リ瓦斯事業ノ買收ノ認可又ハ同條第二項ノ規定ニ依リ裁定ハ内務大臣及商工大臣ニ之ヲ申請スヘシ

市町村カ前項ノ買收ヲ爲ス場合ニ於テハ瓦斯事業者ハ當該市町村ノ管轄區域外ニ互ル瓦斯事業ニシテ引置キ經營スルコト能ハサルモノ又ハ瓦斯事業ニ附帶スル設備ヲ併セ買收スヘキコトヲ當該市町村ニ對シ請求スルコトヲ得

第四條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ商工大臣ハ内務大臣ニ協議スヘシ

一 第五編 通信、交通、電氣 第三章 電氣、瓦斯

一五七

一五七

一五七

一五七

一五七

一五七

- 一 瓦斯事業法第三條、第十六條又ハ第二十條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲サムトスルトキ
- 二 命令ノ定ムル所ニ依リ供給區域ノ變更ノ許可ヲ爲サムトスルトキ
- 三 市町村ト瓦斯事業者トノ間ニ存スル事業經營ニ關スル規定ニ關係アル事項ニ付瓦斯事業法第十二條ノ規定ニ依ル命令ヲ發シ又ハ認可、裁定其ノ他ノ處分ヲ爲サムトスルトキ
- 四 市町村ノ經營スル瓦斯事業ニ付瓦斯事業法第十二條ノ規定ニ依ル命令ヲ發シ又ハ認可其ノ他ノ處分ヲ爲サムトスルトキ
- 五 災害ノ豫防又ハ除却ノ爲瓦斯工作物ニ關シ瓦斯事業法第十三條ノ規定ニ基キ命令ヲ發シ又ハ之ニ基キ處分ヲ爲サムトスルトキ
- 六 命令ノ定ムル所ニ依リ瓦斯事業法第十五條ノ規定ニ依ル廢止又ハ休止ノ許可ヲ爲サムトスルトキ

附則

本令ハ瓦斯事業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
 瓦斯事業者カ瓦斯事業法施行ノ際現ニ河川、溝渠、道路、橋梁、堤防其ノ他公共ノ用ニ供セラルル土地ノ使用ニ關シ其ノ管理者ニ納付スル金銀ハ第二條ノ規定ニ依ル使用料ト看做ス

瓦斯事業法施行規則

(大正十四年十月一日  
 內務商工省令)

【沿革】 昭和三年七月內務省令改正

- 第一條 瓦斯事業經營ノ許可申請者ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ
- 一 起業目論見書
- 二 工事設計書

地等ヲ記載シ主要ナル導管ヲ添附スヘシ  
 ノ施設豫定線ヲ記入スヘシ  
 六 需用見込高

七 瓦斯事業以外ノ事業ヲ兼營スル場合ニ於テハ其ノ兼營スル事業ノ大要

第三條 工事設計書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 瓦斯製造所及瓦斯供給所ノ位置
- 二 瓦斯ノ發生、精製、計量、貯藏及供給ノ用ニ供スル主要ナル裝置
- 三 工事ノ著手及完了期日 工事ヲ區分シテ施行スル場合ニ於テハ其ノ區分毎ニ之ヲ記載スヘシ

第四條 瓦斯事業法第五條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケヘキ工事左ノ如シ

- 一 瓦斯ノ發生、精製若ハ供給ノ用ニ供スル主要ナル裝置(導管ヲ除ク)又ハ瓦斯溜ノ施設
- 二 高壓導管ノ施設

第五條 前條ノ工事施行ノ許可ハ其ノ種類ニ從ヒ左ノ事項ヲ具シ之ヲ商工大臣ニ申請スヘシ

- 一 瓦斯製造所及瓦斯供給所ノ位置
- 二 瓦斯ノ發生、製精若ハ供給ノ用ニ供スル裝置(導管ヲ除ク)又ハ瓦斯溜ノ配置並其ノ型式、構造及能力
- 三 高壓導管ノ内徑及配置並高壓導管ヲ通スル瓦斯ノ壓力

第六條 前條ノ工事施行ノ許可申請書ニハ工事ノ種類ニ從ヒ左ノ書類及圖面ヲ添附スヘシ

- 一 瓦斯製造所及瓦斯供給所ノ周圍百メートル以内ノ平面圖
- 二 瓦斯製造所及瓦斯供給所ノ設計圖 構内ノ主要ナル導管並構内ノ主要ナル建物ノ仕様書及構造圖
- 三 瓦斯ノ發生、製精又ハ供給ノ用ニ供スル裝置(導管ヲ除ク)ノ型式、構造、能力及主要ナル導管ノ配置並其ノ型式、構造及能力

- 三 工事費概算書(第一號様式)(瓦斯事業經營ノ許可申請ト同時ニ工本書ヲ添附スルコトヲ得)
- 四 收支概算書(第二號様式) 瓦斯事業經營ノ許可申請ト同時ニ瓦斯料書ヲ添附スルコトヲ得
- 五 他ヨリ瓦斯ノ供給ヲ受ケ瓦斯事業ヲ營ムトスル者ニ在リテハ其ノ供給者トノ契約書ノ謄本
- 六 會社發起人ニ在リテハ定款ノ謄本
- 七 會社ニ在リテハ其ノ會社ノ登記簿及定款ノ謄本、瓦斯事業經營ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ總社員ノ同意書ノ謄本並財產目錄及貸借對照表
- 八 組合ニ在リテハ其ノ契約書及瓦斯事業經營ニ關スル總組合員ノ同意書ノ謄本、財產目錄及貸借 照表
- 九 公共團體ニ在リテハ瓦斯事業經營ニ關スル其ノ議會ノ議決書ノ謄本

第二條 起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 商號又ハ名稱及主タル事務所ノ所在地
- 二 瓦斯ノ製造及供給ノ方法
- 三 一日ノ製造能力製造所毎ニ之ヲ記載スヘシ
- 四 事業資金ノ總額及其ノ出資方法 瓦斯事業以外ノ事業ヲ兼營スル場合ニ於テハ各其ノ資金ヲ區分シテ記載スヘシ
- 五 供給區域

平面圖 供給區域ノ境界、郡市區町村大字界及其ノ名稱、主要ナル市街、村落、道路、橋梁、鐵道、軌道、山川、港灣、要隘

式、構造、能力及主要寸法ニ關スル説明書

- 四 瓦斯溜ノ仕様書及構造圖
- 五 高壓導管ノ施設仕様書 載シヘシ及其ノ配置圖ヲ明示スヘシ
- 六 工事費概算書

第七條 許可ヲ受ケテ工事ヲ施行シタル瓦斯工作物使用ノ許可ハ之ヲ地方長官ニ申請スヘシ

第八條 瓦斯事業者其ノ事業ヲ開始シタルトキハ遲滞ナク之ヲ商工大臣ニ届出ツヘシ

第九條 瓦斯事業法第六條第二項ノ規定ニ依ル導管施設ノ許可申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

- 一 管理者ニ提出シタル導管施設許可申請書及管理者ノ指令書ノ謄本
- 二 管理者ノ拒否處分ヲ不當トスル理由書

第十條 瓦斯事業法施行令第二條第二項ノ規定ニ依ル使用料變更ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

- 一 管理者ノ指令書ノ謄本
- 二 管理者ノ定メタル使用料ヲ不相當トスル理由書

第十一條 瓦斯事業法第七條第二項ノ規定ニ依ル土地立入ノ許可ハ左ノ事項ヲ具シ之ヲ地方長官ニ申請スヘシ

- 一 立入ノ目的
- 二 立入ルヘキ土地ノ區域
- 三 立入ルヘキ時期及期間
- 四 所有者若ハ占有者ト協議調ハス又ハ協議ヲ爲スコト能ハサル事由
- 五 土地所有者及占有者ノ氏名及住所

前條第一號乃至第三號ノ事項ヲ記載シ且許可書ノ原本ヲ添付スヘシ  
第十三條 瓦斯事業法第七條第二項ノ規定ニ依ル導管施設ノ許可ハ左ノ  
事項ヲ具シテ之ヲ地方長官ニ申請スヘシ

一 導管ノ形狀、内徑及其ノ施設方法

二 導管施設ノ爲當該地域ノ選定ヲ必要トスル理由

三 導管施設ノ爲立入ルヘキ土地ノ區域

四 導管施設工事ノ著手時期及期間

五 土地ノ現在ノ使用方法

六 損失補償ノ見積金額及其ノ内譯

七 所有者若ハ占有者ト協議調ハス又ハ協議ヲ爲スコト能ハサル事由  
八 土地所有者及占有者ノ氏名及住所

前項ノ申請書ニハ導管ノ配置圖ヲ添付スヘシ

第十四條 瓦斯事業法第七條第三項ノ規定ニ依ル導管施設ノ通知書ニハ  
前條第一號乃至第四號ノ事項ヲ記載シ且許可書ノ原本ヲ添付ス  
ヘシ

第十五條 瓦斯事業法第七條又ハ第九條ノ規定ニ依ル他人ノ土地若ハ建  
造物ニ立入り又ハ他人ノ土地ニ導管ヲ施設セムトスル者ハ其ノ證票ヲ  
携接スヘシ

前項ノ證票ハ土地又ハ建築物ノ管理者ノ請求アリタルトキハ之ヲ呈示  
スヘシ

第十六條 瓦斯事業法第八條第一項ノ規定ニ依ル導管ノ位置ノ變更其ノ  
他土地使用ニ對スル障害ノ豫防又ハ除却ニ必要ナル施設ノ請求書ニハ  
左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 瓦斯引用ノ工事費ノ全部又ハ一部ヲ需用者ニ負擔セシムル場合ニ  
於テハ其ノ金額

二 瓦斯「メートル」其ノ他瓦斯ノ使用ニ必要ナル器具ノ貨賃料

第十七條 瓦斯料金又ハ前條ノ瓦斯供給條件ノ設定又ハ變更ノ認可申  
請書ニハ其ノ設定又ハ變更ノ計算ノ基礎ヲ明ニスヘキ書類ヲ添付スヘ  
シ

第十八條 瓦斯ノ成分ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 硫化水素含有ノ反應ヲ呈セサルコト

二 硫黄含有量ハ十立方メートル中五グラム以下ナルコト

三 「アムモニア」含有量ハ十立方メートル中二グラム以下ナルコト

第二十五條 無臭ノ瓦斯ニハ其ノ漏洩ヲ覺知シ易カラシムル爲臭氣ヲ附  
スヘシ

第二十六條 瓦斯ノ壓力及熱量ハ商工大臣ノ認可ヲ受ケ且之ヲ公示スヘ  
シ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

前項ノ壓力及熱量ハ需用者ノ「瓦斯「メートル」」ノ出口ヲ標準トシテ之ヲ  
表示スヘシ

第二十七條 天災、工事其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ前條ノ規定  
ニ依リ公示シタル壓力又ハ熱量ヲ維持スルコト能ハサルトキハ瓦斯事  
業者ハ遲滞ナク其ノ事由、區域、期間及其ノ變更スル瓦斯ノ壓力又ハ熱  
量ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ壓力又ハ熱量ヲ維持スルコト能ハサルコトヲ豫知シ  
得ルトキハ瓦斯事業者ハ豫メ之ヲ關係需用者ニ周知セシムヘシ

第五編 通信、交通、電氣 第三章 電氣、瓦斯

一 請求ノ目的及理由

二 土地ノ現在ノ使用方法及變更スヘキ使用方法並使用方法變更ノ時  
期

第十七條 瓦斯事業者瓦斯事業法第八條第一項ノ請求ヲ受ケタルトキハ  
其ノ請求ニ應スルヤ否ヤヲ遲滞ナク請求者ニ通知スヘシ

瓦斯事業者請求ニ應スル場合ニ於テハ瓦斯事業法第八條第二項ノ規定  
ニ依リ請求者ノ負擔スヘキ費用ノ擔保トシテ施設費見積額ニ相當スル  
金額ヲ其ノ施設者手前ニ供託スヘキコトヲ請求スルコトヲ得

第十八條 瓦斯事業者瓦斯事業法第八條第一項ノ規定ニ依リ請求セラレ  
タル施設ニ著手シタルトキ及之ヲ完了シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ  
請求者ニ通知スヘシ

瓦斯事業法第八條第一項ノ規定ニ依リ請求ヲ爲シタル者其ノ土地ノ使  
用方法ノ變更ニ著手シタルトキ及之ヲ完了シタルトキハ遲滞ナク其ノ  
旨ヲ瓦斯事業者ニ通知スヘシ

第十九條 瓦斯事業法第十條第二項ノ規定ニ依リ裁定ヲ受ケムトスル者  
ハ左ノ事項ヲ具シタル申請書(正副二通)ヲ地方長官ニ提出スヘシ

一 申請人及相手方ノ氏名又ハ名稱及住所

二 申請ノ目的及理由

地方長官申請書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ相手方ニ送付シ其ノ指  
定ノ期間ニ答辯書ヲ差出サシムヘシ

指定ノ期間内ニ答辯書ヲ差出ササルトキハ地方長官ハ申請書ノミニ依  
リ裁定ヲ爲スコトヲ得副本ノ送付ヲ爲スコト能ハサルトキ亦同シ

第二十條 裁定書ニハ理由ヲ附シ地方長官之ヲ當事者雙方ニ送付スヘシ

第二十一條 瓦斯事業法第十二條第四項及第十七條第二項ノ規定ニ依  
リ

第二十八條 瓦斯事業者ハ一週一回以上成分ノ試験ヲ、一日一回以上壓  
力及熱量ノ測定ヲ行フヘシ

前項ノ壓力及熱量ヲ測定スヘキ場所ハ商工大臣之ヲ定ム

第二十九條 左ノ事項ハ商工大臣之ヲ告示ス

一 成分試験ノ方法及裝置ノ型式

二 壓力測定ノ方法及裝置ノ型式

三 熱量測定ノ方法及裝置ノ型式

第三十條 水性瓦斯其ノ他間歇的瓦斯製造裝置ニハ「レリーフホールダ  
ー」其ノ他適當ナル緩衝裝置ヲ施設スヘシ

第三十一條 各瓦斯製造所ノ發生精製裝置ヨリ直接瓦斯ヲ送入スル瓦斯  
溜(「レリーフホールダー」ヲ除ク)ノ總容量ハ其ノ一日ノ製造能力ノ二  
分ノ一以上タルヘシ

商工大臣ハ瓦斯ノ供給ニ支障ナク且保安上危險ノ虞ナシト認ムルトキ  
ハ前項ノ瓦斯溜ノ總容量ニ關スル制限ニ依ラサルコトヲ許可スルコト  
アルヘシ

第三十二條 瓦斯溜ニハ瓦斯放出裝置ヲ施設スヘシ

第三十三條 瓦斯發生爐又ハ瓦斯溜ヲ施設セムトスルトキハ其ノ外側ヨ  
リ左ノ距離ヲ有セシムヘシ

一 宮城、離宮、御用邸又ハ神宮(四百メートル以上)

二 皇陵、社寺、公園、學校、病院、劇場其ノ他多衆ヲ收容スヘキ建造物  
(百メートル以上)

瓦斯發生爐又ハ瓦斯溜ハ其ノ外側ヨリ前項ニ掲グル工作物及人家(十  
メートル以上)ノ距離ヲ保有スヘシ

商工大臣ハ所在地又ハ設備ノ狀況ニ依リ危險ノ虞ナシト認ムルトキハ  
前二項ニ定ムル距離ノ短縮ヲ許可スルコトアルヘシ

第三十四條 瓦斯製造所ニハ豫備排送裝置ヲ施設スヘシ

第三十五條 導管ニハ適當ナル區劃ニ對シ瓦斯ノ供給ヲ遮斷スル爲必要ナル裝置ヲ施設スヘシ

瓦斯事業者ハ瓦斯供給中火災其ノ他非常ノ場合ニ際シ危險アリト認めルトキハ其ノ供給ヲ遮斷スヘシ

第三十六條 一日五萬立方メートル以上ノ製造能力ヲ有スル瓦斯製造所ニ依リ瓦斯ノ供給ヲ受クル區域内ニ在リテハ内徑百ミリメートル以上

其ノ他ノ場合ニ在リテハ内徑五十ミリメートル以上ノ低壓導管(建物ノ内ニテ除ク)ヲ施設シ又ハ之ヲ變更シタル場合ニ於テハ瓦斯事業者ハ其ノ配置圖導管ノ内徑及遮斷裝置ヲ添ヘ三月毎ニ取置メ之ヲ商工大臣ニ届出ツヘシ

第三十七條 商工大臣ハ瓦斯ノ供給ニ支障ヲ來ササル爲又ハ災害ノ豫防若ハ除却ノ爲必要アリト認めルトキハ瓦斯事業者ニ對シ瓦斯管其ノ他瓦斯工作物ニ關シ其ノ施設、變更其ノ他必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得ヘシ

地方長官ハ危險急迫ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ラス保安上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第三十八條 瓦斯事業ノ廢止又ハ一月以上ノ休止ノ許可ハ其ノ事由、區域及休止ノ期間ヲ具シ之ヲ商工大臣ニ申請スヘシ

瓦斯事業ノ一月未満ノ休止ノ許可ハ其ノ事由、區域及期間ヲ具シ之ヲ地方長官ニ申請スヘシ

前二項ノ許可ヲ受ケタルトキハ瓦斯事業者ハ豫メ之ヲ關係需用者ニ周知セシムヘシ

天災、工事其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ瓦斯ヲ供給スルコト能ハサル場合ニ關シテハ第二十七條ノ規定ヲ準用ス

第三十九條 瓦斯事業讓渡ノ許可申請書ハ左ノ書類ヲ添附シ當事者連署ノ上之ヲ提出スヘシ

一 讓渡契約書ノ謄本

二 讓渡人又ハ讓受人カ會社ナル場合ニ於テハ讓渡ニ關スル株主總會ノ決議録又ハ總社員ノ同意書ノ謄本、組合ナル場合ニ於テハ讓渡ニ關スル總組合員ノ同意書ノ謄本

三 讓受人カ會社發起人ナル場合ニ於テハ定款ノ謄本

四 讓受人カ瓦斯事業者ニ非サル會社ナル場合ニ於テハ定款及會社登記簿ノ謄本、財産目錄及貸借對照表

五 讓受人カ組合ナル場合ニ於テハ第二號ニ掲ケル書類ノ外其ノ契約書ノ謄本、財産目錄及貸借對照表

六 讓渡人又ハ讓受人カ公共團體ナル場合ニ於テハ讓渡ニ關スル其ノ議會ノ議決書ノ謄本

第四十條 瓦斯事業ノ讓渡終了シタルトキハ遲滞ナク當事者連署ノ上之ヲ商工大臣ニ届出ツヘシ

第四十一條 瓦斯事業者ヲ營ム會社ノ合併ニ付テハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第四十二條 瓦斯事業者ヲ營ム會社ノ解散ノ許可申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ且解散ニ關スル株主總會ノ決議録又ハ總社員ノ同意書ノ謄本ヲ添附スヘシ

第四十三條 瓦斯事業法第十七條第一項ノ規定ニ依リ瓦斯事業買收ノ認可申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 買收目的ノ範圍ニ關スル調査

二 買收價格ノ算出及買收代金ノ支拂ニ關スル説明書

第四十四條 商工大臣ハ主任技術者カ其ノ職務ヲ怠リ又ハ其ノ職務ヲ行フニ不當ナル行爲アリト認めルトキハ其ノ解任ヲ命スルコトヲ得

第四十九條 瓦斯事業者供給區域又ハ高壓導管ヲ通スル瓦斯ノ壓力ヲ變更セムトスルトキハ商工大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第五十條 瓦斯事業者(公共團體タル瓦斯事業者ヲ除ク)ハ毎事業年度經過後遲滞ナク財産目錄、貸借對照表、營業報告書及損益計算書ヲ商工大臣ニ提出スヘシ

第五十一條 瓦斯事業者ハ瓦斯供給規程ヲ定メ之ヲ商工大臣ニ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第五十二條 瓦斯事業者ハ業務ノ狀況ニ關シ報告書(第三號様式)ヲ作製シ之ヲ商工大臣ニ提出スヘシ

第五十三條 左ノ場合ニ於テハ瓦斯事業者ハ遲滞ナク之ヲ商工大臣ニ届出ツヘシ

一 會社成立シタルトキ

二 會社ノ取締役、監査役ヲ選任シ又ハ代表社員ヲ定メタルトキ

三 會社ノ定款又ハ組合契約ヲ變更シタルトキ

四 主たる事務所以外ニ營業所又ハ事務所ヲ設置シ又ハ變更シタルトキ

五 第二條第一號乃至第四號ニ規定スル事項ヲ變更シタルトキ

六 他ヨリ瓦斯ノ供給ヲ受クル契約ヲ爲シタルトキ又ハ之ヲ變更若ハ解消シタルトキ

七 瓦斯事業以外ノ事業ヲ兼營スルニ至リタルトキ又ハ瓦斯事業以外ノ事業ノ兼營ヲ廢止スルニ至リタルトキ

八 公共團體ト事業經營ニ關スル定ヲ爲シタルトキ又ハ之ヲ變更シタルトキ

第五十四條 瓦斯事業法、瓦斯事業法施行令又ハ本則ノ規定ニ依リ商工大臣又ハ内務大臣及商工大臣ニ提出スル書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ但シ二府縣以上ニ關スル事項ニ付テハ主トシテ關係ヲ有スル地方官ニ經由スル地方長官ヲ經由シ別ニ其ノ副本ヲ關係地方長官ニ提出スヘシ

第五十五條 本則中地方長官トアルハ東京府ニ在リテハ第十一條、第十三條、第十九條及第二十條ヲ除ク外警視總監トス但シ第五十四條ニ在リテハ瓦斯事業法第六條第二項、第十二條第四項及第十七條並瓦斯事業法施行令第二條第二項ノ規定ニ依リ許可、認可、裁定其ノ他ノ處分ノ申請ニ關シテハ東京府知事、瓦斯事業法第三條、第十五條及第十六條ノ規定ニ依リ許可ノ申請ニ關シテハ東京府知事及警視總監トス

第五十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス  
一 第二十四條、第二十五條、第二十八條第一項、第三十五條第二項又ハ第五十一條ノ規定ニ違反シタル者  
二 第三十七條ノ規定ニ依ル處分ニ違反シタル者

附則  
第五十七條 本則ハ瓦斯事業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
第五十八條 瓦斯事業法施行ノ際現ニ存スル瓦斯事業者ハ許可ヲ受ケ瓦斯事業法施行ノ日ヨリ六月ヲ限リ第二十四條ノ制限ニ依ラサルコトヲ得  
第五十九條 瓦斯事業法施行ノ際現ニ存スル瓦斯事業者ハ瓦斯事業法施行ノ日ヨリ六月以内ニ第二十六條ノ認可ヲ申請スヘシ

第六十條 瓦斯事業法施行ノ際現ニ存スル瓦斯事業者ニ付テハ同法施行ノ日ヨリ六月間ハ第二十五條及第二十八條ノ規定ヲ適用セス

第六十一條 瓦斯事業法施行ノ際現ニ存スル瓦斯工作物ニ付テハ同法施行ノ日ヨリ五年内ニ於テ商工大臣ノ許可ヲ受ケタル期間ハ第三十條、第三十一條及第三十三條第二項ノ規定ヲ、同法施行ノ日ヨリ六月間ハ第三十二條、第三十四條及第三十五條第一項ノ規定ヲ適用セス

第六十二條 第五十八條及前條ノ規定ニ依リ許可申請書ハ瓦斯事業法施行後一月内ニ之ヲ商工大臣ニ提出スヘシ

第六十三條 瓦斯事業法施行ノ際現ニ存スル瓦斯事業者ニ付テハ同法施行ノ日ヨリ二年間第四十四條ノ規定ヲ適用セス

第六十四條 瓦斯事業法施行ノ際現ニ存スル瓦斯事業者ハ瓦斯事業法施行後遲滞ナク左ノ事項ヲ商工大臣ニ届出ツヘシ

一 第二條第一號乃至第四號及第七條ニ掲グル事項

二 第五條ニ掲グル事項

三 瓦斯料金及第二十二條ノ瓦斯供給條件

四 會社ノ取締役及監査役ノ氏名

五 會社ノ定款ノ謄本

六 主タル事務所以外ノ營業所又ハ事務所ノ所在地

七 公共團體トノ間ニ存スル事業經營ニ關スル定

八 瓦斯供給規程

第六十五條 瓦斯事業法施行ノ際現ニ存スル瓦斯事業者ハ第一條第五號、第二條第五號、第六條第二號乃至第五號及第三十六條ニ掲グル書類及圖面ヲ同法施行後遲滞ナク商工大臣ニ提出スヘシ

(様式略)

昭和七年四月廿日印 刷  
昭和七年四月卅日四版發行

著作  
所權  
有

發行所

帝國行政學會

東京市麻布區我善坊町五〇番地  
電話青山 七九〇八番  
振替東京六一九三番

加除 現行法令輯覽 付 (非賣品)

編輯者 河野信一

發行所 東京府豊多摩郡野方町字新井二二五番地

發行者 河野虎雄

東京市芝區神明町二五番地

印刷者 袴田銈助

東京市芝區神明町二五番地

印刷所 帝國行政學會印刷所

電話芝七八三番

東京府豊多摩郡野方町新井二二五番地

